静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

平成 25 年 11 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに 1

【報告編】

Ⅰ　平成 25 年度　静岡県立美術館第三者評価委員会の報告 5

１　平成 24 年度「静岡県立美術館自己評価結果表」（一次評価）に対する二次評価 6

２　「県庁の支援体制」に対する一次評価 8

３　今後の評価の進め方についての意見 9

【資料編】

Ⅱ―１　平成 24 年度「静岡県立美術館自己評価報告書」（一次評価） 11

第１章　総括的評価 15

第２章　達成目標等に対する評価 17

第３章　今後の取組 32

参考資料１　展覧会に関する自己点検評価報告書 41

参考資料２　平成 24 年度　調査・研究に関する自己点検評価報告書 48

Ⅱ―２　平成 24 年度　静岡県立美術館評価業務 報告書 58

Ⅲ　県庁の支援体制 128

１　平成 24 年度実績 129

２　平成 25 年度方針 131

Ⅳ　今後の評価の進め方（案） 132

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成 18 年９月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の本委員会の活動としては、平成 25 年８月に会合を開き、平成 24 年度の美術館自己評価に対する二次評価、県庁の支援体制に対する一次評価、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書では、今年度より最初に本委員会の報告をⅠとして掲載し、評価のための資料となる美術館が自ら行った自己評価（一次評価）をⅡ－１、自己評価の参考資料となる評価業務報告書をⅡ－２に、県庁の支援体制に関して県庁から提出された資料をⅢに、また、今後の評価の進め方について県庁から示された案を資料Ⅳとして掲載しました。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを期待します。

平成 25 年 11 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長　木下　直之

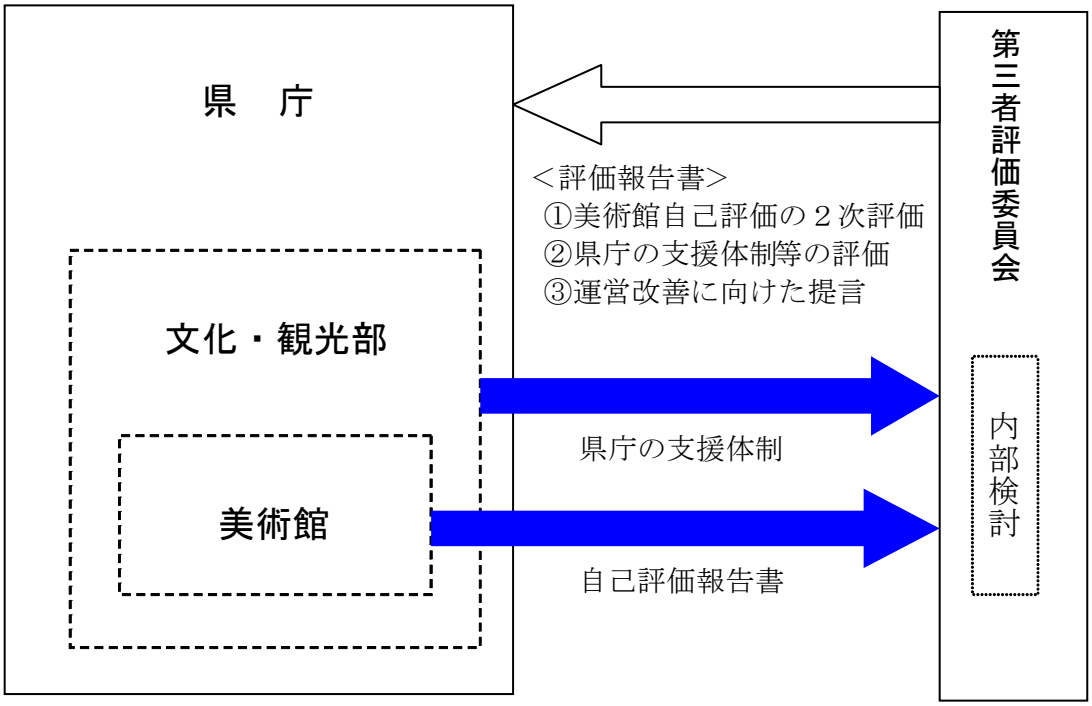
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役　　職
委員長	木下（きのした）　直之（なおゆき）	東京大学大学院教授
委員	金原（きんぱら）　宏行（ひろゆき）	常葉美術館館長、豊橋市美術博物館館長
〃	佐々木（ささき）秀彦（ひでひこ）	東京都美術館交流係長
〃	西（にし）　雅寛（まさひろ）	協立電機株式会社代表取締役社長
〃	村井（むらい）　良子（よしこ）	有限会社プランニング・ラボ代表
〃	村田（むらた）　眞宏（まさひろ）	愛知県美術館館長
〃	山口（やまぐち）　裕美（ゆみ）	山口裕美ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰｱｰﾄﾗﾎﾞ代表

平成 25 年度の活動

会議名等	内容等
第 1 回第三者評価委員会	日時：平成 25 年 8 月 13 日（火）13:15～15:30 会場：静岡県立美術館　講座室 内容：（１）平成 24 年度の取組に対する評価 （２）今後の評価の進め方

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

（設置）

第１条　静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、次に掲げる事項を所管する。

（１）美術館の自己評価に対する２次評価

（２）県庁の支援体制等に関する評価

（３）評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言

（４）その他、この委員会の目的達成に関すること

（委員）

第３条　委員は、知事が委嘱する。

２　委員の人数は、10名以内とする。

３　委員の任期は２年とする。ただし、再任は妨げない。

（委員長）

第４条　委員会に、委員長１人を置く。

２　委員長は、知事が指名する。

３　委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

（会議）

第５条　委員会は、委員長が招集する。

２　委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

３　委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

４　委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

（事務局）

第６条　委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県県民部文化政策室内に置く。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附　則

１　この要綱は、平成18年９月21日から施行する。

２　この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第３条第３項の規定にかかわらず、平成20年３月31日までとする。

【報告編】

Ⅰ

平成 25 年度 静岡県立美術館第三者評価委員会の報告

１　平成 24 年度「静岡県立美術館自己評価結果表」（一次評価）に対する二次評価

２　「県庁の支援体制」に対する一次評価

３　今後の評価の進め方についての意見

1　平成 24 年度「静岡県立美術館自己評価報告書」（一次評価）に対する二次評価

平成 24 年度の達成目標等に対する二次評価

４つの運営基本方針の達成状況について二次評価を行い、その評価結果と今後に向けた提言についてとりまとめた。

運営基本方針 A:　人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を開催します

・色をテーマとした「静岡県立美術館名品展　カラーリミックス」は、名称が新鮮であり、若い人の来館に結びつく結果となったことは評価に値する。
・「維新の洋画家　川村清雄」展は、テレビのパブリシティ効果で、新規来館者（1 度美術館に来てみたかった層、静岡県東部の住民など）を呼び込むことができた。今後は、他の事業でも、効果的にパブリシティを活用し、非利用者の利用度を高めることは、県立美術館としての責務である。課題解決に向けた方策を次期中長期計画で盛り込んでほしい。
・東京都江戸東京博物館と連携した「維新の洋画家　川村清雄」展について、図録がカタログ大賞を受賞するなど、連携による成果が生まれたことを評価したい。
・単純な数字だけでは図れない、目的の達成の状況についてもきちんと自己評価すべきである。
・展覧会評価の重要な指標である、図録のコンセプトや成果についてもきちんと検証すべきである。
・他の美術館との連携については、どこと連携してどういうことが可能となったかというのが非常に重要な問題であり、綿密な検証が求められる。
・県立美術館のコレクションについては、静岡ならではの切り口で積極的にアピールをしていくべきであり、県民の意識の中でどのように共有され、どう育てられていくかを重視すべきである。
・コレクションの新規購入については、今後 100 年先を見据え、若いアーティストの作品を積極的に購入することも検討すべきである。
・観覧者数にとらわれず、県民を美術の優れた鑑賞者として育てていくことが静岡県立美術館に求められる役割である。
・開館 30 周年というのは美術館にとって大きな転機となる。30 周年に向けてどう動き出すのかという方針を打ち出すべきである。例えば、現代アートを主軸のひとつに置く事業方針を打ち立てることをぜひ検討してほしい。

運営基本方針Ｂ:地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

・人員の変動により、教育普及の内容をどのように変えていくのか、方針を明らかにするべきである。
・美術館が行うオペレーションについて、民間企業を活用するシステムを作ったらどうか。
・県立美術館友の会を受け皿とするなど、県民や民間企業からの寄附受入れを積極的に行うべきである。静岡県立美術館が、寄附をしやすい公立美術館のモデルとなることを期待する。
・地域企業との連携を一層進めるため、企業の所有する美術品の借用や、ロダン館を企業に貸し出したりするなどの取組を進めたらどうか。

運営基本方針Ｃ: さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

・アンケート対象企画展について、新しい切り口で行った企画展や、マスコミ共催で行った企画展などを選択したほうが、より多岐に渡った分析や様々な情報が得られるのではないか。
・ホームページへのアクセス件数について、目標の設定に疑問がある。過去の実績に基づいた合理的な目標数値を示す必要がある。
・ＳＮＳの活用を推進するべきである。ツイッターやフェイスブック利用者を歓迎するようなムードを作り出し、作品を含めて多くの情報が流れるような話題づくりを行うべきである。
・現在の利用者の多くは静岡市内を中心とした中部地域の住民の方々が多い。県立美術館として、県全域にどう活動を展開し、多様な利用形態を普及・浸透させていくかが大きな課題となっている。これまでの情報発信型から転換が必要な時期に来ている。次期中長期計画では、方針を打ち立て、大胆な戦略に出てほしい。
・ロダン館の今後の活用について、ロダンの影響を受けた作家の作品を展示するなど、新しい切り口での取組を期待する。
・来館したことがある人でも、ロダン館があることを知らない人もいる事実を重く捉え、館外への発信と並行して、館内での告知・周知策をソフト・ハードの両面から手厚く行うべきである。

運営基本方針Ｄ: 施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます。

・利用者数等の目標の設定の仕方を見直すべきである。例えば、県民ギャラリーのように入場者数を自分たちの努力でコントロールできないものについて目標数値を設定すべきではない。
・美術館職員のモチベーションを高めたり、評価システムに対する信頼性を担保するためにも実情にあった適正な数値目標を設定するべきである。

2 「県庁の支援体制」に対する一次評価

庁内との連携について

・県職員に対して、ボーナス時期に合わせて会員の勧誘を行ったという取組は、特に男性の来館者増加促進のため効果的であり評価できる。

評価システムについて

・「評価システム推進委員会」という名称は、活動内容に見合った名称に変更すべきである。
・評価システムそのものの検証は既に行われてきており、評価を受けて、どう改善するのかを検討する委員会となるべきである。

今後の美術館運営について

・県庁の策定する第３期文化振興基本計画と、美術館の策定する中長期計画により「美術館の目指す姿」が導き出される。美術館があるということが誇りになる、シビック・プライドについて、美術館と県庁がコミュニケーションをとって真剣に考えるべきである。
・30 年というのは美術館にとって節目の年であり、文化振興戦略の中で美術館の設置・運営について改めて考えるべき時期である。
・文化振興基本計画の策定にあっては、文化財保護の観点も重要である。美術館には埋蔵文化財の成果を情報発信するという役割も求められている。

3　今後の評価の進め方についての意見

全体について

・まず次期中長期計画を策定し、それに基づく事業評価ができるよう改善を図るべきである。
・開館30周年を迎える美術館として、メリハリのある中長期計画を策定することを期待する。

ガバナンス評価について

・ガバナンスの立場からの役割を明確に打ち立てるため、ガバナンスに関する評価指標に「中長期計画を策定し、年度ごとの役割を明確にする」ことを加えるべきである。

評価シートについて

・個別シートに関しては、計画の部分に具体的な取組について記載し、計画が妥当であったか、目標の設定やターゲットがどうであったかの全体像を一枚で分かるようにした方がよい。
・総括表に関しては、単に個別シートの内容を取りまとめるのではなく、総合的な観点からの評価を記載するべきである。
・総括表では、使命、目標の達成度、基本方針や取り組み方針の３つの観点から総括的に自己評価を行うことを求める。ただし、次期中長期計画の枠組みが変わった際にはそれに準じて、大きな評点を定めるべきである。
・段階評価については４～５段階で行うのがよいのではないか。ただし、数字による段階評価だけではなく、内容を言葉で補足することが必要である。

【資料編】

Ⅱ－1

平成 24 年度

「静岡県立美術館自己評価報告書」（一次評価）

第１章　総括的評価

第２章　達成目標等に対する評価

第３章　今後の取組

参考資料１

展覧会に関する自己点検評価表

参考資料２

平成 23 年度調査・研究に関する自己点検評価報告書

はじめに

静岡県立美術館では、美術館をとりまく環境が大きく変化する中で、時代の要請に適った公立美術館の実現を目指し、客観的な評価システムの構築とそれに基づく自律的な運営改善に取り組んできた。

平成13年度に職員によるワーキンググループを設置して評価指標に関する検討を開始し、平成15年7月には評価システムの構築に向けて、「静岡県立美術館評価委員会」（高階秀爾委員長）を設置し、本格的な検討を行った。

「静岡県立美術館評価委員会」による平成16年3月の中間報告書「ニューパブリックミュージアム（ＮＰＭ）の実現をめざして」、平成17年４月の最終提言書「評価と経営の確立に向けて」の２つの提言を踏まえて、県立美術館では、戦略計画方式による自己評価システム（通称:ミュージアム・ナビ）を構築し、平成17年7月から運用を開始した。

また、平成18年９月には、美術館の自己評価に対する２次評価を行う「静岡県立美術館第三者評価委員会」を設置し、評価結果を運営改善につなげる評価の体制を整えた。これまでの自己評価報告書をはじめ、評価に関する資料はすべてホームページ等を通じて情報公開を行っている。

以降、評価指標や取組方針などの見直しを行いながら評価システムの改善に努めてきたが、さらに平成24年度にはガバナンス評価に関するワーキングを行う過程で美術館運営のあり方についても検証を行ったところである。

本報告書は、まず第１章において、館長による全体的な自己評価結果を示した上で、第２章で、４つの運営基本方針それぞれについて、評価指標による達成目標等の実績に基づいて自己評価を行った結果を記載している。第３章では、これらの自己評価結果を踏まえた平成25年度以降の取組について記載している。

皆様には、静岡県立美術館のより一層の業務改善と適切な評価システムの構築に向けた御意見・御提案をいただければ幸いである。

静岡県立美術館 自己評価システムの全体像

（平成 23 年度～平成 25 年度）

【使 命】 ＝美術館のめざす姿

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、コレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります

＜自己評価の流れ＞

目標管理システム＝Ｐ計画→Ｄ実行→Ｃ評価→Ａ改善のサイクルによる運用

Plan（計画）

（システムの体系）

【運営基本方針】
＜４項目＞
中長期的な経営課題への取組方針・目標を設定

【重点目標】
＜計 11 項目＞
運営基本方針実現のために取り組むべき項目を運営基本方針ごとに設定

【評価指標】
＜34 項目＞
（定量的指標：28
定性的指標：6）
重点目標の目指す水準や達成状況を評価するための指標。

（当該年度）

【取組方針】
当該年度の重点的な取組の方針を【取組方針】として明確化

【実施計画】
当該年度に実施する具体的な内容を、重点目標ごとに【実施計画】として整理

【達成目標】
【評価指標】それぞれの項目について、当該年度に目指す水準を数値で設定

【総括的評価】
当該年度の取組方針に対する評価（館全体の総括的評価）

【達成目標等に対する評価】
当該年度に実施した内容について、達成目標等の実績を踏まえて評価（重点目標ごとに評価・記載）

Do（実行） → **Check（評価）** → **Action（改善）**

＜推進体制＞

美術館協議会
諮問機関
（経営ボード的役割）
学識経験者、
企業経営者等

報告・諮問 →
← 意見・承認

静岡県立美術館
館長
企画運営会議
館長、副館長、学芸部長、
総務課長、学芸課長

報告・調整 →
← 支援・調整

文化・観光部
県庁の支援方針
他部局等との連携

＜協力体制＞

・地域、企業、NPO、大学等との連携
・「ムセイオン静岡」による文化施設 6 機関連携
・「有度山フレンドシップ協定」5 施設の連携
・草薙ツアーグループ他ボランティアによる地域貢献

自己評価システムの体系

（平成 23 年度～平成 25 年度）

使　命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。
そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1	展覧会の来館者数
				2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
				3	作品やテーマに興味を持った人の割合
				4	展覧会における新規来館者の割合
				5	展覧会に対する外部評価　【定性】
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	6	調査研究の発表回数
				7	内部セミナー・研究会・研修の回数
				8	他の美術館や大学と連携した取組件数
				9	調査研究に関する外部評価【定性】
		3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	10	収蔵品展の観覧者数
				11	収蔵品の公開件数
				12	作品購入件数・価格
				13	作品寄贈件数・価格
				14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	15	学校教育と連携した取組数
				16	鑑賞系プログラム数
				17	コレクションを活用したプログラム数
				18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	19	講演会等の開催件数
				20	学芸員のフロアレクチャー等の数
		3	地域住民、企業、NPO 等と連携した美術館活動を充実します	21	地域住民等と連携した取組数
				22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				23	地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				25	ホームページのアクセス件数
				26	ホームページの満足度
		2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
				28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
		3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	29	ロダン館の入館者数
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	30	美術館利用者数
				31	鑑賞環境に対する満足度
				32	レストラン・カフェに対する満足度
				33	ミュージアムショップに対する満足度
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	34	来館者のアクセス満足度

第１章　総括的評価

第１章では、平成 24 年度の静岡県立美術館の運営全体について、「平成 24 年度取組方針」に基づいて総括的な評価を行った。

１　取組方針に対する評価

平成 24 年度は、以下６点を取組方針として重点的な取組を行った。

① 他館との連携強化による企画展の充実
② コレクションを活用した企画展の開催
③ 教育普及活動の充実
④ 企業等との連携についての検討
⑤ 効果的な広報の実施とロダン館の PR に向けた取組
⑥ 施設の改善に向けた検討

取組方針別の具体的な成果を以下に示す。

＜運営基本方針Ａ：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します＞

① 他館との連携強化による企画展の充実

国立西洋美術館と連携し、フランス・ヴァランス美術館のコレクションを活用して、日本初のユベール・ロベールの回顧展を開催した。また東京都江戸東京博物館との共同企画により静岡県や徳川家等とも関係の深い「維新の洋画家　川村清雄」展を開催した。

② コレクションを活用した企画展の開催

今年度は、コレクションを核とした企画展を３本開催した。

①「静岡県立美術館名品選　カラーリミックス-若冲も現代アートも-」
色をテーマとして、当館のコレクションを新たな切り口で再編し紹介する企画展を開催し、若年者層に対して美術作品の魅力を伝えた。

②「日本油彩画　200 年-西欧への挑戦」展
当館所蔵の油彩画コレクションを核として、他の公立美術館から一部作品を借用して、日本人と油彩画の長くて深い関係を作品で検証した。

③「江戸絵画の楽園」展
当館コレクションと個人コレクター所蔵作品のコラボレーションにより、江戸時代の美術品を「屏風」「軸」「巻子」等、日本美術独自の形をテーマとして紹介した。

＜運営基本方針Ｂ：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します＞

③ 教育普及活動の充実

エントランスホールでの「ちょこっと体験」をはじめとして、事業主体を従来の実技系プログラムから鑑賞系プログラムに移行し、鑑賞者に対する作品理解を深めることに努めた。

市内各美術館との連携による「キッズ・アート・プロジェクト」を実施し、子供の美術館来館を促進するとともに、作品の鑑賞理解を深めることに努めた。

④ 企業等との連携についての検討

日本平ホテルと静岡県立美術館、静岡県舞台芸術センター(SPAC)との「フレンドシップ協定」の締結により、企業及び他の文化施設等との連携を強化し、利用者の利便性の向上を図った。

＜運営基本方針Ｃ：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます＞

⑤ 効果的な広報の実施とロダン館の PR に向けた取組

北海道大学大学院・佐々木亨教授の協力を得て、当館に未だ来館したことのない方々の調査「未来館者調査」を実施し、その動向を把握するとともに、未来館者に対する有効な広報の促進や美術館に対する誇り(シビック・プライド)を向上させるための検討会を開催した。

ロダン館の周知と鑑賞理解を深めるために、「学芸員によるフロアレクチャー」や「ロダンの塗り絵」等、様々なプログラムを実施した。

＜運営基本方針Ｄ：常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます＞

⑥ 施設の改善に向けた検討

利用者満足度において課題のあった「カフェ・ロダン」をリニューアルし、店内の内装やメニューを刷新するとともに、オープニング・イベントとして音楽コンサートを実施した。

また平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 3 月 30 日まで、ロダン館を閉館し、ロダン館の雨漏り防止のための修繕工事を実施した。

その他、館内各所の施設改善に取り組んだところである。

第２章　達成目標等に対する評価

第２章では、４つの運営基本方針に基づいて実施した内容について、評価指標の実績を踏まえて自己評価を行った結果を記載した。

自己評価システムでは、４つの運営基本方針を実現するために取り組むべき項目を具体化した「重点目標」を設定した上で、重点目標それぞれについて、達成状況を評価するための評価指標（＝**「達成目標」**）を設定している。

したがって、以下では、重点目標を単位に、達成目標の実績、定性的評価指標の状況を記載した上で、その重点目標の達成状況全体に対する自己評価を記載した。

１　運営基本方針Ａの達成状況

【運営基本方針Ａ】
人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を催します

(1) 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
1	展覧会の来館者数(人)	266,786	119,416	128,326	170,000	163,533
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数（回）	3	2	4	4	5
3	作品やテーマに興味を持った人の割合（%）	85.2	80.9	85.7	88.0	88.7
4	展覧会における新規来館者の割合（%）	21.5	21.4	15.7	20.0	19.5

（定性的指標の状況）

評価指標 5	展覧会に対する外部評価（レヴュー）
主な状況	【カラーリミックス展】〈自主企画展〉 時代やジャンルを横断した展示は新鮮で、寄託品も含めたコレクションの見せ方として効果をあげている。(金原委員) 多様なコレクションが蓄積されてきたことこそが評価される。「色彩」というテーマは分かりやすくはあるが、鑑賞者の知的欲求を満たす掘り下げが欲しかった。(潮江委員) 【日本油彩画　２００年展】〈自主企画展〉 コンパクトながらよくまとまっており、コレクションの蓄積と調査研究が反映された企画として評価できる。(金原委員) 油彩による風景表現の変遷が示されたこと、川村清雄らの作品も加えたことにより、独自性のある展覧会となった。また、収蔵品展との関連性が高く評価できる。(山梨委員) 【ユベール・ロベール展】〈参加型企画展〉 日本では初めてとなる規模の回顧展であり、背景となる同時代の動向も含めて示されていた点が評価できる。論文は充実しており学術的にも優れている。(坂本委員) まとまって紹介される機会のなかった作家の、先駆的な展覧会として高く評価できる。風景表現をテーマとする静岡県美に相応しく、内容も非常に充実していた。(潮江委員)

	【江戸絵画の楽園展】（自主企画展） コンセプトが明快であり、理解し易い。箱書も含めて展示するなど新しい試みがなされており、また新出資料が多く含まれていた点も評価できる。（金原委員） 作品を「もの」として見るという、日本の絵画に対する新しい見方を提示した点を高く評価する。新出作品の提示も含め、今年度最も野心的な展覧会だと思う。（榊原委員） 【維新の画家　川村清雄展】〈参加型企画展〉 ゆかり作家の顕彰のみならず、近代日本洋画史の再考をも促す重要な展覧会であった。美術作品だけでなく豊富な資料も含めた展示は新鮮で、興味深かった。（坂本委員） 江戸博との共同企画により、歴史・美術史双方の視点が組み込まれ、充実した内容となっていた。日本美術近代化の複線的な様相を示した点も高く評価できる。（山梨委員）

（その他参考指標）

・展覧会の開催状況　（単位：人）

展覧会名		期間	観覧者見込み	観覧者実績
企画展	◎静岡県立美術館コレクション　カラーリミックス展	4/14～5/27　(39 日間)	14,000	11,573
	○日本油彩画　２００年展	6/9～7/22　(38 日間)	10,000	8,524
	○ユベール・ロベール展	8/9～ 9/30　(46 日間)	19,000	13,541
	◎江戸絵画の楽園展	10/7～11/18　(37 日間)	13,000	10,758
	インカ帝国展	11/27～1/27　(51 日間)	71,000	99,411
	維新の洋画家　川村清雄	2/9～3/27　(40 日間)	15,000	10,209
収蔵品展		年間	21,000	9,517
計			162,000	163,533
移動美術展	富士宮市民文化会館	9/12～9/29　(20 日間)	8,000	2,516
	磐田市新造形創造館	10/26～11/4　(9 日間)		828
合計			170,000	166,877

◎は自主企画展　○は参加型企画展

・自主企画展等の個別分析　（単位：%）

区分		ユベール・ロベール展	江戸絵画の楽園展	維新の洋画家　川村清雄展
観覧者の性別	男性	39.1	42.1	38.8
	女性	60.9	57.9	61.2
観覧者満足度		93.4	92.2	94.3
リピート観覧者		74.7	84.0	82.6
新規観覧者		25.3	15.9	17.4

区　　分		ユベール・ロベール展	江戸絵画の楽園展	維新の洋画家　川村清雄展
新規観覧者満足度		92.7	90.4	95.6
作品やテーマに興味を持った人の割合		87.0	91.3	88.1
地域別観覧者数	中 部	53.9	59.1	60.9
	西 部	18.1	13.9	16.3
	東 部	16.2	15.0	15.6
	県 外	11.8	12.0	7.2

＜分析と評価＞

- 展覧会の来館者数は、目標の 170,000 人に対して 166,877 人と、ほぼ目標を達成した。移動美術展を含めると、達成率は 98.1%であった。
- 自主企画・企画参加型展覧会の回数は 5 回となり、目標の 4 回を上回った。「インカ帝国展」を除くと、すべての企画展に当館学芸員が深く関わり、収蔵品も有効に活用できた。「ユベール・ロベール」展では国立西洋美術館、「川村清雄」展では江戸東京博物館と、他館と共同企画をすすめ、調査研究、原稿執筆、展覧会図録の編集など、連携の実績を新たに築くことができた。
- 「川村清雄」展では、展覧会図録が美術館連絡協議会の優秀カタログ賞に選出され、当館学芸員の調査研究の成果が評価されることになった。
- 「カラーリミックス」展では、古美術から現代美術にいたる収蔵品約 90 点を、「色」の効果の観点から再編集する試みを実施した。時代とジャンルにとらわれない展示は、伊藤若冲と今井俊満が隣り合うなど、自由な組み合わせとなった。また、準備段階で「カラーリミックス」という名称は難解であるという意見も聞こえたが、あえてこの名称を選択することで若い世代の来館者増加を目指した。
- 「インカ帝国展」は知名度の高い異文明を紹介する企画展であったが、目標の 71,000 人に対して 99,411 人と目標を大きく上回り、平成 24 年度の来館者数と収入の拡大に貢献した。
- ロダン館が天井改修工事により下半期休館となったこともあるが、収蔵品展の来館者数は、目標の 21,000 人に対して 9,517 人と、目標の 45.3%にとどまった。
- 観覧者満足度は、3 本の企画展（「ユベール・ロベール」「江戸絵画の楽園」「川村清雄」）とも、90%を上回った。

(2) 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
5	調査研究の発表件数（回）	14	11	18	10	12
6	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	12	14	12	14	12
7	他の美術館・大学と連携した取組件数（件）	3	4	3	5	5

※調査研究の発表件数とは、主な論文(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表等)の発表件数である。
なお、詳細は「別添参考資料１　平成 22 年度　調査・研究に関する自己点検評価報告書」を参照。

（定性的指標の状況）

評価指標 9	調査研究に関する外部評価（レヴュー）
主な状況	①研究紀要 小針由紀隆「ユベール・ロベールとナポリ近郊ポッツオーリのセラーピス神殿」 18 世紀の廃墟画について、現地調査と膨大な関連文献を照合させて、その特性を指摘した好論文である。日本で手薄であった 15～18 世紀の西欧風景表現研究の大きな欠陥を補うものとして評価できる。(坂本委員) 目配りの利いた研究報告によって、作家の表現意図の再検討、さらには鑑賞の仕方の変更をも導き出した成果は、作家研究だけでなく 18 世紀風景画の特性にも深く言及する成果であり、重要な意義を持つ。(潮江委員) ②研究紀要 三谷理華「ラファエル・コランの極東美術コレクション―新出旧蔵品について」 ジャポニズム研究の進展に貢献する重要論文である。関連資料や文献紹介も充実しており、実証的である。(坂本委員) コランの書画コレクションを紹介する貴重な資料であり、コラン研究に新たな視点をもたらしている。筆者のこれまでの研究および関連展覧会の開催といった地道な蓄積の成果である点を高く評価したい。(山梨委員) ③研究紀要 村上敬「川村清雄関連文献解説目録」 幅広い研究上の土台を用意する、大変意味のある仕事として評価したい。(坂本委員) 展覧会開催の基礎調査となった文献目録作成およびそれら文献調査の成果を、多くの人々にアクセス可能にした本稿は、今後この作家について調べようとする人々に対し、広く、長く資するものとなる。美術館の基礎的作業として高く評価できる。(山梨委員) ④研究紀要 川谷承子「1960 年代後半の「地方の前衛」と、グループ「幻触」の 1970 年代～90 年代の評価について」 もの派との比較を通じて、グループ幻触の活動の特質を明らかにしている点が評価できる。展覧会に向けた基礎研究として、今後の深化を期待したい。(金原委員) 地域ゆかりの作家、創作活動を、制作の場に密着した視点から調査しつつ、地域内に留まらない発信の仕方を深く考察している点が貴重である。(山梨委員)

＜分析と評価＞

- 調査研究の発表件数は 12 件に達し、目標の 10 件を上回った。
- 「日本油彩画 200 年」展では、静岡大学人文学部と連携した。会期中、人文学部の学生によるギャラリートークを実施し、大学教員と美術館学芸員が一緒に学生の指導にあたった。比較言語文化を専攻する学生は言葉のみに依りがちだが、当館で絵画作品をトークの対象とすることで、視覚からの刺激を言語化する新たな体験を積むことになった。
- 「ユベール・ロベール」展では、準備段階から第一会場の国立西洋美術館と企画について議論を重ね、当館はロベールのイタリア留学時代とそれに先立つ先輩美術家たちのセクションを請

け負うことになった。展覧会の構成、出品リストの確定、カタログ原稿の分担・執筆・編集、知識と情報の交換など、当館にとって有意義な連携を果たすことができた。

・「川村清雄」展では、企画の構想段階から江戸東京博物館と連携した。連携にあたっては、両館の専門性、すなわち江戸博が「歴史」、当館が「美術」という相互の守備範囲を尊重し合うことを基本とした。その結果、川村清雄ならびに幕末から明治の関連歴史文書を解読し、解説パネルとして配置するなど、展示や図録に博物館学芸員の力量を十分発揮することができた。また、繰り返しとなるが、本展図録の出来栄えが高く評価され、美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞した。

(3) 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24目標	H24実績
8	収蔵品展の観覧者数（人）	12,526	18,042	14,506	21,000	9,517
9	収蔵品の公開件数（貸出し含む）（件）	337	496	647	500	143
10	作品購入件数・購入価格（件・千円）	4 8,450 (86,000)	3 133,350 (113,400)	1 5,000	－	2 5,086
11	作品寄贈件数・評価価格（件・千円）	2 92,500	20 22,950	36 35,750	10 10,000	17 42,300

10（ ）は、基金対応額

（定性的指標の状況）

評価指標 14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート
主な状況	【西洋】 カミーユ・ピサロの《ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ》が、「カミーユ・ピサロと印象派－永遠の近代」展に出品された。印象派の手法を取り入れた、ピサロ中期の代表的な１点として、日本では数十年ぶりの本格的なピサロの大個展で公開・紹介されたことは、風景画の収集を丹念に継続してきた当館の成果を物語るものと言えよう。 【日本画】 小林清親《東京名所図》から 6 点が「郷愁の浮世絵師　清親と安治」展（山口県立萩美術館・浦上記念館）に出品され、作家の画業における位置付けのみならず、異版との比較検証の好機となった。また、「江戸の旅―街道と風景」展（仙台市博物館）に狩野探幽《富士山図》はじめ計 10 件が出品され、旅と風景表現との関わりを辿る意欲的な展覧会において改めてその重要性が確認された。「我ら明清親衛隊」展（板橋区立美術館）では、谷文晁《連山春色図》など 2 点が出品され、江戸時代における明清絵画の受容を示す作品として紹介された。作家個人の枠を超え、時代を語る作品としての位置付けがなされたことは意義深い。 【日本洋画】 川村清雄作品 5 点が「維新の洋画家 川村清雄展」（江戸東京博物館、当館）に出品された。同展は 18 年ぶりの川村清雄大回顧展として高い評価を受けた。また、歴史博物館との共催ということもあり、歴史的文脈のなかにあらためて当館所蔵川村作品を位置づける契機ともなった。 五姓田義松《富士》、児島善三郎《箱根》の 2 作品は「広島県立美術館名品選２　風景表現の系譜」に出品された。本展は広島県立美術館との相互協定の一環として開催されたもの。公立美術館がそれぞれの持ち味を示しつつより高次のコレクション展を行うという先駆的な試みに、本県ゆかりの画題を描いた上記作品も一定の役割を果たしたといえよう。 【現代】 石田徹也作品 20 点が、「石田徹也展」（福岡市、三菱地所アルティアム）に出品された。静岡県出身の美術家の作品を地元以外で紹介し認知度を高める好機となり、好評を博した。「GUN―新潟に前衛があった頃」展には、静岡での前衛芸術グループ「幻触」の作家 4 名の作品 5 点を出品した。あまり知られていない地方の前衛相互の結びつきを、戦後美術史の文脈の中で検証することに寄与したという点で、意義が深かった。「柳澤紀子展―転生の渚―」への柳澤作品 11 点の出品は、静岡出身の美術家の顕彰へとつながるものであった。

（参考指標）

作品購入の内容

作者名	作品名	材質・形状	価格（単位：円）
佐分眞	雪のグリュンデルワルド	キャンヴァス、油彩	2,350,000（税込み）
ジャン・バルボー	最も美しき古代ローマのモニュメント	紙、エッチング（書籍体）	2,735,950（税込み）

＜分析と評価＞

・ 収蔵品展の観覧者数は、目標の 21,000 人に対して 9,517 人、達成率は 45.3%であった。
・ 所蔵品の公開件数については目標を下回った。企画展との関連性に配慮しながら展示作品を選定した結果、磯辺行久氏の大作など、作品の間隔を広くとって展示するケースが多かったためだが、反面、迫力ある作品を効果的に展示することで、作品の持つ力を十全に鑑賞してもらうことができ、子どもワークショップなどを通じて教育普及事業などにも貢献できた。
・ 作品購入件数は一件増加した。佐分の初期油彩作品、ジャン・バルボーの版画作品、ともに、特色あるコレクション形成に大きく寄与するものと考える。
・ 本年は個人からの寄贈であったが、どの作品も、当館のコレクションを補強、補完する上で欠かすことの出来ない作品であり、これらの作品が加わったことは、当館のコレクションの意義を高め、活用の幅を広げるものである。

２　運営基本方針Ｂの達成状況

【運営基本方針Ｂ】
地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

(1) 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
12	学校教育と連携した取組数（件）	348	305	530	350	297
13	鑑賞系プログラム数（件）	13	13	20	13	19
14	コレクションを活用したプログラム数（件）	19	17	19	16	19

（定性的指標の状況）

評価指標 15	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート
主な状況	・鑑賞教育指導者研修会や出張美術講座を継続的に行ってきたことにより、鑑賞プログラムを中心に、学校教育との連携機会が増えてきた。 ・実技系プログラムでは、企画展・収蔵品展にかかわりのある内容の実施を心がけることにより、参加者の鑑賞・制作両面からの美術への理解が深まるとともに、美術館ならではのプログラムとなった。 ・「ちょこっと体験」は好評で、利用数も伸びており、手軽な制作とリンクした鑑賞教育の一助となっている。 ・10 月から 3 月までのロダン館工事休館により、ロダン館関連のプログラム利用が減となった。

（参考指標の状況）

普及プログラムの実績（定量的評価の内訳）　※イメージとして 21 年度の実績を事例とした

プログラム名	学校教育と連携した取組数	人数	鑑賞系プログラム	コレクションを活用したプログラム
特別講演会			○	
美術講座			○	○
鑑賞講座			○	○
学芸員によるフロアレクチャー			○	○
ボランティアのギャラリーツアー			○	○
一般向けオリエンテーション			○	
学校団体向けオリエンテーション	44	3,778	○	
学校団体向けボランティアとの鑑賞ツアー	24	1,690	○	○
ロダン体操	0	0	○	○
タッチツアー			○	○
展覧会関連普及事業（観覧者対象）（やぐらプロジェクト、《考える人》折り紙プロジェクト）			○	○

プログラム名	学校教育と連携した取組数	人数	鑑賞系プログラム	コレクションを活用したプログラム
展覧会関連普及事業（学校対象）（エスパルスドリームプラザ夏の工作体験「かざぐるま」・レプリカ展示、志太地区造形教育研究会教員研修会）	2	136	○	
音のかけらワークショップ	2	10	○	○
美術館の秘密を探れ	14	758		
ロダン館ななふしぎ	6	500	○	○
色彩・工作アトリエ（収蔵品展）				○
ロダン館コンサート			○	○
ロダン館デッサン会				○
ロダン館デッサン実習	2	84		○
ちょこっと体験（四種）			○	○
実技入門講座、実技講座、技法セミナー			○	○
ART!、ARU?（美術部等団体参加校あり）	3	572		
出張美術講座	20	1,405		○
教員支援（研修等）	3	14		
出張粘土教室（H24 実施予定）	4	182		
粘土教室、絵具教室	117	6,975		
粘土貸出し	6	6		
レプリカ貸し出し	10	10	○	○
教員サポート（授業相談等）	20	20		
先生向け粘土・絵の具教室研修会	14	14		
職場体験・インターンシップ	6	19		
合計	297	16,173	18	18

＜分析と評価＞

・ 粘土・絵の具教室など体験系プログラムの人気も依然として高いが、一方で学校向けのオリエンテーションやボランティアとの対話鑑賞の依頼もコンスタントにある。今後、鑑賞系のプログラムの開発や鑑賞教育支援等の推進が必要と考えられる。

・ ロダン館工事休館による「ロダン館ななふしぎ」等休止の影響もあったが、いろいろな職種職場見学への関心の高まりから、美術館の舞台裏を見学する「美術館の秘密をさぐれ」の数が増えた。こうした「美術館」そのものを紹介するプログラムの展開を工夫していくことも、今後求められることになろう。

・ 平成 24 年度から教育普及担当職員が定数の 1 名（H21~23 は 2 名）に戻ったことに伴い、教育普及事業運営においては、質を損なうことなく満足度の高いプログラム推進の工夫が継続的に求められる。

(2) 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します

（達成目標の実績）

	評価指標	H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
16	講演会等の開催回数（回）	179	173	170	210	174
17	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	123	86	105	20	92

※17 学芸員のフロアレクチャー等の数は、下記の参考指標等の状況の１～７までの積算である。

（参考指標の状況）

講演会等の開催回数（プログラム別）　※イメージとして 21 年度の事例を記入した。

	プログラム内容	回数
1	学芸員　オリエンテーション	13
2	学芸員　美術講座	5
3	学芸員　鑑賞講座	2
4	学芸員　フロアレクチャー	49
5	学芸員　出張美術講座【小・中・高校等へ出張】	20
6	学芸員　フロアレクチャー（富士宮市民文化会館、磐田市新造形創造館）	3
7	特別講演会【外部講師による】	6
8	特別講演会【館長による】	1
9	ギャラリー・トーク【外部講師による】	3
10	「カラーリミックス」展ボランティアギャラリーツアー	12
11	「日本油彩画　２００年展」ボランティアギャラリーツアー	12
12	「江戸絵画の楽園」展ボランティアギャラリーツアー	16
13	収蔵品展ボランティアギャラリーツアー	30
14	ロダン館ボランティアギャラリーツアー	2
	合計	174

（註）「２　学芸員　美術講座」は、美術作品について美術史の知識等を用いながら解説をする講座であり、「３　学芸員　鑑賞講座」は、親子の鑑賞者に対して、解説を交えながら、作品をじっくりとご覧いただく講座である。

＜分析と評価＞

・ 講座・講演会等の回数は、目標には至らず、前年度並みであった。内訳は、学芸員のフロアレクチャーが 9 回、美術講座が 2 回増え、鑑賞講座が 1 回、出張美術講座が 15 回減少した。フロアレクチャーの増加は「インカ帝国」展で、土曜日の夜間開館時に学芸員が作品解説を行ったことが主な要因である。また、出張美術講座の減少は、教育普及担当職員が本年度より 2 名から 1 名になった点が、要因として考えられる。一方で、ボランティアギャラリーツアーは前年よりも 19 回増え、ボランティア活動の意識の高さをうかがわせる。
・ 親子、ファミリー向け講座は、新規来館者開拓のためにも、プログラムに組み込んでいく継続的努力が必要である。

(3) 地域住民・企業・ＮＰＯ等と連携した美術館活動を充実します

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
18	地域住民等と連携した取組数（件）	6	6	6	4	8
19	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	62 4,908	34 6,506	83 13,929	90 5,500	59 13,901

（定性的指標の状況）

評価指標 20	地域住民等と連携した取組に関する美術館職員のレポート
主な状況	・ 美術館ボランティア草薙ツアーグループによるお茶会は、来館者サービス、地域連携の活動として各展覧会で実施した。 ・ 地域創造との共催により平成 25 年 3 月 6～8 日の 3 日間、当館を会場として公立美術館職員向けの研修「アートミュージアムラボ」を開催した。 ・ 企画展「日本油彩画 200 年」では、地元静岡大学との共同企画「大学生によるギャラリー・トーク」を実施した。 ・ ロダン館再始動セレモニーでは、NPO 法人「音楽の架け橋メセナ静岡」の協力により、記念コンサートを開催した。 ・ 静岡市郊外の有度山地域に立地する三施設（県立美術館、SPAC、日本平ホテル）間で相互に連携・協力し合うフレンドシップ協定を締結した。 ・ ムセイオン静岡協働イベント「ふじのくに文化の丘フェスタ」では、カフェ・ロダンリニューアル記念コンサートとして、カフェでのライブ演奏と展示会場での学芸員による特別解説を実施した。

＜分析と評価＞

・ 館内空間を生かした催事の件数は、目標の 90 件に対して 59 件、参加者数は 5,500 人に対して 13,901 人であった。件数の減少は、大規模修繕工事によるロダン館の休館が主な要因である。ロダン館に設置した展望台から《地獄の門》《考える人》を鑑賞する「やぐらプロジェクト」は昨年に続けての実施となったが、期間中に 10,000 人を超える参加者があり、ロダン彫刻の理解を深めてもらうためにも、今後も新しい鑑賞方法の提供を続けていく必要がある。

・ 美術館活動の連携については、県立文化施設によるムセイオン静岡の協働イベント「ふじのくに文化の丘フェスタ」への積極的な参加や美術館周辺地域に立地する三施設（県立美術館、SPAC、日本平ホテル）の相互連携・協力により、来訪者の満足度向上を図るためにフレンドシップ協定を締結するなど、地域を意識した他の文化施設あるいは観光分野等との連携事業は評価できる。今後は「連携」をとおした更なる文化の情報発信につながる活動を検討していきたい。

３　運営基本方針Ｃの達成状況

【運営基本方針Ｃ】
さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

(1) 広報戦略を策定し、広報の質を高めます

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
21	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	69.4	66.5	70.6	70.0	71.6
22	ホームページへのアクセス件数(件)	353,500	147,225	419,000	170,000	370,660
23	ホームページの満足度(%)	74.3	71.9	71.7	70.0	71.6

＜分析と評価＞

・ 24 年度と 23 年度を比較すると「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合（%)」は増加、「ホームページへのアクセス件数」はやや減少しているが、「ホームページの満足度 (%)」は、横ばいである。21 年度末にホームページのリニューアルが完了して以来、アクセス件数は高めで安定してきている。

(2) 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
24	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数（件）	－	－	5	1	1

（定性的指標の状況）

評価指標 25	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート
主な状況	・24 年 7 月発行東京都静岡県人会の会報誌に当館の紹介記事を掲載。 ・ 「日本油彩画 200 年」において静岡大学人文学部客員教授平野雅彦氏と同学部大学生との共同企画を実施。大学生によるギャラリー・トーク、会期中のイベント告知等をするブログの発信、フライヤーの配布を実施。 ・ 協定を締結している広島県立美術館のブログで当館の実技室プログラムを紹介。 ・ 「ふじのくにしずおか観光大商談会ｉｎ名古屋」に、日本平ホテル、日本平ロープウェー（久能山東照宮）とチームを組んで参加。3 施設を結んだ観光ルートの周知に努めた。 ・ 静鉄グループと県立美術館の連携強化静鉄フリーチケットとインカ展のセット券販売 ・ 「川村清雄」展において作品を印刷したブックカバーとしおりを作成し、静岡市内の書店を通じ、書籍購入者に配布してもらった。

＜分析と評価＞

・ 大学生に美術館の広報に関わってもらうことは、若年層の来館者を増やすことにつながるので、今後も継続して行っていく。また、観光大商談会に日本平周辺の観光施設である日本平ホテル、日本平ロープウェー（久能山東照宮）と連携して当館の広報を行ったように、今後も観光諸団体との連携を進めていく。

(3) ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
26	ロダン館の入館者数(人)	131,240	45,751	63,102	80,000	26,809

＜分析と評価＞

- ロダン館の入館者数は、目標 80,000 人に対し、26,809 人で達成率 33.5%であった。これは昨年 10 月から 3 月末までの半年にわたる施設の大規模修繕工事のため休館していたことに加え、集客が見込める文明展開催時期（11 月下旬～１月下旬）とロダン館休館時期が重なったことが大きな要因であると考えられる。
- ロダン館の再始動を記念したセレモニーでは記念コンサートや学芸員の作品解説を実施し、316 名の来場があった。この再始動を機会にロダン作品、ロダン館を一層身近に感じていただくための効果的な PR 活動をすることができた。
- 今後は、ロダン館開館 20 周年、あるいはロダン没後 100 年（2017 年）を見据えた、新たな取り組みを検討する必要がある。

４　運営基本方針Ｄの達成状況

【運営基本方針Ｄ】
施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます

(1) 館内施設を充実させ、満足度を高めます

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
27	美術館利用者数（内訳）（人）	459,489	221,185	284,097	400,000	304,654
28	鑑賞環境に対する満足度(%)	89.8	84.4	90.4	90.0	92.5
29	レストラン・カフェ利用者の満足度（%）	53.8	68.8	71.3	70.0	81.4
30	ミュージアムショップ利用者の満足度（%）	85.6	84.4	86.8	85.0	82.8

（参考指標の状況）

・利用者数の内訳　（単位：人）

区　　分	H24 目標	H24 実績
展覧会観覧者数	162,000	163,533
移動美術展	8,000	3,344
教育普及プログラム参加者数	21,000	24,927
ミュージアムコンサート入場者数	300	316
県民ギャラリー入場者数	95,700	43,157
講堂入場者数	17,000	9,475
レストラン・カフェ利用者数	55,000	40,334
ミュージアムショップ利用者数	34,000	17,652
図書閲覧室利用者数	7,000	1,916
合　　計	400,000	304,654

＜分析と評価＞

・ 美術館利用者数が、目標の 400,000 人に対して、304,654 人であり、目標を大きく下回った。
・ ロダン館は老朽化の影響で屋根のシーリング等に不具合があり雨漏りが発生していたため、屋根の全面的な防水改修工事を実施した。
・ 劣化の激しい点字ブロックの改修を行うとともに、車椅子の経路を確保するため、スロープ横の植栽を撤去して歩道を整備した。
・ カフェ・ロダンを居心地よく魅力的な空間にするため、プロのデザイナーにプランニングを委託してリニューアル工事を行った。
・ 老朽化している高架水槽の取替え工事を実施して飲料水の安全確保を図った。

(2) 周辺環境やアクセスの利便を向上させます

（達成目標の実績）

評価指標		H21	H22	H23	H24 目標	H24 実績
31	来館者のアクセス満足度（%）	75.8 72.0	78.0 75.8	81.8 69.2	80.0	80.0 83.1

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

＜分析と評価＞

- 「来館者のアクセス満足度」については、公共交通機関利用者の満足度が目標 80%に対して 80.0%で目標を達成した。自家用車の満足度も 83.1%と目標の 80%を上回る結果となった。
- 老朽化により路盤の沈下等により不陸(凹凸)が生じていた第 1 駐車場について、自家用車で来館する方の利便性向上のため舗装改修工事等を実施した。
- 公共交通機関利用者からのアクセスの問合せに対しては、「JR 草薙駅から 20 分間隔で運行する 100 円バスを利用するのが便利であること」を引き続き周知するよう配慮した。
- 駐車場の確保について、来館者の多い企画展の土、日、休日には、隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、美術館来館者の利便性の向上を図った。

第３章　今後の取組

第３章では、自己評価結果を踏まえた平成 25 年度の取組について記載している。

まず、平成 25 年度における重点的な取組に関する考え方を、運営基本方針ごとに、「平成 25 年度取組方針」として明らかにした上で、具体的な実施内容を重点目標ごとに「平成 25 年度実施計画」として整理した。

平成25年度　県立美術館の取り組み方針

＜全体方針＞

○地域をパートナーと考える美術館運営、中長期展望を検討

地域と連携した美術館運営が推進できるよう、鋭意準備を進めていく。

有度山地域の施設が連携するフレンドシップ協定をもとに、美術館周辺の地域の文化、観光の情報発信を進めていく。文化・教育機関が連携するムセイオン静岡では、一定テーマのもとに新たな講座を開設し、地域の文化・芸術への関心をさらに高めていく。

地域における人材の掘り起こしや、地域の団体・個人とのネットワーク構築を進め、その成果を美術館運営に活かしていく。

さらに、ワーキングを設置し、施設整備、展覧会、広報、美術館の中長期展望について、包括的に検討していく。

〈運営基本方針Ａ：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します〉

① 新たな視点を取り入れた展覧会の開催

これまでも約2,600点のコレクションを活用した、収蔵品展、企画展、移動美術展を開催しているが、本年度は、これまで十分紹介することができなかった当館所蔵の現代作品を有効活用する企画展を２本、富士山世界文化遺産登録という県の重要施策と呼応する日本画の企画展を1本開催する。

その一方で、現在世界的な注目を集める日本人アーティストの個展と、絵画と文学両分野に跨る企画展を他館との共同企画によって実現する。

② 県立美術館開館30周年及びロダン没後100年を見据えた事業の検討

現在、静岡県内では、2015年が徳川家康没後400年にあたることから、徳川家関連の文化や歴史に焦点をあてた諸事業が、学会や商工会議所等で計画・実施されている。当館ではこうした現況を踏まえ、開館30周年にあたる2016（平成28）年度の事業として、「徳川250年の文化の豊かさ」を再考する展覧会の開催を、県文化・観光部、その他の関連機関と共に検討していく。

また、2017（平成29）年は、オーギュスト・ロダン没後100年にあたることから、新たなロダ

ン展開催の可能性を海外美術館に打診しながら探っていく。2014（平成26）年は、ロダン館開館20年目にあたるため、館内の鑑賞環境整備やロダンに関する学究活動など、展覧会以外の諸事業も推進していく。

〈運営基本方針Ｂ：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します〉

③ 鑑賞教育を中心とした教育普及の充実

当館の教育普及活動の転換期と捉え、中長期的な視野にたった今後の教育普及の方針について検討する。平成 21 年度から 23 年度にかけて「鑑賞教育指導者研修会」を開催して人材育成に努めてきた。今年度は学校教員の当館美術講座への参加による新たな人材育成、教育普及プログラムの開発など事業の充実に取り組む。

また、キッズアートプロジェクトを基盤に拡充した県内の参加館園と連携し、小学生の鑑賞教育の促進を図る。

〈運営基本方針Ｃ：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます〉

④ 美術館活動の戦略的広報の推進

当館では、企画広報を担う広報委員会を総務課・学芸課の職員で構成し、広報の共通認識を持ち、美術館活動広報を推進している。

企画展では、主たる対象の絞り込み、その年代に合わせたコミュニケーション・メディアの活用、商業活動と連携した広報等を企画展実行委員会、県広報課、商業施設との協働により、効果的な広報を推進していく。

さらに、昨年度調査を行った「未来館者調査」の分析を進め、新たな顧客の開拓や、美術館活動をコンパクトに紹介するＣＳＲレポートの作成を検討する等、美術館への認知・理解を促進する広報に力点を置く。

⑤ ロダン館の新たな試み

ロダン館を中心にした、県立美術館の観光ルート化の具体的な効果を出すために、有度山フレンドシップ協定（県立美術館、日本平動物園、久能山東照宮、県舞台芸術センター、日本平ホテル）を活用した観光プログラムを旅行企画会社に提案し、実現化を図る。

また、ロダン館と異分野とのコラボレーションによるイベントの継続のほか、館内外の人材によりロダン館の新たな試みを検討し、できるところから実現を図っていく。

〈運営基本方針Ｄ：常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます〉

⑥ 施設環境の改善によるサービスの向上

館内レストラン及びカフェについて、両施設のコンセプトを明確にし、メニューを刷新し、

来館者により上質のサービスを提供する。また、来館者の利便性を高めるため、イヤホンガイド等情報機器の導入を進める。

さらに「施設維持補修中長期計画」を策定し、計画的なメンテナンスを推進し来館者の満足度向上を図るとともに、美術館案内表示等周辺環境整備について検討を行う。

２　平成 25 年度実施計画

【運営基本方針Ａ】
人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します

(1) 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

・夏目漱石と美術との関わりの全容を実作品と資料によって明らかにする。

（「夏目漱石の美術世界」展）

・現代日本を代表する美術家として国際的に活躍する草間彌生の最新の創作活動を紹介する。

（「草間彌生」展）

・ 古より信仰の対象とされ、様々な芸術活動の源泉になってきた富士山の文化的意義を示す。

（「富士山の絵画」展）

・ 静岡を基盤に活動し、その後の現代美術に大きな影響を与えたグループの全貌を作品や当時の資料をもとに明らかにする。

（「グループ幻触」展）

・寄贈された二見彰一のコレクションを活用して、回顧展を開催する。

（「静岡県立美術館所蔵　二見彰一」展）

＜平成 25 年度企画展開催計画＞

展　覧　会　名		期　　間	観覧者数見込
企画展	草間彌生-永遠の永遠の永遠	4/13～6/23　(63 日間)	45,000
	夏目漱石の美術世界	7/13～8/25　(37 日間)	36,000
	富士山の絵画	9/7～10/20　(38 日間)	14,000
	ふじのくに芸術祭 2013	10/29～11/15　(16 日間)	17,000
	静岡県立美術館所蔵　二見彰一展	11/22～1/19　(47 日間)	13,000
	グループ幻触石子順造 1966～1971 年	2/1～3/23　(44 日間)	12,000
収蔵品展		年間	23,000
計			160,000
移動美術展(小山町総合文化会館)		9/19～9/29　(11 日間)	10,000
移動美術展(袋井市月見の里学遊館)		10/18～10/30　(13 日間)	(2 ヶ所)
合　計			170,000

(2) 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します

・他の美術館と共同して調査・研究及び巡回展を実施する。

（「草間彌生」展、「夏目漱石の美術世界」展）

・広島県立美術館との締結にもとづいて、コレクションの相互活用、人材交流等を図る。

・展覧会調査や学会出席等情報収集に努める。

・インターンシップを受け入れる。

(3) 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

・コレクションを活用した企画展を積極的に開催する。

（「富士山の絵画」展、「静岡県立美術館所蔵　二見彰一」展）

・「県立美術博物館設立基金」を活用し、黒田清輝《富士之図》を購入し、「富士山の絵画」展会期中に展示する。

・購入・寄贈候補作品に関する情報を積極的に収集し、日常的な調査に努める。

・エントランス名品コーナーで富士山をモティーフとする絵画を紹介する。

・これまで以上に、テーマに工夫を凝らした収蔵品展を開催する。

＜平成 25 年度収蔵品展開催計画＞

展覧会名	期　間	展示する収蔵作品など
新収蔵品展	7/13～8/25	平成 24 年度新収蔵品
挿絵・書籍の愉しみ	8/27～10/6	ジャン・バルボー『最も美しき古代ローマのモニュメント』より
佐伯祐三、里見勝蔵と独立の画家たち	10/8～11/24	佐伯祐三《ラ・クロッシュ》
『グループ幻触と石子順造』展プレ企画　前衛の駆け抜けた頃	11/26～1/19	元永定正《作品》
大地から―日本画の情景	1/21～2/23	狩野永岳《四季耕作図屏風》
没後 150 年　福田半香とその師友	2/25～3/30	福田半香《李白観瀑図》

【運営基本方針Ｂ】

地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

(1) 質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します

・今後の教育普及の方針について検討する。

・鑑賞との結びつきを深め、質の高い鑑賞系、実技系教育普及事業を実施する。

・学校教育の現場との交流を図り、鑑賞系教育普及事業をより充実させる。

＜平成 25 年度 教育・普及プログラム 主な内容＞

プログラム	内　　容	実施日数等（予定）
創作週間	実技室とその設備を創作活動のため県民に開放する	年49 日
わくわくアトリエ	親子でも参加できる美術体験企画として、さまざまな技法で共同制作、展示を行うワークショップ	年5 日

絵の具開放日	親子で参加し、絵の具で自由に遊ぶ体験の日	年7日14回
粘土開放日	親子で参加し、粘土で自由に遊ぶ体験の日	年12日36回
美術館教室	学校連携普及事業　来館園児・生徒を対象とした実技・鑑賞のプログラム	年63日130回
出張美術講座	コレクションのレプリカやPC資料を持参して、小～大学まで幅広い年齢層を対象に、県内全域の学校で授業を実施	年20回
ちょこっと体験講座	展覧会をみにきた方に、どなたでも１５分で体験できる技法体験コーナー（エントランスにて年 7 回、絵画、シルクスクリーン、銅版画、木版画、日本画等の体験）	年29日

(2) 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します

・企画展に合わせ、創意工夫を凝らした講演会、シンポジウム等を開催する。

・収蔵品展や企画展の美術講座及びフロアレクチャー等を実施する。

(3) 地域住民、企業、ＮＰＯ等と連携した美術館活動を充実させます

・企業からの支援・協力の可能性について模索する。

・静岡県内の美術館と連携した「Kids　Art　Project」を全県下で展開する。

・「ムセイオン静岡」を定期的に開催し、市内文化施設6機関の連携を深める。

・静岡大学をはじめとして、県内大学との連携を強化する。

・ボランティア活動の質を高め、地域連携活動を支援し推進する。

【運営基本方針Ｃ】
さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

(1) 広報戦略を策定し、広報の質を高めます

・北海道大学大学院教授・佐々木亨氏と共同して、未来館者の実態と傾向を把握し、中長期的な当館の運営指針に資するものとする。

・「静岡県立美術館広報委員会」を運用して、戦略広報の策定・実施及び企画展等の事業ごとの広報を積極的に行う。

・諸機関と連携して、新たなニュース・リソースを生み出すための素材を開拓する。

(2) 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

・県文化・観光部を中心として、観光諸団体との連携を進める。

・評価結果を活かし、企画展及びイベントの内容に応じて、マーケティングをして、より効果的な告知先を検討する。

(3) ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

・県文化・観光部と連携し、ロダン館の観光ルート化に向けた取組を行う。

・コンサート等の事業を通して、ロダン館の魅力を発信する。

・ロダン館のより分かりやすい展示・解説について検討する。

【運営基本方針Ｄ】
常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

(1) 館内施設を充実させ、満足度を高めます

・引き続き「カフェ・ロダン」の利用者満足度の向上に努める。
・レストランの更なるサービス改善に努める。
・空調設備等の施設の改修に向けた検討を行う。

(2) 周辺環境やアクセスの利便を向上させます

・バス等の公共交通機関によるアクセスの改善について関係機関に要請する。
・美術館の将来構想や周辺環境の整備について検討する。

３　平成 25 年度以降の達成目標

	評価指標	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 目標
運営基本方針Ａ　人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します								
重点目標１　新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します								
1	展覧会の来館者数（人）	184,535	190,669	119,416	266,786	128,326	163,533	170,000
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数（回）	3	4	2	3	4	5	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合（%）	87.5	86.0	80.9	85.2	85.7	88.7	88.0
4	展覧会における新規来館者の割合（%）	19.7	17.3	21.4	21.5	15.7	19.5	20.0
重点目標２　他の美術館・大学との連携・交流を進め、企画力を強化します								
6	調査研究の発表件数（回）※	※10	14	11	14	18	11	10
7	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	12	12	14	12	22	12	14
8	他の美術館・大学と連携した取組件数（件）	3	5	4	3	3	5	5
重点目標３　特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します								
10	収蔵品展の観覧者数（人）	18,196	17,850	18,042	12,526	14,506	9,517	21,000
11	収蔵品の公開件数（貸出し含む）（件）	465	446	496	337	647	143	500
12	作品購入件数・購入価格（件・千円）（（ ）内は、基金対応額）	2 29,896	3 12,757	3 133,350 (113,400)	4 8,450 (86,000	1 5,000	2 5,000	―
13	作品寄贈件数・評価価格（件・千円）	23 26,435	47 69,625	20 22,950	2 92,500	36 35,750	17 42,300	10 10,000
運営基本方針Ｂ　地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します								
重点目標１　質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します								
15	学校教育と連携した取組数（件）	290	385	305	348	530	297	350
16	鑑賞系プログラム数（件）	11	15	13	13	20	19	13
17	コレクションを活用したプログラム数（件）	14	16	17	19	19	19	16

平成 19 年度以降は、カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表等を積算している。

（それまでは、執筆した論文、携わった展覧会・教育普及活動、その他専門領域活動を含めている。）

	評価；指標	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 目標
重点目標２ 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します								
19	講演会等の開催回数（回）	214	211	240	177	170	174	210
20	学芸員のフロアレクチャー等の数（回）	16	17	58	123	105	92	120
重点目標３ 地域住民、企業、ＮＰＯ等と連携した美術館活動を充実させます								
21	地域住民等と連携した取組数（件）	2	10	6	6	6	8	4
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	90 5,400	101 4,054	34 6,506	62 4,908	83 13,929	59 13,901	90 5,500
運営基本方針Ｃ さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます								
重点目標１ 広報戦略を策定し、広報の質を高めます								
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	67.9	69.8	66.5	69.4	70.6	71.6	70.0
25	ホームページへのアクセス件数(件)	164,500	164,000	147,225	353,500	419,000	370,660	170,000
26	ホームページの満足度(%)	70.0	74.3	71.9	74.3	71.7	71.6	75.0
重点目標２ 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます								
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数（件）	－	－	－	－	5	1	2
重点目標３ ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。								
29	ロダン館の入館者数(人)	74,290	81,771	45,751	131,240	63,102	26,809	80,000
運営基本方針Ｄ 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます								
重点目標１ 館内施設を充実し、満足度を高めます								
30	美術館利用者数（内訳）（人）	373,556	389,194	221,185	459,489	284,097	304,654	400,000
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	87.1	87.4	84.4	89.8	90.4	92.5	90.0
32	レストラン・カフェ利用者の満足度（%）	61.7	54.5	68.8	53.8	71.3	81.4	70.0
33	ミュージアムショップ利用者の満足度（%）	76.9	80.6	84.8	85.6	86.8	82.8	85.0
２ 周辺環境やアクセスの利便を向上させます								
34	来館者のアクセス満足度（%）※	78.1 80.1	76.4 80.7	78.0 75.8	75.8 72.0	81.8 69.2	80.0 83.1	80.0

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

【参考資料１】

展覧会に関する自己点検評価表

１　「静岡県立美術館コレクション　カラーリミックス」展

２　「日本油彩画　200 年」展

３　「ユベール・ロベール」展

４　「江戸絵画の楽園」展

５　「インカ帝国」展

６　「維新の洋画家　川村清雄」展

■静岡県立美術館　自己点検評価表（展覧会）（平成24年度）

事業名称	「静岡県立美術館収蔵名品選　カラーリミックス」展

企画　（事前）	
目的・内容	2500点を越える静岡県立美術館の収蔵品の中から、「色」をテーマに、古美術から現代アートまで選りすぐりの名品約90点を紹介する。日本画、西洋画、現代アートといったジャンル別でなく、色の効果という視点から再編集し、ジャンルを横断した意外な組み合わせの展示により、作品の新鮮な味わい方を提案する。
期待される成果	特殊照明による光と影の変化を楽しむコーナーや、畳に座って屏風を鑑賞するコーナーなど、鑑賞者がいつもとは違う鑑賞を楽しむことができる仕掛けを作り、鑑賞体験が印象に残る仕掛けをつくることで、話題性が高まる。色の効果に着目した作品解説、ホームページでの作品の紹介コーナー、学芸員のフロアレクチャー、解説シートなどを通じて、所蔵品に親しんでもらうことができる。
指標（数値目標）	観覧者数　14,000人
収支（予算） ／観覧者数（見込）	・観覧者数　14,000人 ・歳出　6,002千円 ・歳入 4,489千円 ・特財率　74.8％
広報戦略	・ 若者をターゲットにした展覧会タイトル、チラシ、ポスターデザインを採用した。 ・4月に大学に向けた広報を友の会と共に、市内5大学（静大　県大　常葉大　東海短大　英和大）に向けて行った。 ・小中学校へのお知らせを、例年に比べ、早く動いた。 ・展覧会オープンに合わせて、雑誌スローライフに特集記事を掲載した。 ・トークフリーデーを新たに設定して、話題づくりを行う。

部署	学芸課	記入日	企画　平成24年4月1日
担当者名	川谷、大原、三谷、角田		総括　平成24年7月25日
実施日・場所	4月14日（土）～5月27日（日） 静岡県立美術館第1～6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	(有)　・　無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定、作品解説等
マスコミ等による共催の有無	有　・　(無)	巡回の有無	有　・　(無)

総括（事後）	
目的の達成度	入場者数は、目標の82％にとどまった。 入館者内訳：一般44.1％　70歳以上　6.4％　大・高生　18.9％　小・中生（個人）6.5％（団体）9.0％ 若者をターゲットにした展覧会タイトル、チラシ、ポスターデザインを意識的に採用したが、結果、若者の比率が、同類の展覧会と比較して2倍ほど高く、一般ととくに70歳以上が伸びなかった。観覧者の反応は、おおむね好評で、色をテーマにした点が美術館になじみのない若者にもとっつきやすかったようだ。多様なジャンルの作品を一度に鑑賞することができた点も喜ばれた。照明の変化や畳敷き空間の評判が高かった。
アンケートにみる特徴	
指標に基づく成果	観覧者数　11,573人（82％）、作品やテーマに興味を持った人の割合　％
研究活動評価委員会からの意見（要約）	鑑賞者は、年代を超えて、収蔵品の各ジャンルを超えた展示に何かを感じとることが出来たであろう。作品の持つ新しい魅力を引き出し、見つめなおす、企図は成功している。ただし、おのずと限界がこうした方法では生まれてくるので、それを乗り越える工夫が要求されるだろう。
収支（決算） ／観覧者数（実績）	・観覧者数　11,573人（目標　14,000人：　％） ・歳出　2,227千円（予算　6,002千円：％） ・歳入　3,134千円（目標 4,489千円：％） ・特財率　140.7％（目標 74.8％）
今後の改善点・課題	若者の比率は、同類の展覧会と比較して高かったが、当館のコアファン層の、一般、とくに70歳以上が伸びなかった事が目標人数に届かなかった要因といえる。想定内の結果といえるが、このことから、あらゆる層を一度に惹きつけることは難しいということを改めて確認した。美術館のコアファン層だけでなく、幅広い層に美術館に興味を持ってもらうために、今後は、ターゲットを絞り込んだ企画展【広報の手法も含め）に挑戦していくことが必要ではないだろうか。団体観覧の大学からのレポートを分析すると若い人が好む作品の傾向がはっきりと出ており、印象に残った作品や好きな作品の欄に、現代作品が多くあげられていた。嵯峨篤《Repose/009-017》、正木隆《狭山》、草間彌生《水上の蛍》、伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》など。会期中、ツイッターへの書き込みが多くあったことから、新聞やテレビといった従来の広報媒体だけでなく、インターネットを活用した広報展開も展覧会のタイプに応じて力を入れていく必要がある。例）ブログや、写真撮影コーナー、ネット上のイベントなど。

■静岡県立美術館　自己点検評価表（展覧会）（平成24年度）

事業名称	「日本油彩画　200年～西欧への挑戦～」展

企画　（事前）	
目的・内容	当館コレクションを核として、一部他館所蔵品を加えて、日本の近代油彩画史を概観する。日本人がなぜ、油彩画を描き、また描き続けてきたのかを作品を通じて考える機会とする。近世から明治、大正、昭和期までの日本人の油彩画を展示・紹介する。かつて教科書でみた黒田清輝、佐伯祐三、岸田劉生などの作品を改めて実際に見てもらい作品を見る面白さを実感してもらう。
期待される成果	当館コレクションを多くの鑑賞者に鑑賞してもらうことで、美術館におけるコレクションの重要性を啓蒙・普及することができる。そのことが、これからの美術館の在り方を検討するための素地となる。
指標（数値目標）	観覧者数　10,000人
収支（予算） /観覧者数（見込）	・観覧者数　10,000人 ・歳出　7,013千円 ・歳入　3,275千円 ・特財率　46.7%
広報戦略	特定のマスコミとは連携せず、広く多様なマスメディアとの連携を実施する。 できる限り多くのマスコミ、商業施設、また大学等の教育機関との連携を模索する。

部署	学芸課	記入日	企画　平成24年4月1日
担当者名	泰井、村上、角田		総括　平成24年7月24 日
実施日・場所	6月9日（土）～7月22日（日） 静岡県立美術館第1～6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	(有)　・　無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定、図録執筆、作品解説等
マスコミ等による共催の有無	有　・　(無)	巡回の有無	有　・　(無)

総括（事後）	
目的の達成度	当館コレクションを通じて、日本の油彩画史を概観することができた。また、鑑賞者には、日本人がいかに西洋伝来の油彩画と格闘、葛藤し続け、江戸から今日に至るまで約200年の間、油彩画に取組んできたのかを実作品を通じて示すことができた。鑑賞者の滞留時間も長く、じっくりと作品鑑賞してもらえたと考えている。 また当館コレクションに加えて、近隣の公立美術館からも作品を借用することができ、油彩画通史に幅を持たせ、充実させることができた。
アンケートにみる特徴	
指標に基づく成果	観覧者数　8,486人
研究活動評価委員会からの意見（要約）	こうした日本洋画の回顧は、県立美術館として必須不可欠な展覧会である。作品数、作家数とも会場にふさわしく、コンパクトながらよくまとまっており、満足できる内容である。（金原委員）
収支（決算） /観覧者数（実績）	・観覧者数　8,524人（目標　10,000人：85.2%） ・歳出　5,075千円（予算　7,013千円：72.3%） ・歳入　2,792千円（目標　3,275千円：85.3%） ・特財率　55.0%（目標　46.7%）
今後の改善点・課題	近世部門に、司馬江漢だけではなく、平賀源内、亜欧堂田善、また明治期に高橋由一、昭和期に松本竣介などを加えることができなかったが、これらの作家が加わることで、通史はさらに充実したと考えられる。 また、日本油彩画の最重要作家である黒田清輝を借用作品に頼らざるを得なかったことは、今後の当館収集の大きな課題である。 広報においては、特定のマスコミとの連携は、図らず、逆にその効果として、新聞の全国紙やテレビ全国版で取り上げられた。 静岡大学との連携を図り、大学生ギャラリートークを実施した。 今後は、さらに当館コレクションの魅力と内容が伝わるような広報手段を検討したい。

■静岡県立美術館　自己点検評価表（展覧会）（平成24年度）

事業名称	ユベール・ロベール　　18世紀フランス画家が描いた自然と人工、現実と空想、過去と未来

企画　（事前）	
目的・内容	18世紀フランスの画家ユベール・ロベール（1733-1808）の芸物を、17～18世紀に活動した他の画家の作品と共に紹介し、ロベールとその時代の絵画の魅力に触れてもらう。出品作品は、ヴァランス美術館（南フランス）の所蔵品を中心とする130点。
期待される成果	①風景画コレクションの充実に努める当館に相応しい企画展であり、当館所蔵作家ロベールの芸術を知ってもらう貴重な機会である。 ②収蔵品のロベール作品の位置づけを、明確にすることができる。 ③国立西洋美術館との学術交流を基本として成立する共同企画展であり、今後の両館の友好関係を深めることが期待される。
指標（数値目標）	観覧者数　19,000人
収支（予算） ／観覧者数（見込）	・観覧者数　19,000人 ・歳出 18,228千円 ・歳入10,878千円 ・特財率　59.7%
広報戦略	当館独自の広報に加え、名義共催である静岡朝日テレビのテレビ・スポット。中日新聞の紙面における広報。

部署	学芸課	記入日　平成25年3月1日	企画　平成24年4月1日
担当者名	小針、三谷		総括　平成25年3月1日
実施日・場所	8月9日（土）～9月30日（日） 静岡県立美術館第1～6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	(有)　・　無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	図録エッセイ執筆、作品解説等
マスコミ等による共催の有無	(有)　・　無	巡回の有無	(有)　・　無

総括（事後）	
目的の達成度	ユベール・ロベールの芸術,ならびに先輩画家・同時代画家については、展示だけでなく、講演会、講座、フロアレクチャーを通して、概ね要点を伝えることができた。ロベールが得意としたカプリッチョ絵画が、18世紀西欧の芸術的嗜好をよく反映していたことも示せたと思う。今回の展覧会を開催したことで、当館所蔵のロベール作品の位置がよく判ったことも収穫のひとつと言ってよい。さらに共同企画者である国立西洋美術館とも、良好な関係を築けたことを付記しておきたい。
アンケートにみる特徴	・来館者の男女比は4：6であった。 ・新規来館者は、夏休み期間中のため、10代、20代が多く、合わせて47％を超えた。 ・新規来館者では「県外」が最も多く、37．7％と4割弱を占めた。 ・満足度は「はい」（65．8％）と「どちらかというとはい」（27．6％）を合わせ、93％を超えた。
指標に基づく成果	観覧者数　13,541人（71.2%）作品やテーマに興味を持った人の割合　87.0%
研究活動評価委員会からの意見（要約）	★［坂本委員］ 18世紀ロココ絵画の中で、新古典主義やロマン主義を準備するジャンルの一つは「廃墟画」である。その代表的画家ユベール・ロベールのこれだけの規模の展覧会は、日本では初めてである。木造建築の日本では、「廃墟」の概念が全く異なると言う点でも、この展覧会の意義は明らかである。 ★［潮江委員］全貌を見る機会がなかった画家の画業の紹介であり、その独自性、先駆性は言うまでもない。しかも、風景画の美術館としての静岡県立美術館にふさわしい企画である。儲かる展覧会に走りがちな今時の展覧会事情からすると、その規格の大胆さ、内容の充実ぶりからも高く評価できる。
収支（決算） ／観覧者数（実績）	・観覧者数　13,541人（目標　19,000人、71.2%） ・歳出　16,665千円【予算　18,228千円、91.4%） ・歳入　7,801千円（目標　10,878千円、71.7%） ・得財率　46.8%（目標　59.7%）
今後の改善点・課題	<展示>カプリッチョ、サンギーヌに対する解説が不足していた。静岡会場だけでも、解説を追加する方がよかった。素描への照度制限（50ルクス）を受けた展覧会であったが、照明調整を請け負った業者が不慣れなため、作業にかなり手こずった。 <企画>展覧会i自体は、展覧会カタログと共に、良い出来栄えであったが、事業の収支バランスには問題を残した感がある。 <広報>静岡朝日テレビに名義共催を引き受けてもらったが、このやり方だと、他の展覧会と同様、十分な広報力を得るには至らなかった。

■静岡県立美術館　自己点検評価表（展覧会）（平成24年度）

事業名称	「江戸絵画の楽園」展

企画　（事前）	
目的・内容	・屏風、掛軸、画帖といった日本絵画の多様な形態に注目し、作品本来の機能や干渉の様態、さらにそうした形態が業者内容といかに関わっているかについて紹介する。 ・上記をとおして、「作品」である以前にまず「もの」としての絵画のありかたについて理解を深めていただく。 ・当館所蔵品に加え、多くの新出・初公開作品を交えて構
期待される成果	・作家や主題以前の、「かたち」を切り口とすることで、幅広い観覧者層に日本美術の魅力を理解していただくことができる。 ・多くの重要作品を新たに紹介することで、学術的にも大いに貢献することができる。
指標（数値目標）	観覧者数　13,000人
収支（予算） /観覧者数（見込）	・観覧者数　13,000人 ・歳出　8,671千円 ・歳入　4,466千円 ・特財率　51.5%
広報戦略	・マスコミ共催ではなく、広報費も限られているため、内容の充実度を売りとして新聞社等に直接資料を送り、記事として取り上げていただけるようにする。 ・一部の作品については、報道記事に載せるようはたらきかける。 ・固定の古美術受容者を取りこぼさないことはもちろんだが、若い世代にも訴えかけ得る魅力的なポスターデザイン等を検討する。

部署	学芸課	記入日	企画　平成24年4月1日
担当者名	福士		総括　平成24年12月12 日
実施日・場所	10月7日（日）～11月18日（日） 静岡県立美術館第1～6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	有　・　無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定、図録執筆、作品解説等
マスコミ等による共催の有無	有　・　無	巡回の有無	有　・　無

総括（事後）	
目的の達成度	・展示の構成、図録の編集方法において工夫を凝らし、表装も含めた鑑賞の視点を提供することができた。 ・分かりやすい解説を心がけ、広く一般の鑑賞者が楽しめる展覧会とすることができた。 ・新出作品の掘り起こしに努めたことで、学術的な意義も有する展示となった。 ・館蔵品をバランスよく配置し、新出・初公開作品のなかでコレクションの重要性を改めて示すことができた。 ・観覧者数は目標に達しなかったが、目標の8割を超えたことは、マスコミ共催でない単独展としてはまずまずの結果であったといえる。
アンケートにみる特徴	・県内のリピーターを中心とした、従来の古美術ファンが多かった。 ・県外からの新規来館者が多かったのは、一般的な古美術展としては特徴的といえる。 ・マスコミ共催でないにも関わらず、新聞やテレビをきっかけとして来館した観覧者が一定数いたことは、パブリシテ
指標に基づく成果	観覧者数　10,758人（82.8%）、作品やテーマに興味を持った人の割合91.3%
研究活動評価委員会からの意見（要約）	・コンセプトが明快であり、また箱を展示するなどこれまでにない工夫が試みられ、分かりやすい。新出資料を含め、興味深い展覧会となっている。（金原） ・作品を「もの」として見るという、日本の絵画に対する新しい見方を提示した点、高く評価したい。明快なコンセプト、それを作品展示で具体化する一作品選定の見事さ、新出作品の提示もなおざりにしない一今年度最も野心的な展覧会だと思う。（榊原）
収支（決算） /観覧者数（実績）	・観覧者数　10,758人（目標　13,000人：82.8%） ・歳出　7,218千円（予算　8,671千円：83.2%） ・歳入　3,887千円（目標　4,466千円：87.0%） ・特財率　53.9%（目標　51.5%）
今後の改善点・課題	・紙幅、予算の制約が大きかったが、作品ラインナップやテキストももう少し考察を深める余地があったと感じている。 ・朝日新聞、日曜美術館アートシーンなどと通じ、全国への情報発信ができたことは、事前の広報戦略が功を奏したものといえる。ただ、日経新聞など引きがありながらも記事掲載にいたらなかった事例もあり、いかに説得力のある広報資料を作成していくかについては今後の検討が必要であると考える。

■静岡県立美術館　自己点検評価表（展覧会）（平成24年度）

事業名称	「マチュピチュ「発見」100年　インカ帝国」展

企画　（事前）	
目的・内容	14世紀からわずか1世紀の間に、現在のコロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、チリ等に発展したインカ帝国について、その全貌を初めて紹介するものである。これまで、ミイラや都市、出土した土器など、個々の事柄についての展覧会はあったが、帝国が全体としてどのようなものであったのか、それに取り組むのは、本展が最初である。人類学、考古学、歴史学、三つの視点から、この大きなテーマに光を当て、最新の3D映像も交えてご覧頂く。
期待される成果	映像と組み合わせた展示は、展示資料だけでは伝わりにくい大きな枠組みを、より効果的にお伝え出来るであろう。それは年齢、性別を問わず、幅広い層にアピール出来ると考える。東京会場（国立科学博物館、上野）は最終的に45万人を超える入場者、仙台会場は開会後10日目に1万人を数えた。
指標（数値目標）	観覧者数　71,000人
収支（予算） ／観覧者数（見込）	・観覧者数　71,000人 ・歳出　19,706千円 ・歳入 26,732千円 ・特財率　135.7%
広報戦略	見る者に強力なインパクトを与えるミイラのイメージを、必要に応じて適宜用いる。 本展はインカ帝国の全貌についての展覧会であって、その一部都市であるマチュピチュについてはメインではない。この点は誤解の無いように強調しつつ、「神秘の都市遺構 マチュピチュ」についても、興味を喚起する話題を提示する。

部署	学芸課	記入日	企画　平成24年4月1日
担当者名	新田、南		総括　平成25年3月31 日
実施日・場所	11月27日（火）～1月27日（日） 静岡県立美術館第1～6展示室		

学芸員の企画への 参加の有無	有　・　(無)	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	
マスコミ等による共催 の有無	(有)　・　無	巡回の有無	(有)　・　無

総括（事後）	
目的の達成度	左記の目的は、十分達成されたと考える。当会場は東京会場に比べても広かったため、展覧会に合わせて製作された展示ケースを十分に活用することが出来た。3Dシアターは勿論のこと、各所に設けた映像による解説は、来館者の興味を引き、理解を促すのに効果的だった。会場の構成は、観覧者数の増加を見込んで行ない、必要に応じて修正を加えていった。
アンケートにみる特徴	
指標に基づく成果	観覧者数　99,411人（ 140.0 %）
研究活動評価委員会 からの意見（要約）	
収支（決算） ／観覧者数（実績）	・観覧者数　99,411人（目標　71,000人：140.0%） ・歳出　19,689千円（予算　19,706千円：99.9%） ・歳入　45,434千円（目標　26,732千円：　170.0%） ・特財率　230.8%（目標　135.7%）
今後の改善点・課題	ロダン館前道路使用不可、駐車場の減少という大きな障害があったが、総務課殊に管理班の努力により、改善が進められた。今後の大規模展に備え、方法の蓄積が望まれる。 当館施設は本来、本展のような大規模な観覧者数には対応していない。それが駐車場の不足をはじめ、空調等への大きな負荷となって現れている。これは、観覧者数が一つの展覧会に集中すれば、資料にとっても人間にとっても、環境が容易に悪化することを意味する。この美術館のハードとしての許容範囲をよく確認した上で、年間のスケジュールを策定していく必要があると考える。

■静岡県立美術館　自己点検評価表（展覧会）（平成24年度）

事業名称	「維新の洋画家－川村清雄」展

企画　（事前）	
目的・内容	・日本近代洋画の先駆者の一人・川村清雄（1852－1934）。徳川家達とともに静岡にやってきた幕臣の出である川村は、静岡ゆかりの画家として当館にも重要作品が収蔵されている。本展は、川村家から大量の文書・遺品類の寄贈を受けた江戸東京博物館と共催する大回顧展であり、20世紀末から再評価のうごき著しい川村清雄の全貌を紹介する。 ・同博物館との共同研究の成果を元に、その作品と人物像に迫る展示で、学術的にも充実した作品・資料群を紹介する。
期待される成果	・《建国》（パリ・ギメ美術館）、《形見の直垂》（東京国立博物館）といった貴重な作品を巡回させ、美術展として上質な展示を目指す。 ・同展は歴史系博物館とのコラボレーション。通常、パッケージの文明展以外では美術館では扱うことの難しい文書類や甲冑などの遺物類をも共同研究の成果として紹介し、幕臣・川村家の歴史を示す。また、幕末から明治大正を経て昭和に至る、画家の生きた時代の空気を紹介する。
指標（数値目標）	観覧者数　15,000人、作品やテーマに興味を持った人の割合70％
収支（予算） ／観覧者数（見込）	・観覧者数　15,000人 ・歳出　14,309千円 ・歳入 7,687千円 ・特財率　53.7％
広報戦略	・《建国》は日本人画家川村清雄の手になりながら、フランスの美術館に直接収まったまま日本でお披露目されたことのなかった「里帰り作品」である。第一テレビの電波による広報では、この作品の貴重さと華やかさをアピールしたい。 ・徳川家達に側近く仕えた川村清雄の展示であり、家達関連の資料も多く出品される。静岡の近代史の一コマを紹介する歴史展の要素もアピールしたい。 ・静岡に先立って行われる江戸東京博物館展は広報に膨大な資金投入がなされる。「東京でも注目されている大展覧会」というニュアンスを静岡の県民にも伝わるようにしたい。

部署	学芸課	記入日	企画　平成24年4月1日
担当者名	村上、泰井		総括　平成25年3月31 日
実施日・場所	2月9日（土）～3月27日（水） 静岡県立美術館第1～6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	(有)　・　無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定、図録執筆、作品解説等
マスコミ等による共催の有無	(有)　・　無	巡回の有無	(有)　・　無

総括（事後）	
目的の達成度	次項にみられるように、作品やテーマに対する関心の喚起や展覧会満足度について高い水準を達することができた。学術的水準についても研究活動評価委員のコメントにみられるように一定の成果を挙げた。より一般的な評価としては、本展図録が美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞したことが挙げられ、総じて内容的には高評価の展覧会となった。 一方、動員の面では目標の68.1%と苦戦している。これについては同じ展覧会が巡回した東京都江戸東京博物館でも入場者数が低調であり、目標設定自体が甘かったのかもしれない。
アンケートにみる特徴	「作品やテーマに興味を持った人の割合」（88.1）、「展覧会の満足度」（94.3）と内容については概ね高評価を収めることができた。 来館者の特徴としては、県外来館者が少なく（7.2）、新規来館者の割合は中位（17.4）ということで、比較的当館になじみのある来館者が多かった模様である。 川村清雄展の目立った特徴としては来館のきっかけに「テレビ」を挙げた人の割合の高さ（23.7）である。同年度次点の「ユベール・ロベール展」（10.5）に倍する結果となっており、アンケート諸項目のなかでもっとも顕著な特徴を示している。
指標に基づく成果	観覧者数　10,209人（68.1％）、作品やテーマに興味を持った人の割合 88.1％
研究活動評価委員会からの意見（要約）	川村清雄の画業をその出自から丁寧に作品、資料によって示し、江戸時代の徳川家周辺の文化環境にあった人物がどのように西洋文化を受容したか、また、西洋化を急ぐ社会にあってどのような位置を占めようとしたかを浮かび上がらせた本展覧会は、日本美術の近代化の複線性とそのあり方の多様性を明示した。歴史的観点と美術史的観点の双方をもって、共同でひとりの作家に向かうことで、内容の充実した展示となった。（山梨） （川村清雄が）「画壇」の中での逸脱者的な立場にあったらしい様子が、展覧会を見てある程度まで理解できたように思えた。原田直次郎、山本芳翠などのとの類似性もあるが、アカデミックな「歴史画」との格闘は、黒田に至るまで日本画家たちを悩ましたらしい。その格闘の一つの例をこの画家にも認めることができて興味深かった。（坂本）
収支（決算） ／観覧者数（実績）	・観覧者数　10,209人（目標　15,000人：68.1％） ・歳出　　13,236千円（予算　14,309千円：92.5 ％） ・歳入　5,140千円（目標　7,687千円：66.9％） ・特財率　38.8％（目標　53.7％）
今後の改善点・課題	・アンケート結果からは、静岡第一テレビの広報力の高さが伺えるが、本展は学究色を打ち出した比較的渋い展覧会ではあったので、自ずから限界があった。むしろこの広報力を、本展よりも華やかで集客力の素地が大きい展覧会に振り向けるというのも通年の事業の組み立て方としては「あり」だったかもしれない。 ・既述のように、本展図録は美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞したが、内容もさることながら「野村デザイン制作室」を登用できたことがその要因の一つである。ただしこれは江戸東京博物館との共催でデザイン費に余裕があったため可能だったことであり、通常の予算ではこのクラスのデザイナーを登用することは難しい。だが、デザイナーの果たす役割はそれに必要な予算に比して大きな効果をもたらしうるのも事実。今後は、静岡の単独企画展であっても全国レベルの優秀なデザイナーを登用できるような予算を確保することで、静岡県美のブランドイメージの向上に寄与することができるのではないだろうか。

【参考資料２】

平成 24 年度調査・研究に関する自己点検評価報告書

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 30 日

職・氏名　　学芸部長兼学芸課長・小針由紀隆

●専門分野　　西洋美術史
●所属学会　　美術史学会、三田芸術学会
●主要研究テーマ　　17～19 世紀イタリアにおける風景画に関する諸問題

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

「ユベール・ロベールとナポリ近郊ポッツオーリのセラーピス神殿」『静岡県立美術館紀要』第 28 号、平成 25 年 3 月

小計１本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
「ユベール・ロベール」展　主担当
「王伝峰―観魚」展　主担当
収蔵品展「西欧の風景画Ⅰ」　主担当
収蔵品展「西欧の風景画Ⅱ」　主担当
「ユベール・ロベール」展美術講座講師
「ユベール・ロベール」展フロアレクチャー
収蔵品展「西欧の風景画Ⅰ」フロアレクチャー
収蔵品展「西欧の風景画Ⅱ」フロアレクチャー

小計８本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動
子ども芸術大学実行委員
科研費研究報告会（研究発表）
静岡市美術館運営協議会
子ども芸術大学ワークショップ視察・助言
ムセイオン静岡楕円堂講座講師
ふじのくに芸術祭 2012 美術展審査
「富士山百画」冊子選定委員
静岡県立大学「ミュージアムと世界文化遺産」講義
広島県立美術館講演会講師
ふじのくに芸術祭 2012 企画委員
出張美術講座（伊東市）
ボランティア研修講座
アートミュージアムラボ講師

小計 13 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表
１を参照されたい。

小計　（1）　本

合計 22 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 30 日

職・氏名　　上席学芸員・南 美幸

●専門分野　　美学・美術史
●所属学会　　美術史学会、日仏美術学会
●主要研究テーマ　　西洋美術史、ロダン関連

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計　0　本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

1　企画展「インカ帝国展」　副担当
2　企画展「カラーリミックス」展　フロアレクチャー　２回
3　ロダン館タッチ・ツアー　１回
4　ロダン館やぐらイベント

小計 4 本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

1　浜松市美術館「ナント美術館」展講演会

小計 1 本

6. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計　本

合計 5 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 22 日

職・氏名　　上席学芸員・三谷 理華

●専門分野　　美術史
●所属学会　　美術史学会、美学会、日仏美術学会、ジャポニスム学会、
九州藝術学会、Société de l'histoire de l'art français、ICOM
●主要研究テーマ　　ヨーロッパ近代美術史、日仏文化交流史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・「ラファエル・コランの極東美術コレクション―新出旧蔵品について」『静岡県立美術館紀要』第28 号、平成 25 年 3 月

小計　1 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

・企画展「ユベール・ロベール」展　副担当
・同展　美術講座「ルーヴルの画家、ユベール・ロベール」
・企画展「草間彌生　永遠の永遠の永遠」展（準備）　主担当
・移動美術展（富士宮、磐田）、次年度移動美術展の準備　主担当
・同展　ギャラリートーク　3 回
・企画展「カラー・リミックス」展　フロアレクチャー　2 回
・ロダン館フロアレクチャー　1 回
・出張美術講座　1 回
・出張粘土教室　1 回

小計 12 本

7. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

・美術史学会誌『美術史』査読委員

小計　1 本

8. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 14 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 5 月 16 日

職・氏名　　上席学芸員　新田建史

●専門分野　　美学美術史
●所属学会　　地中海学会、保存修復学会
●主要研究テーマ　　西洋 16～18 世紀美術、東西美術交流史、東西版画史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)
・

小計　本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
・「インカ帝国展」　主担当
・インカ帝国展関連イベント
「ムンド・デ・アレグリア学校生徒による民族舞踊」
「インカ帝国展清水銀行 PRESENTS 特別講演会」
「瀬木貴将コンサート」
「アルパカを作ろう！」
「インカ帝国展フロアレクチャー」10 本

小計 15 本

9. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動
・「陸前高田市立博物館資料安定化処理調査」
・「静岡県文化財等救済ネットワーク会議」司会
・「第１回災害から文化財を守る為のシンポジウム」コーディネーター

小計 3 本

10.　収蔵作品に関する論文・発表等

小計　本

合計 18 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 5 月 6 日

職・氏名　　上席学芸員　川谷承子

●専門分野　現代美術
●所属学会
●主要研究テーマ　日本の現代美術史、美術批評史、地域と連携した美術館のあり方

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

１．研究ノート「前田守一　《遠近のものさし》に至る人的交流とその作品への影響」
アマリリス No.107 2012 年度秋号、平成 24 年 10 月

２.「1960 年代後半の「地方の前衛」と、グループ「幻触」の 1970 年代～90 年代の評価について」『静岡県立美術館紀要』第 28 号、平成 25 年 3 月

３.「コレクション展に見る時代の気分」ZENBI 全国美術館会議機関誌 Vol.2　ブロック報告〔東海〕2012 年 8 月

小計３本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
静岡県立美術館収蔵名品展
カラーリミックスー若冲も現代アートもー（企画展）
新収蔵品展（収蔵品展）
親子で見て感じる現代アート（収蔵品展）
無限の芸術　李禹煥の世界（収蔵品展）
むすびじゅつ（地域と連携した展覧会）
グループ「幻触」展準備（平成 25 年度開催）
石田徹也展準備（平成 26 年度開催）
ART　何つくろう SUMMER CAMP2012（普及）
ART! 未来龍静岡大空凧プロジェクト（普及）
夏休み子どもワークショップ　ボックスアート（普及）

小計 10 本

11.　上記以外の専門領域活動及びその他の活動
①　平成 24 年度アートミュージアムラボ
主催 財団法人地域創造
共催 静岡県（静岡県立美術館）、静岡県教育委員会

小計１本

12.　収蔵作品に関する論文・発表等
１．研究ノート「前田守一　《遠近のものさし》に至る人的交流とその作品への影響」
アマリリス No.107 2012 年度 秋号　平成 24 年　平成 24 年 10 月 1 日発行
２.「1960 年代後半の「地方の前衛」と、グループ「幻触」の 1970 年代～90 年代の評価について」
静岡県立美術館　紀要　第 28 号　平成 24 年度　平成 25 年 3 月 31 日発行

(小計２本)

合計 14 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 1 日

職・氏名　　上席学芸員・村上 敬

●専門分野　　日本近代美術史、文化資源学
●所属学会　　美学会、美術史学会、文化資源学会、明治美術学会、意匠学会
●主要研究テーマ　　近代日本工芸・デザイン史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・「聴く歴史画――《建国》《振天府》の聴覚的モチーフについて」『維新の洋画家 川村清雄』展図録、東京都江戸東京博物館・静岡県立美術館・読売新聞社、平成 24 年 10 月

・「川村清雄関連文献解説目録」『静岡県立美術館紀要』第 28 号、平成 25 年 3 月

小計 2 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

・企画展「維新の洋画家 川村清雄」展　主担当
・同展　丹尾安典先生特別講演会　1 回
・同展　美術講座「川村清雄とその時代」　1 回
・同展　フロアレクチャー　1 回
・出張美術講座　1 回
・企画展「夏目漱石の美術世界」　副担当（図録作品解説執筆）

小計 6 本

13.　上記以外の専門領域活動及びその他の活動

・口頭発表「Religious and Traditional Ideas」(「アジア・デザイン・エンサイクロペディアの構築」2012 年度研究会、研究代表者：藤田治彦)、国際高等研究所、平成 24 年 11 月

小計 1 本

14.　収蔵作品に関する論文・発表等

・

小計 0 本

合計 9 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 16 日

職・氏名　　上席学芸員・泰井 良

●専門分野　　美学・美術史、ミュージアム・マネージメント
●所属学会　　美術史学会、日本ミュージアム・マネージメント学会
●主要研究テーマ　近代美術史、ロダン、美術館評価・文化政策

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・論文「日本人の油彩画」『日本油彩画 200 年』展図録、平成 24 年 6 月

小計 1 本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

・企画展「日本油彩画　200 年」展 主担当
・企画展「維新の洋画家　川村清雄」展 副担当
・美術講座「日本人の油彩画～なぜ，日本人は油彩画を描いたのか～」、平成 24 年 6 月 24 日
・川村清雄展フロアレクチャー、平成 25 年 3 月 9 日

小計 4 本

15.　上記以外の専門領域活動及びその他の活動

・財団法人地域創造公立美術館活性化事業企画検討委員会委員
・市町村立美術館活性化事業「石元泰博展」監事
・アートミュージアムラボ（主催 財団法人地域創造）

小計 3 本

16.　収蔵作品に関する論文・発表等

小計　本

合計 8 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 30 日

職・氏名　　主任学芸員・石上充代　　（平成 24 年 11 月 育休より復帰）

●専門分野　　日本美術史
●所属学会　　美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ　　近世・近代絵画史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計　本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

・収蔵品展『富士山の絵画 2013』展示作業
・静岡県立遠江総合高校 出張美術講座、平成 25 年 3 月 18 日
・新ボランティア研修プログラム（全 4 回）企画運営

小計 3 本

17.　上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計　本

18.　収蔵作品に関する論文・発表等

小計　本

合計 3 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 25 年 4 月 16 日

職・氏名　　主任学芸員・福士 雄也

●専門分野　　美術史
●所属学会　　美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ　　日本近世絵画史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・論文「楽園への招待―「かたち」と「中身」、そして「もの」としての作品―」『江戸絵画の楽園』展図録、静岡県立美術館、平成 24 年 10 月
・作品解説『日本美術全集　第十四巻　若冲・応挙・みやこの奇想』、小学館、平成 25 年 2 月

小計 2 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

・企画展　「江戸絵画の楽園」展（平成 24 年 10-11 月）　主担当
・同展　特別講演会　1 回
・同展　フロアレクチャー　2 回
・同展　実技講座「掛軸をつくろう」（展示解説）　2 回
・収蔵品展　「中国絵画と日本」展（平成 24 年 6-7 月）　主担当
・同展　フロアレクチャー　2 回
・出張美術講座　1 回

小計 7 本

19.　上記以外の専門領域活動及びその他の活動

・口頭発表「対照的存在としての若冲と蕭白」およびパネルディスカッション
（「美のワンダーランド　十五人の京絵師」展シンポジウム「京絵師の魅力」、九州国立博物館、平成 24 年 7 月 29 日）
・美術講座「楽園への招待―「かたち」と「中身」のあやしい関係―」静岡県立美術館、平成 24 年 10 月 14 日

小計 2 本

20.　収蔵作品に関する論文・発表等

・「大岡雲峰《日金山富嶽眺望図》（当館蔵）の賛者について」静岡県立美術館研究会、平成 24 年 6 月
・（「楽園への招待―「かたち」と「中身」、そして「もの」としての作品―」『江戸絵画の楽園』展図録、静岡県立美術館、平成 24 年 10 月）【1. 既出】

小計 1(2)本

合計 12 本

Ⅱ－２

平成 24 年度
静岡県立美術館評価業務 報告書

１　概要

２　美術館評価指標の現状値

３　展覧会 アンケート

４　レストラン アンケート

５　カフェアンケート

６　ミュージアム・ショップ アンケート

７　県立美術館ホームページ アンケート

８　佐々木先生の提言

９　「静岡県立美術館　第三者評価委員会評価報告書」に関する評価学の視点からの考察

１　調査概要

（１）　調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年３月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

（２）　実施概要

	ユベール・ロベール展		江戸絵画の楽園展		川村清雄展	
会　期	平成 24 年８月９日～９月 30 日		平成 24 年 10 月７日～11 月 18 日		平成 25 年２月９日～３月 27 日	
開催日数	46 日		37 日		40 日	
観覧者数	13,541 人		10,758 人		10,209 人	
１日あたり平均観覧者数	294.4 人／日		290.8 人／日		255.2／日	
アンケート実施日	8/9（木）	52 件	10/7（日）	68 件	2/9（土）	59 件
	8/12（日）	69 件	10/10（水）	31 件	2/15（金）	45 件
	8/28（火）	43 件	10/26（金）	39 件	2/16（土）	62 件
	9/8（土）	39 件	10/27（土）	63 件	2/20（水）	37 件
	9/22（土）	38 件	11/11（日）	43 件	2/28（木）	29 件
	9/26（水）	36 件	11/16（金）	34 件	3/3（日）	44 件
アンケート実施数	277 件		278 件		276 件	
アンケート実施数（回収率） ※観覧者数に占める実施の割合	2.05%		2.58%		2.7%	

（３）　報告書内のデータ記述について

・比率はすべて百分率で表し、小数点第２位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100%にならないことがある。

・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。

・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。

２　調査結果概要

（１）　結果概要

	ユベール・ロベール展	江戸絵画の楽園展	川村清雄展
①展覧会満足度（展覧会別）	93.4%	92.2%	94.3%

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
②展覧会満足度（経年）	89.9%	86.8%	90.8%	90.8%	93.3%
③レストラン満足度	54.5%	68.8%	53.8%	71.3%	82.2%
④ミュージアム・ショップ満足度	80.6%	84.4%	85.6%	86.8%	82.8%
⑤ホームページ満足度	74.3%	71.9%	74.3%	71.7%	71.6%

（２）　提言

満足度と評価の相関係数

問	Ｂ（１）	Ｂ（２）	Ｂ（３）	Ｂ（４）	Ｂ（５）	Ｂ（６）
評　価	作品やテーマについての興味･関心	展覧会会場の心地よさ	美術館のスタッフの対応	展覧会のことを誰かに伝え､来館を勧めたいか	当美術館に関する情報入手のしやすさ	交通機関の利用のスムーズさ
ユベール・ロベール展	0.484	0.548	0.447	0.520	0.327	0.320
江戸絵画の楽園展	0.642	0.507	0.370	0.475	0.352	0.315
川村清雄展	0.526	0.444	0.359	0.468	0.289	0.396
全　体	0.545	0.502	0.393	0.487	0.324	0.340

※算出方法：展覧会の評価【Ｂ（１）～（７）】の５段階評価を１点～５点に置き換えて相関係数を算出した。ただし無回答については「どちらともいえない（３点）」と換算した。

※相関係数：－１～１をとる係数で、０に近いほど相関は薄い。１に近づくほど正の相関が、－１に近づくほど負の相関がある。(0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある)

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

ユベール・ロベール展	１位	Ｂ（２）展覧会場の心地よさ	[0.548]
	２位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.520]
	３位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味関心	[0.484]
江戸絵画の楽園展	１位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味関心	[0.642]
	２位	Ｂ（２）展覧会場の心地よさ	[0.507]
	３位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.475]
川村清雄展	１位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味関心	[0.526]
	２位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.468]
	３位	Ｂ（２）展覧会場の心地よさ	[0.444]
全　体	１位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味関心	[0.545]
	２位	Ｂ（２）展覧会場の心地よさ	[0.502]
	３位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.487]

３　美術館評価指標の現状値

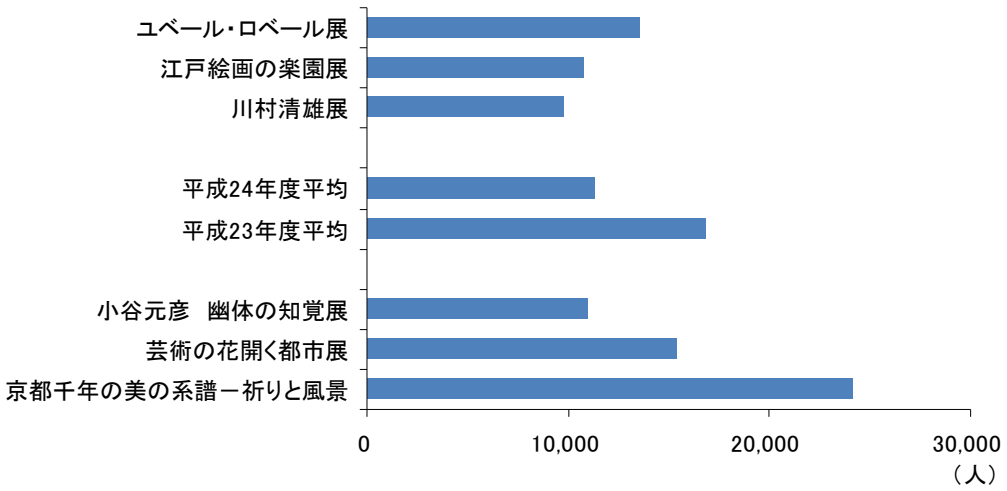
			H23 実績	H24 実績	展覧会		
					A※	B※	C※
A	2	展覧会リピート率	84.3%	80.4%	74.7%	84.0%	82.6%
	3	展覧会満足度	90.8%	93.3%	93.4%	92.2%	94.3%
	8	鑑賞環境満足度	90.4%	92.5%	93.2%	92.0%	92.3%
B	23	風景美術館認知度	32.2%	22.7%	18.5%	29.2%	20.5%
C	25	情報が「入手しやすい」	70.6%	71.6%	71.4%	71.0%	72.4%
	26	公共交通機関アクセス満足度	81.8%	80.0%	76.6%	80.8%	82.7%
	27	自家用車アクセス満足度	69.2%	83.1%	74.8%	85.5%	89.5%
	29	スタッフ対応満足度	85.8%	88.7%	88.7%	88.9%	88.3%
	34	レストラン満足度	71.3%	80.8%			
	36	ミュージアム・ショップ満足度	86.8%	82.8%			
D	46	ホームページ満足度	71.7%	71.6%			
	51	展覧会での新規観覧者の割合	15.7%	19.5%	25.3%	15.9%	17.4%
	52	展覧会での新規観覧者満足度	92.8%	93.0%	92.7%	90.4%	95.6%
	53	地域別利用者割合　東部	17.4%	15.6%	16.2%	15.0%	15.6%
		中部	56.4%	58.0%	53.9%	59.1%	60.9%
		西部	15.9%	16.1%	18.1%	13.9%	16.3%
		県外	10.3%	10.4%	11.8%	12.0%	7.2%
	54	２・３世代観覧割合	22.8%	31.6%	45.4%	23.9%	24.0%

※）展覧会Ａ・・・・・ユベール・ロベール展
　　展覧会Ｂ・・・・・江戸絵画の楽園展
　　展覧会Ｃ・・・・・川村清雄展

4　展覧会アンケート結果

（１）　回収状況

		観覧者数（人）	回収数（件）	回収率（%）
平成24年度	ユベール・ロベール展	13,541	277	2.1
	江戸絵画の楽園展	10,758	278	2.6
	川村清雄展	9,722	276	2.8
経年	平成 24 年度平均	11,340	277	2.5
	平成 23 年度平均	16,804	238	1.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	10,904	249	2.3
	芸術の花開く都市展	15,368	224	1.5
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	24,140	240	1.0



（２）　観覧者の属性

①　性別

全体

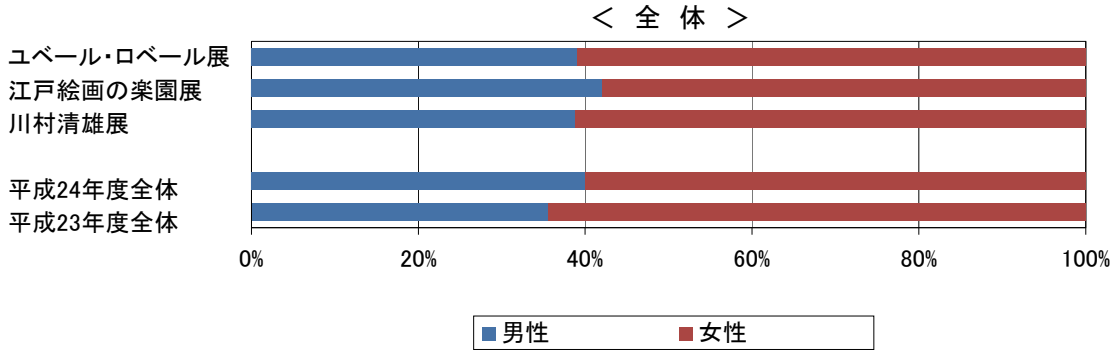
		件数（件）	男性	女性
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	39.1	60.9
	江戸絵画の楽園展	278	42.1	57.9
	川村清雄展	276	38.8	61.2
経年	平成24年度全体		40.0	60.0
	平成23年度全体		35.6	64.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	248	36.3	63.7
	芸術の花開く都市展	221	37.6	62.4
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	239	33.1	66.9

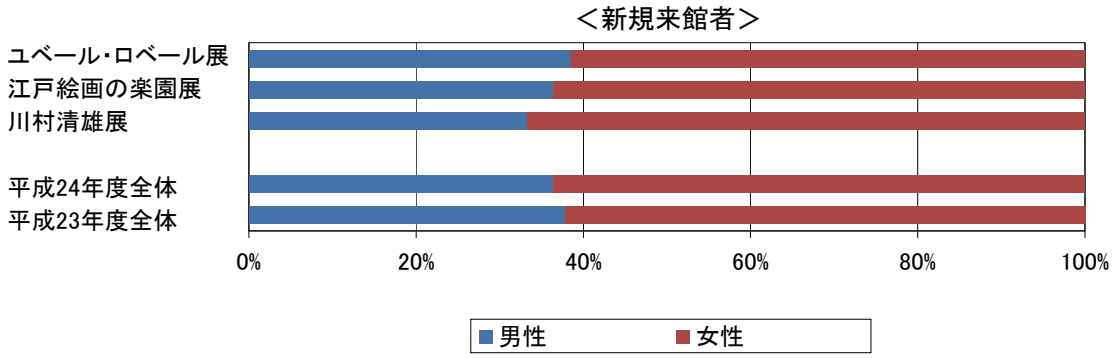
単位：％

新規来館者

		件数（件）	男性	女性
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	38.6	61.4
	江戸絵画の楽園展	44	36.4	63.6
	川村清雄展	48	33.3	66.7
経年	平成24年度全体		36.4	63.6
	平成23年度全体		37.8	62.2
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	41.2	58.8
	芸術の花開く都市展	36	25.0	75.0
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	24	50.0	50.0

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度全体は、「男性」が 40.0%、「女性」が 60.0%と、例年同様、女性が多い傾向となっている。『江戸絵画の楽園展』では、「男性」（42.1%）が通常より多くなっている。

〈新規来館者〉をみると、『川村清雄展』では「女性」（66.7%）が通常より多く、『ユベール・ロベール展』では、「男性」（38.6%）が通常より多くなっている。

② 年齢層

全体

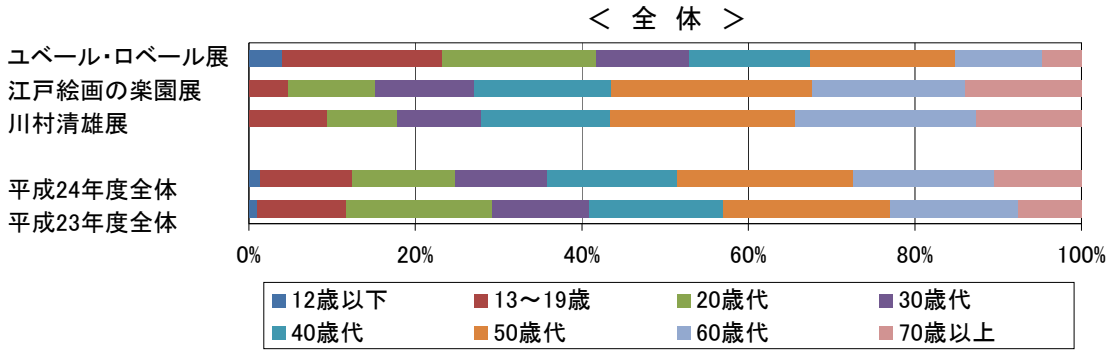
		件数（件）	12歳以下	13～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	4.0	19.2	18.5	11.2	14.5	17.4	10.5	4.7
	江戸絵画の楽園展	278	0.0	4.7	10.4	11.9	16.5	24.1	18.3	14.0
	川村清雄展	276	0.0	9.4	8.3	10.1	15.6	22.1	21.7	12.7
経年	平成24年度全体		1.3	11.1	12.4	11.1	15.5	21.2	16.9	10.5
	平成23年度全体		1.0	10.7	17.5	11.7	16.1	20.0	15.4	7.6
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	248	1.2	17.3	27.0	13.3	16.1	13.3	8.9	2.8
	芸術の花開く都市展	221	0.5	12.2	14.9	9.0	16.7	19.5	15.4	11.8
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	240	1.3	2.5	10.0	12.5	15.4	27.5	22.1	8.8

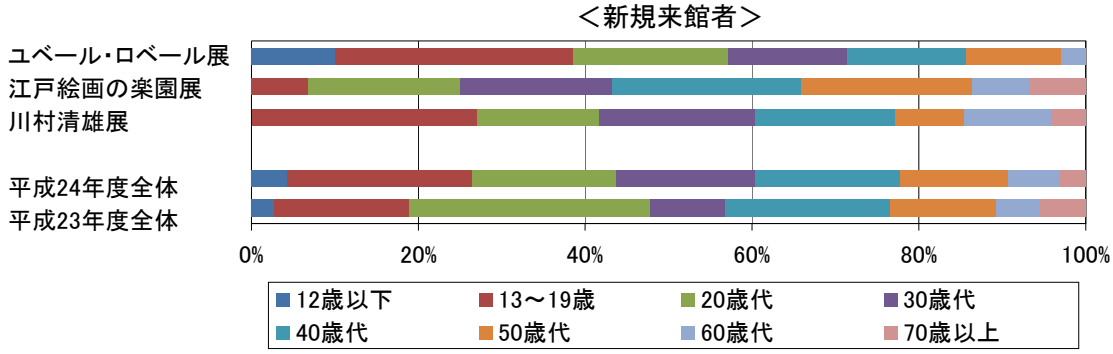
単位：%

新規来館者

		件数（件）	12歳以下	13～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	10.0	28.6	18.6	14.3	14.3	11.4	2.9	0.0
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	6.8	18.2	18.2	22.7	20.5	6.8	6.8
	川村清雄展	48	0.0	27.1	14.6	18.8	16.7	8.3	10.4	4.2
経年	平成24年度全体		4.3	22.2	17.3	16.7	17.3	13.0	6.2	3.1
	平成23年度全体		2.7	16.2	28.8	9.0	19.8	12.6	5.4	5.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	50	4.0	16.0	38.0	16.0	16.0	6.0	4.0	0.0
	芸術の花開く都市展	36	2.8	19.4	25.0	5.6	27.8	13.9	2.8	2.8
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	25	0.0	12.0	16.0	0.0	16.0	24.0	12.0	20.0

単位：%





〈全体〉をみると、平成 24 年度で最も多い年代は「50 歳代」の 21.2%となっている。『ユベール・ロベール展』は他の展覧会と比べて「13～19 歳」（19.2%）が多く、また『江戸絵画の楽園展』は「50 歳代」（24.1%）が多いという特長がみられる。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度で最も多い年代は「13～19 歳代」の 22.2%で、〈全体〉とは異なる傾向となっている。展覧会別でみると、特に『江戸絵画の楽園展』で「40 歳代」（22.7%）と「50 歳代」（20.5%）の新規来館者が多い。

③　居住地

全体

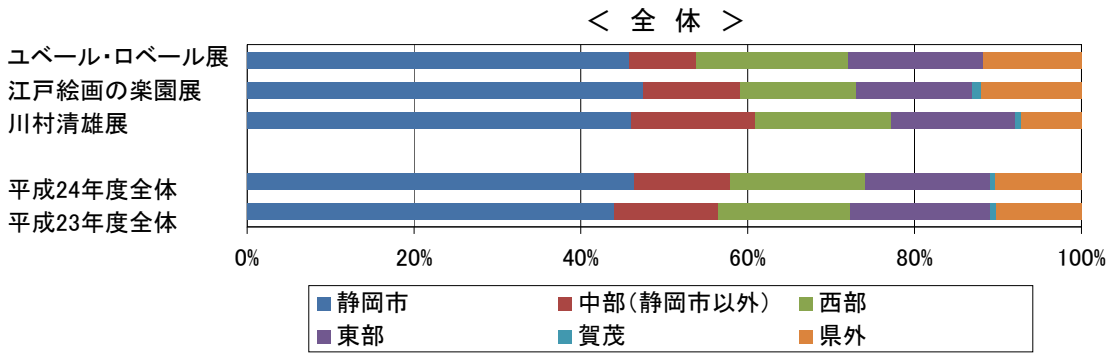
		件数（件）	静岡市	中部（静岡市以外）	西部	東部	賀茂	県外
平成24年度	ユベール・ロベール展	271	45.8	8.1	18.1	16.2	0.0	11.8
	江戸絵画の楽園展	274	47.4	11.7	13.9	13.9	1.1	12.0
	川村清雄展	276	46.0	14.9	16.3	14.9	0.7	7.2
経年	平成24年度全体		46.4	11.6	16.1	15.0	0.6	10.4
	平成23年度全体		44.0	12.4	15.9	16.7	0.7	10.3
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	239	41.0	14.2	17.2	13.0	0.0	14.6
	芸術の花開く都市展	218	45.9	9.6	15.1	19.3	0.0	10.1
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	239	45.2	13.0	15.5	18.0	2.1	6.3

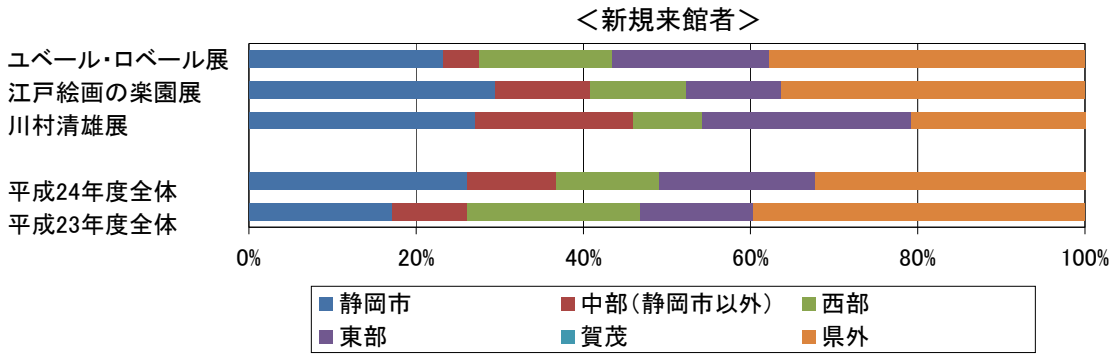
単位：％

新規来館者

		件数（件）	静岡市	中部（静岡市以外）	西部	東部	賀茂	県外
平成24年度	ユベール・ロベール展	69	23.2	4.3	15.9	18.8	0.0	37.7
	江戸絵画の楽園展	44	29.5	11.4	11.4	11.4	0.0	36.4
	川村清雄展	48	27.1	18.8	8.3	25.0	0.0	20.8
経年	平成24年度全体		26.1	10.6	12.4	18.6	0.0	32.3
	平成23年度全体		17.1	9.0	20.7	13.5	0.0	39.6
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	19.6	11.8	25.5	3.9	0.0	39.2
	芸術の花開く都市展	35	20.0	2.9	17.1	14.3	0.0	45.7
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	25	8.0	12.0	16.0	32.0	0.0	32.0

単位：％





〈全体〉をみると、「静岡市」が 46.4%と最も多く４割半以上を占め、「西部」（16.1%）、「東部」（15.0%）は、「中部（静岡市以外）」（11.6%）はそれぞれ１割台と、例年同様の傾向となっている。いずれの企画展も「静岡市」と「中部（静岡市以外）」を合わせた≪中部≫が半数超となっている。

〈新規来館者〉をみると、〈全体〉に比べて「県外」来館者が多い傾向となっており、『ユベール・ロベール展』（37.7%）、『江戸絵画の楽園展』（36.4%）では、「県外」来館者が３割半以上と最も多くなっている。これは昨年とほぼ同様の傾向。

美術館カルテ 53　　地域別の利用者の割合

		中部	西部	東部
平成24年度	ユベール・ロベール展	53.9	18.1	16.2
	江戸絵画の楽園展	59.1	13.9	15.0
	川村清雄展	60.9	16.3	15.6
経年	平成 24 年度全体	58.0	16.1	15.6
	平成 23 年度全体	56.4	15.9	17.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	55.2	17.2	13.0
	芸術の花開く都市展	55.5	15.1	19.3
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	58.2	15.5	20.1

単位：%

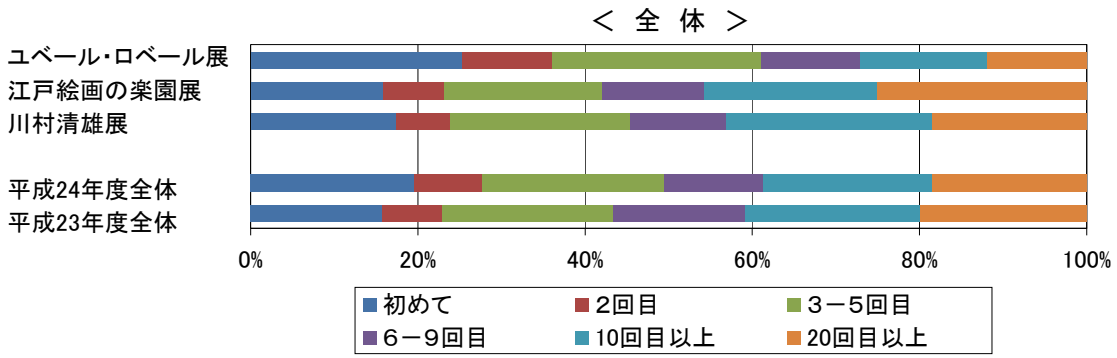
（３）　観覧者行動

①　来館回数

全体

		件数（件）	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10回目以上	20回目以上
平成24年度	ユベール・ロベール展	277	25.3	10.8	24.9	11.9	15.2	11.9
	江戸絵画の楽園展	276	15.9	7.2	18.8	12.3	20.7	25.0
	川村清雄展	276	17.4	6.5	21.4	11.6	24.6	18.5
経年	平成24年度全体		19.5	8.2	21.7	11.9	20.1	18.5
	平成23年度全体		15.7	7.2	20.5	15.7	21.0	19.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	249	20.5	5.6	20.9	18.1	14.9	20.1
	芸術の花開く都市展	224	16.1	7.1	17.4	15.2	22.8	21.4
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	240	10.4	8.8	22.9	13.8	25.8	18.3

単位：％



平成 24 年度の「初めて」〈新規来館者〉は 19.5%と、前年度に比べ多くなっている。展覧会別にみると、「初めて」〈新規来館者〉が最も多いのは『ユベール・ロベール展』の 25.3%、次いで『川村清雄展』の 17.4%、『江戸絵画の楽園展』が最も少なく、15.9%となっている。

評価指標４　新規来館者の割合

美術館カルテ２　リピート率

		新規来館者の割合	リピート率
平成24年度	ユベール・ロベール展	25.3	74.7
	江戸絵画の楽園展	15.9	84.0
	川村清雄展	17.4	82.6
経年	平成 24 年度全体	19.5	80.4
	平成 23 年度全体	15.7	84.3
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	20.5	79.6
	芸術の花開く都市展	16.1	83.9
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	10.4	89.6

単位：%

② 来館人数

全体

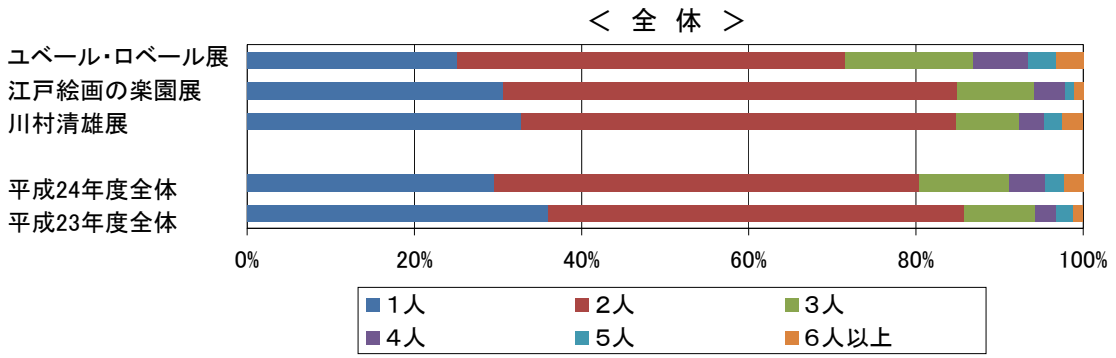
		件数（件）	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
平成24年度	ユベール・ロベール展	274	25.2	46.4	15.3	6.6	3.3	3.3
	江戸絵画の楽園展	271	30.6	54.2	9.2	3.7	1.1	1.1
	川村清雄展	275	32.7	52.0	7.6	2.9	2.2	2.5
経年	平成24年度全体		29.5	50.9	10.7	4.4	2.2	2.3
	平成23年度全体		36.0	49.9	8.4	2.5	2.1	1.2
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	236	39.0	45.3	8.1	4.7	2.1	0.8
	芸術の花開く都市展	211	32.7	54.5	10.4	1.9	0.0	0.5
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	223	35.9	50.2	6.7	0.9	4.0	2.2

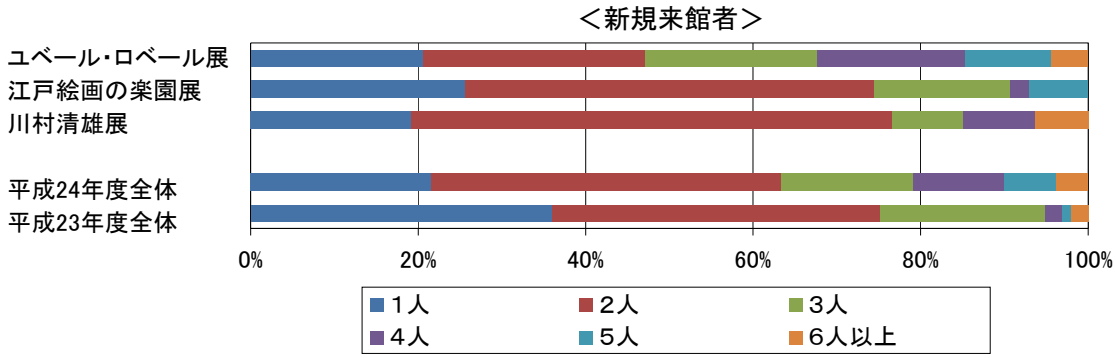
単位：%

新規来館者

		件数（件）	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
平成24年度	ユベール・ロベール展	68	20.6	26.5	20.6	17.6	10.3	4.4
	江戸絵画の楽園展	43	25.6	48.8	16.3	2.3	7.0	0.0
	川村清雄展	47	19.1	57.4	8.5	8.5	0.0	6.4
経年	平成24年度全体		21.5	41.8	15.8	10.8	6.3	3.8
	平成23年度全体		36.1	39.2	19.6	2.1	1.0	2.1
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	62	27.4	50.0	11.3	6.5	0.0	4.8
	芸術の花開く都市展	74	35.1	48.6	5.4	1.4	5.4	4.1
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	18	33.3	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1

単位：%





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「２人」が 50.9%と最も多く、半数超となっている。次いで「１人」が 29.5%、「３人」が 10.7%とこれらが合わせて９割以上を占め、前年度と同様の傾向となっている。『川村清雄展』で「１人」（32.7%）での来館が多くなっている。

〈新規来館者〉をみても、「２人」が 41.8%と最も多くなっている。『江戸絵画の楽園展』、『川村清雄展』では、「２人」での来館が最も多く、それぞれ５割弱～５割台半ばを占めるが、『ユベール・ロベール展』では、「１人」（20.6%）、「２人」（26.5%）、「３人」（20.6%）がそれぞれ２割台と、来館人数の分散傾向がみられる。

③　来館時の同伴者

全体

		件数（件）	自分の配偶者	自分の親	自分の兄弟姉妹	自分の子ども	自分の祖父母	自分の孫	そのほかの親族	友人・知人・恋人	その他
平成24年度	ユベール・ロベール展	205	29.3	20.5	6.3	21.0	2.4	1.5	2.4	35.1	2.4
	江戸絵画の楽園展	192	54.2	10.9	2.6	12.5	0.0	0.5	1.0	28.6	3.6
	川村清雄展	183	45.4	11.5	4.9	10.4	1.6	0.5	1.6	32.8	3.8
経年	平成24年度全体		42.6	14.5	4.7	14.8	1.4	0.9	1.7	32.2	3.3
	平成23年度全体		38.6	11.7	4.7	10.0	0.9	0.2	4.0	38.3	2.3
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	144	22.2	7.6	5.6	7.6	0.0	0.7	4.2	56.3	3.5
	芸術の花開く都市展	141	36.2	14.9	4.3	12.1	2.8	0.0	2.8	35.5	1.4
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	143	57.3	12.6	4.2	10.5	0.0	0.0	4.9	23.1	2.1

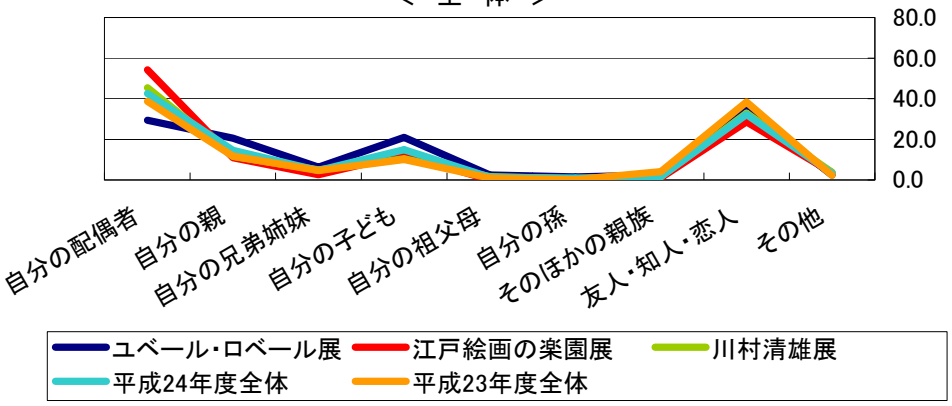
単位：％

新規来館者

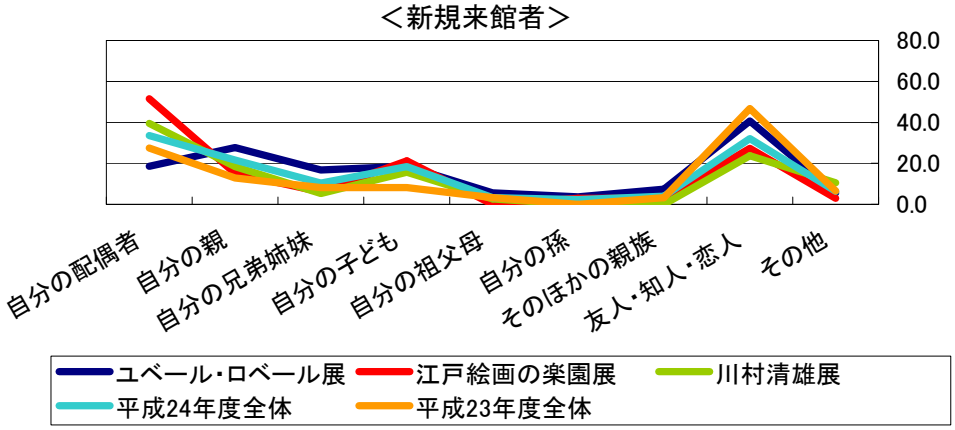
		件数（件）	自分の配偶者	自分の親	自分の兄弟姉妹	自分の子ども	自分の祖父母	自分の孫	そのほかの親族	友人・知人・恋人	その他
平成24年度	ユベール・ロベール展	54	18.5	27.8	16.7	18.5	5.6	3.7	7.4	40.7	5.6
	江戸絵画の楽園展	33	51.5	15.2	6.1	21.2	0.0	3.0	3.0	27.3	3.0
	川村清雄展	38	39.5	18.4	5.3	15.8	2.6	0.0	0.0	23.7	10.5
経年	平成24年度全体		33.6	21.6	10.4	18.4	3.2	2.4	4.0	32.0	6.4
	平成23年度全体		27.4	12.9	8.1	8.1	3.2	0.0	3.2	46.8	6.5
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	29	20.7	3.4	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	62.1	10.3
	芸術の花開く都市展	22	27.3	27.3	9.1	13.6	9.1	0.0	0.0	36.4	0.0
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	11	45.5	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	18.2	27.3	9.1

単位：％

＜ 全 体 ＞



＜新規来館者＞



〈全体〉をみると、平成 24 年度は「自分の配偶者」（42.6%）、次いで「友人・知人・恋人」（32.2%）が前年と同じく多数を占めている。『江戸絵画の楽園展』では、「自分の配偶者」（54.2%）が他の展覧会と比較して特に多くなっている。なお昨年度に比べて、「友人・知人・恋人」の割合は 6.1 ポイント減少しているが、「自分の配偶者」（4.0 ポイント増）や「自分の親」（2.8 ポイント増）、「自分の子ども」（4.8 ポイント増）など２世代での来訪割合が増加している。

〈新規来館者〉も〈全体〉同様、「自分の配偶者」（33.6%）、次いで「友人・知人・恋人」（32.0%）が多数を占めている。

美術館カルテ 54　　２・３世代で一緒に観覧に来ている割合

平成24年度	ユベール・ロベール展	45.4
	江戸絵画の楽園展	23.9
	川村清雄展	24.0
経年	平成 24 年度全体	31.6
	平成 23 年度全体	22.8
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	15.9
	芸術の花開く都市展	29.8
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	23.1

単位：％

④　来館のきっかけ

全体

		件数（件）	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	友人・知人・家族などに誘われて・勧められて	一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた	たまたま時間があった	その他
平成24年度	ユベール・ロベール展	277	18.4	5.8	12.3	10.5	1.1	14.1	10.1	21.7	5.1	11.9	19.1
	江戸絵画の楽園展	275	14.9	9.1	15.3	4.4	1.8	14.9	21.8	21.1	4.4	10.9	11.3
	川村清雄展	274	15.3	6.9	15.0	23.7	1.5	12.8	16.4	17.5	5.8	14.2	9.1
経年	平成24年度全体		16.2	7.3	14.2	12.8	1.5	13.9	16.1	20.1	5.1	12.3	13.2
	平成23年度全体		22.9	6.3	16.2	16.6	3.7	12.2	12.7	18.6	4.4	9.8	10.0
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	248	28.2	8.5	4.8	11.3	0.0	11.3	11.3	23.8	4.8	11.7	13.7
	芸術の花開く都市展	224	17.4	5.8	19.2	8.0	3.1	15.6	15.2	17.4	7.1	13.8	6.7
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	239	22.6	4.6	25.1	30.1	7.9	10.0	11.7	14.2	1.3	4.2	9.2

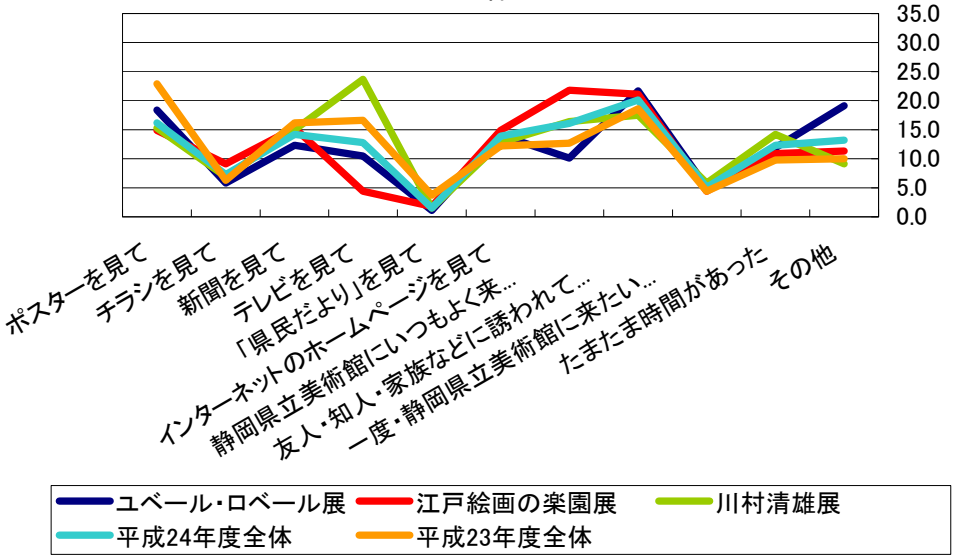
単位：％

新規来館者

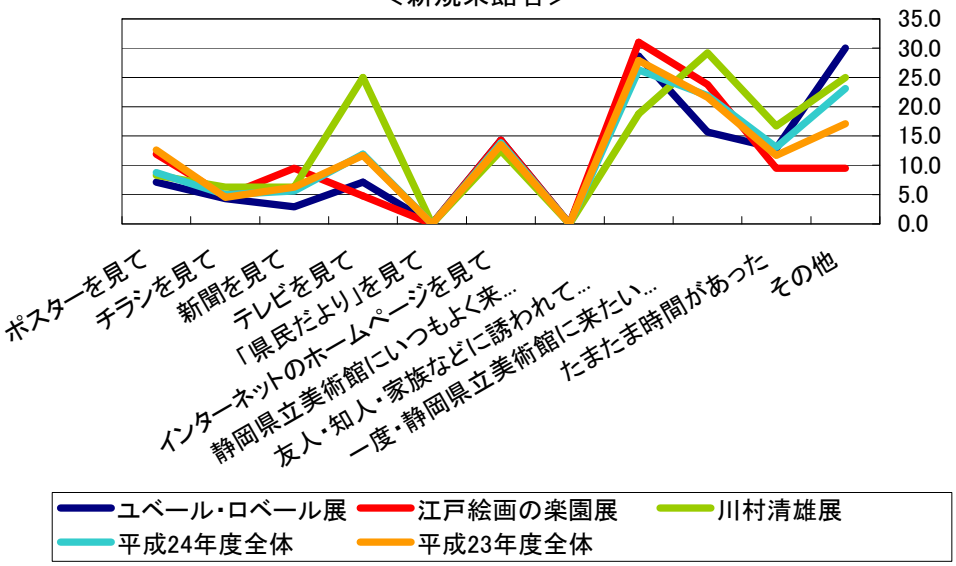
		件数（件）	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	友人・知人・家族などに誘われて・勧められて	一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた	たまたま時間があった	その他
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	7.1	4.3	2.9	7.1	0.0	14.3	0.0	28.6	15.7	12.9	30.0
	江戸絵画の楽園展	42	11.9	4.8	9.5	4.8	0.0	14.3	0.0	31.0	23.8	9.5	9.5
	川村清雄展	48	8.3	6.3	6.3	25.0	0.0	12.5	0.0	18.8	29.2	16.7	25.0
経年	平成24年度全体		8.8	5.0	5.6	11.9	0.0	13.8	0.0	26.3	21.9	13.1	23.1
	平成23年度全体		12.6	4.5	6.3	11.7	0.0	13.5	0.0	27.9	21.6	11.7	17.1
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	15.7	5.9	0.0	9.8	0.0	17.6	0.0	33.3	23.5	13.7	11.8
	芸術の花開く都市展	36	8.3	5.6	2.8	11.1	0.0	13.9	0.0	25.0	30.6	11.1	19.4
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	24	12.5	0.0	25.0	16.7	0.0	4.2	0.0	20.8	4.2	8.3	25.0

単位：％

＜ 全 体 ＞



＜新規来館者＞



〈全体〉をみると、平成 24 年度は「友人・知人・家族などに誘われて・勧められて」が 20.1%と最も多い。展覧会別でみると、『ユベール・ロベール展』は「友人・知人・家族などに誘われて・勧められて」（21.7%）が、『江戸絵画の楽園展』は「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」（21.8%）が、『川村清雄展』は「テレビを見て」（23.7%）がそれぞれ最も多く、異なる傾向となっている。特に、「新聞を見て」及び「テレビを見て」は展覧会により差が大きく（『ユベール・ロベール展』＝22.8%、『江戸絵画の楽園展』＝19.7%、『川村清雄展』＝38.7%）、情報源メディアの効果に差が出る結果となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は〈全体〉同様、「友人・知人・家族などに誘われて・勧められて」が 26.3%と最も多くなっている。『川村清雄展』では、他の展覧会に比べ、「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」（29.2%）が多くなっている。

（４）　展覧会の評価

①　作品やテーマについての興味・関心の深まり

全体

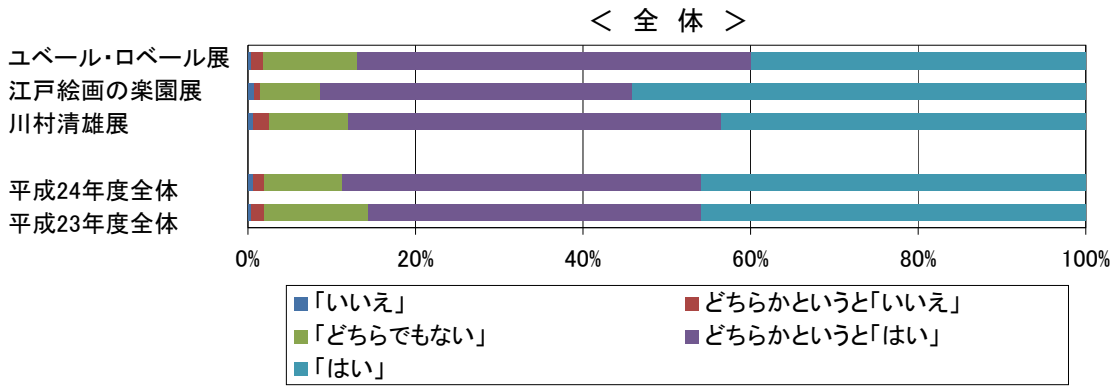
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	0.4	1.4	11.2	47.1	39.9
	江戸絵画の楽園展	275	0.7	0.7	7.3	37.1	54.2
	川村清雄展	276	0.7	1.8	9.4	44.6	43.5
経年	平成24年度全体		0.6	1.3	9.3	42.9	45.8
	平成23年度全体		0.4	1.6	12.3	39.8	45.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	248	0.8	2.4	9.3	31.5	56.0
	芸術の花開く都市展	222	0.0	1.4	17.6	42.3	38.7
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	238	0.4	0.8	10.5	46.2	42.0

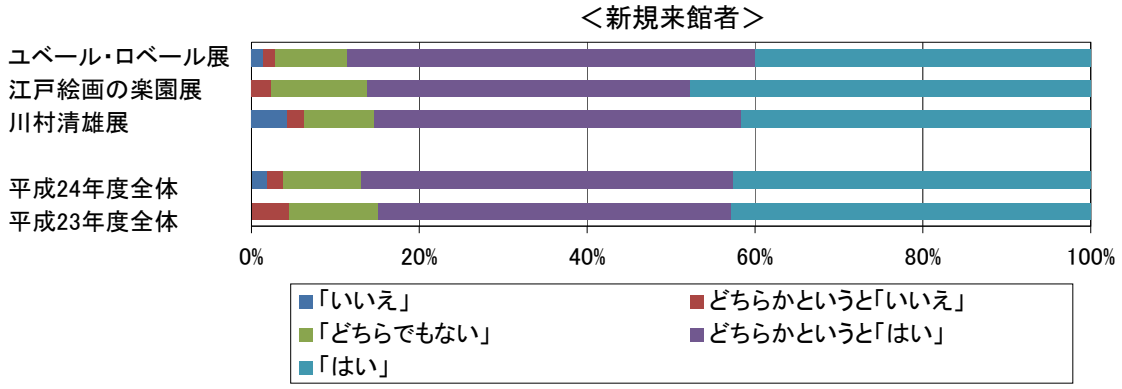
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	1.4	1.4	8.6	48.6	40.0
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	2.3	11.4	38.6	47.7
	川村清雄展	48	4.2	2.1	8.3	43.8	41.7
経年	平成24年度全体		1.9	1.9	9.3	44.4	42.6
	平成23年度全体		0.0	4.5	10.7	42.0	42.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	0.0	2.0	11.8	39.2	47.1
	芸術の花開く都市展	36	0.0	5.6	8.3	41.7	44.4
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	25	0.0	8.0	12.0	48.0	32.0

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 88.7%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『江戸絵画の楽園展』の 91.3%、次いで『川村清雄展』が 88.1%、『ユベール・ロベール展』が 87.0%と、いずれも８割半以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 87.0%で〈全体〉とほぼ同様となっている。

評価指標３　作品やテーマに興味を持った人の割合

平成24年度	ユベール・ロベール展	87.0
	江戸絵画の楽園展	91.3
	川村清雄展	88.1
経年	平成 24 年度全体	88.7
	平成 23 年度全体	85.7
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	87.5
	芸術の花開く都市展	81.0
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	88.2

単位：%

② 展覧会の会場で心地よく観覧できたか

全体

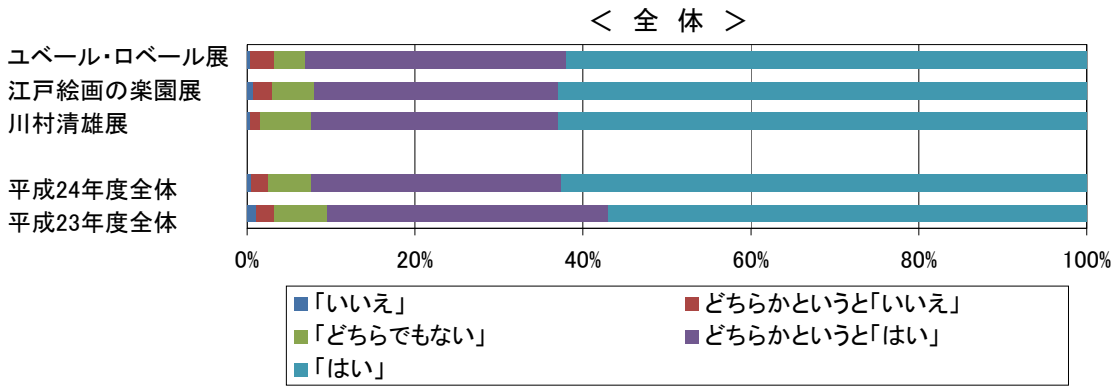
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	0.4	2.9	3.6	31.2	62.0
	江戸絵画の楽園展	276	0.7	2.2	5.1	29.0	63.0
	川村清雄展	276	0.4	1.1	6.2	29.3	63.0
経年	平成24年度全体		0.5	2.1	5.0	29.8	62.7
	平成23年度全体		1.1	2.1	6.3	33.5	56.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	249	1.6	3.2	6.0	30.1	59.0
	芸術の花開く都市展	222	0.9	1.8	5.0	29.7	62.6
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	239	0.8	1.3	7.9	40.6	49.4

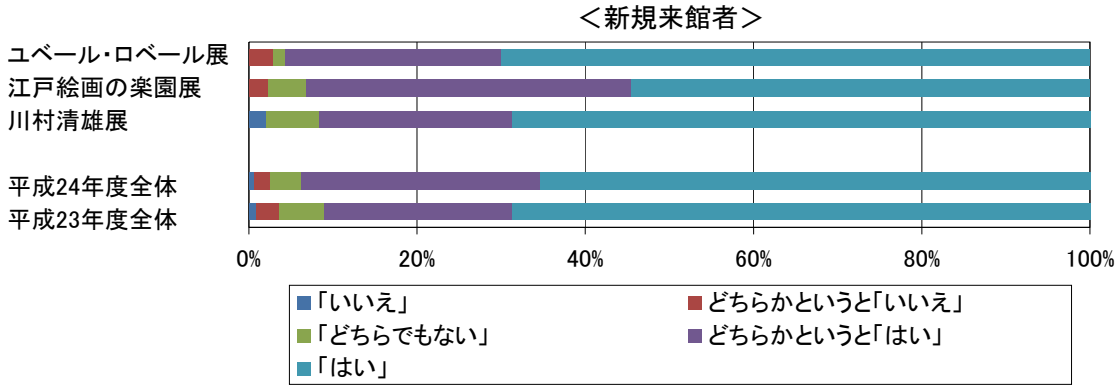
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	0.0	2.9	1.4	25.7	70.0
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	2.3	4.5	38.6	54.5
	川村清雄展	48	2.1	0.0	6.3	22.9	68.8
経年	平成24年度全体		0.6	1.9	3.7	28.4	65.4
	平成23年度全体		0.9	2.7	5.4	22.3	68.8
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	2.0	0.0	7.8	29.4	60.8
	芸術の花開く都市展	36	0.0	2.8	2.8	13.9	80.6
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	25	0.0	8.0	4.0	20.0	68.0

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 92.5%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『ユベール・ロベール展』の 93.2%、次いで『川村清雄展』が 92.3%、『江戸絵画の楽園展』が 92.0%と、いずれも 9 割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 93.8%で〈全体〉とほぼ同様となっている。

美術館カルテ 32　鑑賞環境に対する満足度

平成24年度	ユベール・ロベール展	93.2
	江戸絵画の楽園展	92.0
	川村清雄展	92.3
経年	平成 24 年度全体	92.5
	平成 23 年度全体	90.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	89.1
	芸術の花開く都市展	92.3
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	90.0

単位：%

③　スタッフの対応は適切であったか

全体

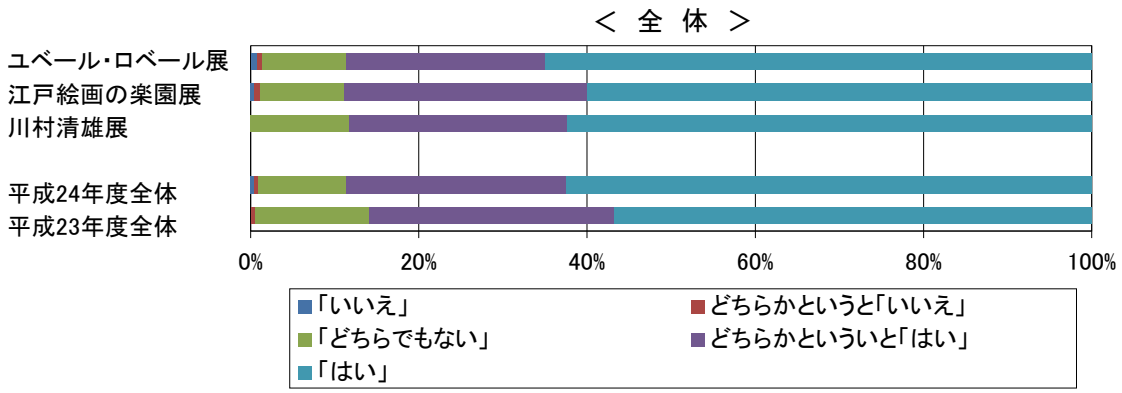
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	274	0.7	0.7	9.9	23.7	65.0
	江戸絵画の楽園展	270	0.4	0.7	10.0	28.9	60.0
	川村清雄展	274	0.0	0.0	11.7	25.9	62.4
経年	平成24年度全体		0.4	0.5	10.5	26.2	62.5
	平成23年度全体		0.1	0.4	13.6	29.1	56.7
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	248	0.0	0.4	10.9	27.4	61.3
	芸術の花開く都市展	222	0.0	0.5	14.9	29.7	55.0
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	237	0.4	0.4	15.2	30.4	53.6

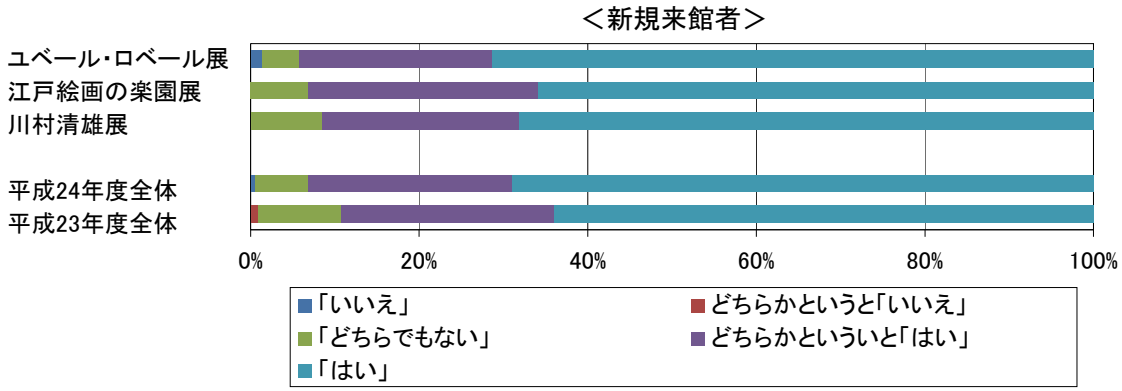
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	1.4	0.0	4.3	22.9	71.4
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	0.0	6.8	27.3	65.9
	川村清雄展	47	0.0	0.0	8.5	23.4	68.1
経年	平成24年度全体		0.6	0.0	6.2	24.2	68.9
	平成23年度全体		0.0	0.9	9.9	25.2	64.0
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	0.0	0.0	7.8	33.3	58.8
	芸術の花開く都市展	36	0.0	2.8	13.9	22.2	61.1
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	24	0.0	0.0	8.3	12.5	79.2

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 88.7%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『江戸絵画の楽園展』の 88.9%、次いで『ユベール・ロベール展』が 88.7%、『川村清雄展』が 88.3%と、いずれも８割半以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 93.1%で〈全体〉を少し上回っている。

美術館カルテ 29　美術館スタッフの対応に満足した人の割合

平成24年度	ユベール・ロベール展	88.7
	江戸絵画の楽園展	88.9
	川村清雄展	88.3
経年	平成 24 年度全体	88.7
	平成 23 年度全体	85.8
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	88.7
	芸術の花開く都市展	84.7
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	84.0

単位：%

④　この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか

全体

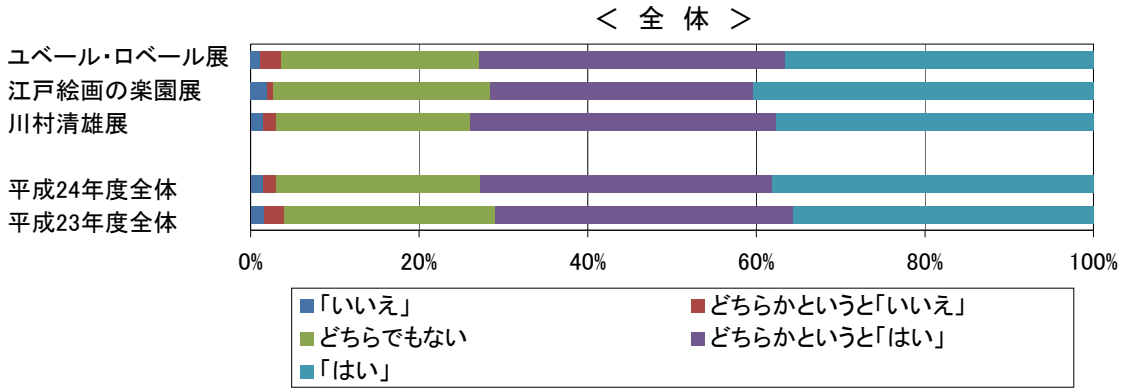
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	273	1.1	2.6	23.4	36.3	36.6
	江戸絵画の楽園展	268	1.9	0.7	25.7	31.3	40.3
	川村清雄展	273	1.5	1.5	23.1	36.3	37.7
経年	平成24年度全体		1.5	1.6	24.1	34.6	38.2
	平成23年度全体		1.6	2.4	25.0	35.3	35.7
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	247	2.4	3.6	15.0	36.8	42.1
	芸術の花開く都市展	220	1.4	1.4	30.9	37.3	29.1
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	238	0.8	2.1	29.8	31.9	35.3

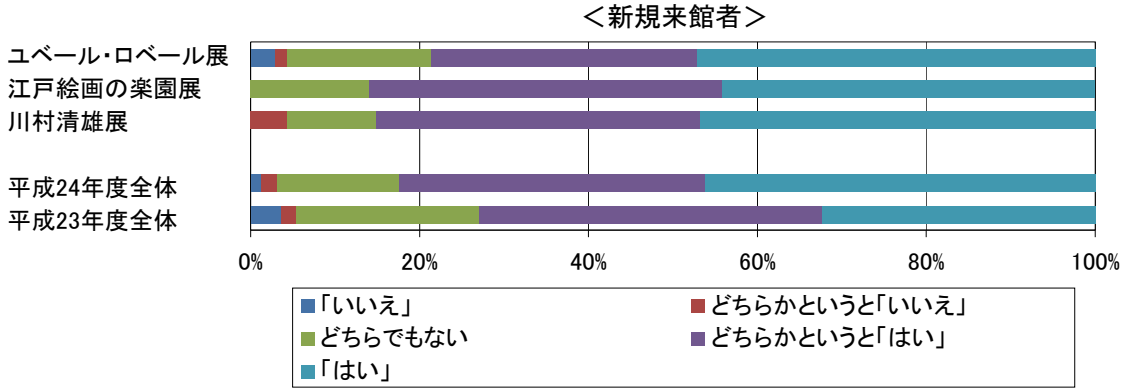
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	2.9	1.4	17.1	31.4	47.1
	江戸絵画の楽園展	43	0.0	0.0	14.0	41.9	44.2
	川村清雄展	47	0.0	4.3	10.6	38.3	46.8
経年	平成24年度全体		1.3	1.9	14.4	36.3	46.3
	平成23年度全体		3.6	1.8	21.6	40.5	32.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	51	3.9	2.0	17.6	45.1	31.4
	芸術の花開く都市展	36	5.6	0.0	19.4	33.3	41.7
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	24	0.0	4.2	33.3	41.7	20.8

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 72.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『川村清雄展』の 74.0%、次いで『ユベール・ロベール展』が 72.9%、『江戸絵画の楽園展』が 71.6%と、いずれも 7 割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 82.6%で〈全体〉を 1 割程度上回っている。

⑤　当美術館に関する情報は入手しやすいか

全体

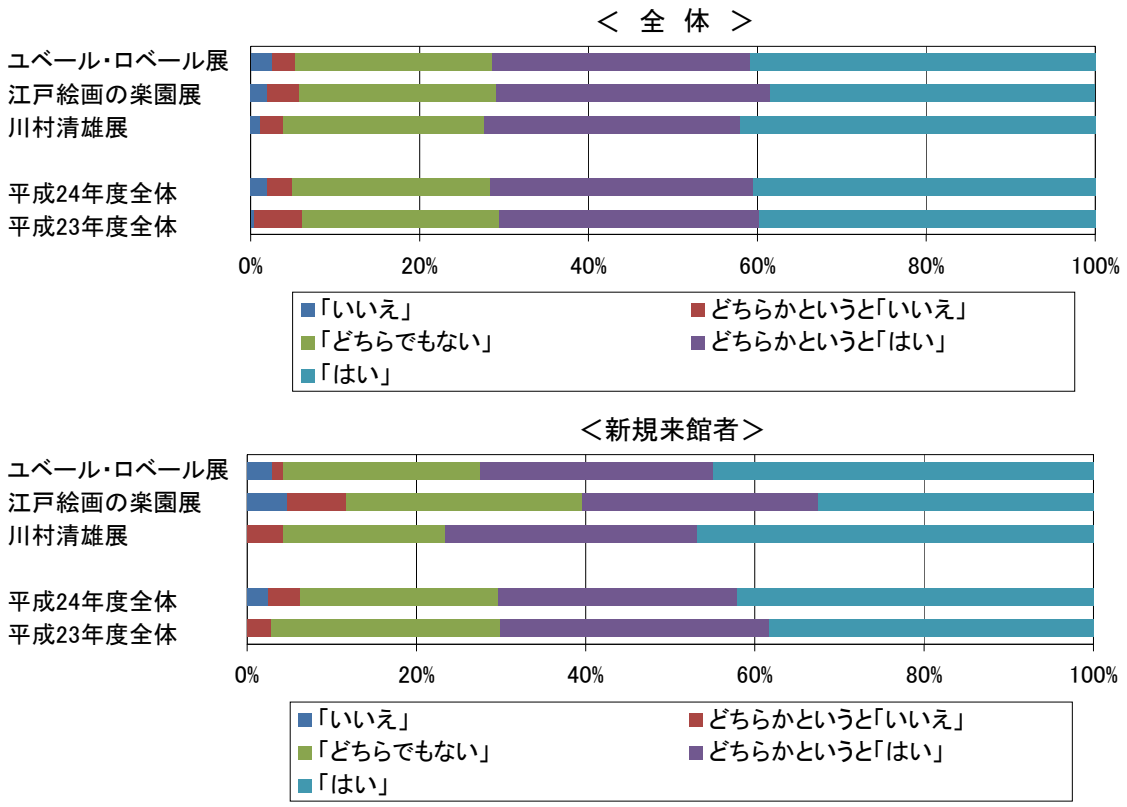
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	269	2.6	2.6	23.4	30.5	40.9
	江戸絵画の楽園展	265	1.9	3.8	23.4	32.5	38.5
	川村清雄展	261	1.1	2.7	23.8	30.3	42.1
経年	平成24年度全体		1.9	3.0	23.5	31.1	40.5
	平成23年度全体		0.4	5.7	23.4	30.7	39.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	243	1.2	7.4	21.8	27.2	42.4
	芸術の花開く都市展	211	0.0	7.1	26.1	31.3	35.5
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	231	0.0	2.6	22.5	33.8	41.1

単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	69	2.9	1.4	23.2	27.5	44.9
	江戸絵画の楽園展	43	4.7	7.0	27.9	27.9	32.6
	川村清雄展	47	0.0	4.3	19.1	29.8	46.8
経年	平成24年度全体		2.5	3.8	23.3	28.3	42.1
	平成23年度全体		0.0	2.8	27.1	31.8	38.3
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	50	0.0	0.0	26.0	36.0	38.0
	芸術の花開く都市展	35	0.0	8.6	25.7	22.9	42.9
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	22	0.0	0.0	31.8	36.4	31.8

単位：％



〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 71.6%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『川村清雄展』の 72.4%、次いで『ユベール・ロベール展』が 71.4%、『江戸絵画の楽園展』が 71.0%と、いずれも 7 割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 70.4%で〈全体〉とほぼ同様となっている。

評価指標 24　当館に関する情報が入手しやすいとする人の割合

平成24年度	ユベール・ロベール展	71.4
	江戸絵画の楽園展	71.0
	川村清雄展	72.4
経年	平成 24 年度全体	71.6
	平成 23 年度全体	70.6
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	69.6
	芸術の花開く都市展	66.8
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	74.9

単位：%

⑥－１　利用交通機関

全体

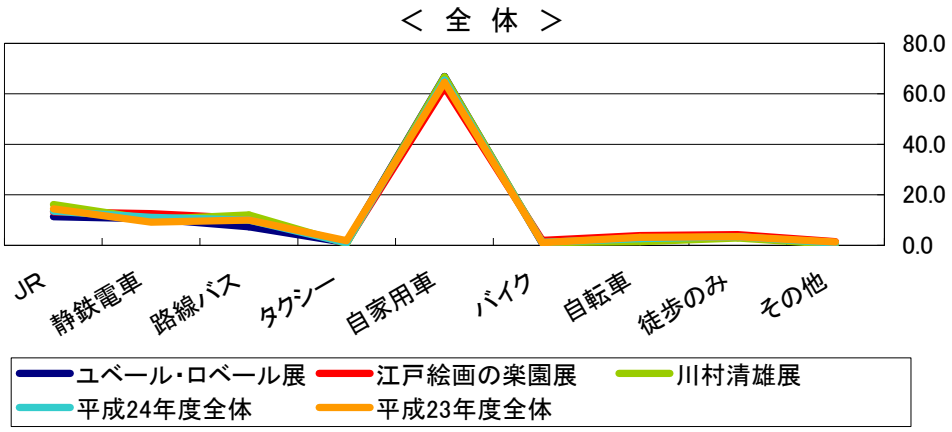
		件数（件）	ＪＲ	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成24年度	ユベール・ロベール展	275	11.3	10.5	7.3	1.1	66.9	0.7	2.9	3.3	0.7
	江戸絵画の楽園展	265	13.2	12.5	10.6	1.1	62.6	1.9	3.8	4.2	1.5
	川村清雄展	273	16.1	10.3	12.1	0.7	66.7	1.1	1.5	2.9	0.4
経年	平成24年度全体		13.5	11.1	10.0	1.0	65.4	1.2	2.7	3.4	0.9
	平成23年度全体		14.5	9.2	10.0	1.8	64.6	1.1	3.1	3.4	1.3
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	247	15.4	10.9	6.5	2.0	57.9	2.0	6.5	6.5	0.4
	芸術の花開く都市展	222	13.5	6.8	14.0	0.0	70.3	1.4	1.8	1.4	0.5
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	240	14.6	9.6	10.0	3.3	66.3	0.0	0.8	2.1	2.9

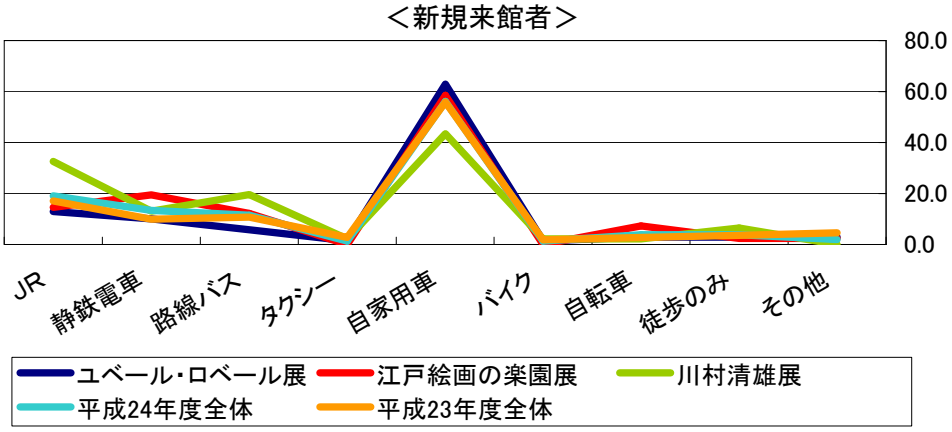
単位：％

新規来館者

		件数（件）	ＪＲ	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	12.9	10.0	5.7	1.4	62.9	1.4	2.9	2.9	2.9
	江戸絵画の楽園展	41	14.6	19.5	12.2	0.0	58.5	0.0	7.3	2.4	2.4
	川村清雄展	46	32.6	13.0	19.6	2.2	43.5	2.2	2.2	6.5	0.0
経年	平成24年度全体		19.1	13.4	11.5	1.3	56.1	1.3	3.8	3.8	1.9
	平成23年度全体		17.1	9.9	10.8	2.7	55.9	1.8	2.7	3.6	4.5
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	50	16.0	12.0	6.0	4.0	52.0	4.0	4.0	6.0	2.0
	芸術の花開く都市展	36	19.4	8.3	13.9	0.0	66.7	0.0	2.8	0.0	0.0
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	25	16.0	8.0	16.0	4.0	48.0	0.0	0.0	4.0	16.0

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「自家用車」が 65.4%と最も多く、前年度、また、いずれの展覧会も同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は「自家用車」が 56.1%と最も多く、〈全体〉を下回るものの半数超となっている。

⑥－２　公共交通機関の利用はスムーズであったか

全体

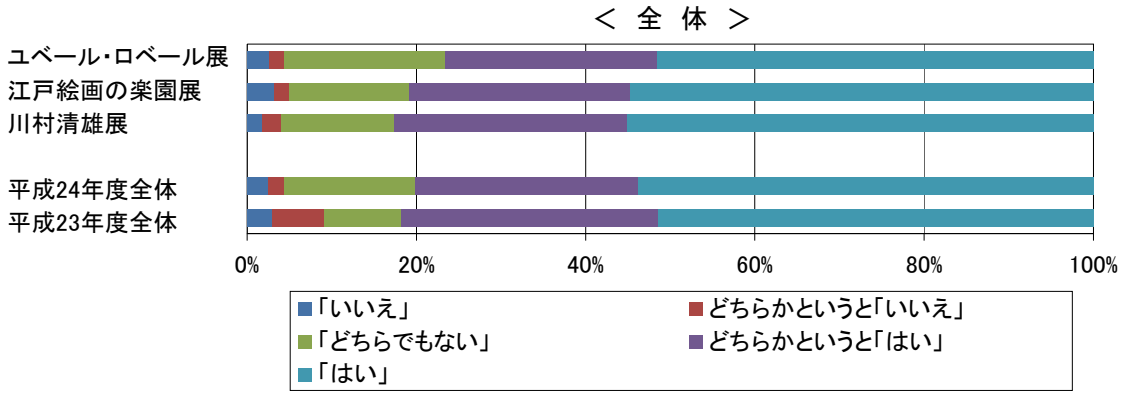
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	227	2.6	1.8	18.9	25.1	51.5
	江戸絵画の楽園展	219	3.2	1.8	14.2	26.0	54.8
	川村清雄展	225	1.8	2.2	13.3	27.6	55.1
経年	平成24年度全体		2.5	1.9	15.5	26.2	53.8
	平成23年度全体		3.0	6.1	9.1	30.3	51.5
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	15	6.7	0.0	13.3	33.3	46.7
	芸術の花開く都市展	11	0.0	9.1	9.1	18.2	63.6
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	7	0.0	14.3	0.0	42.9	42.9

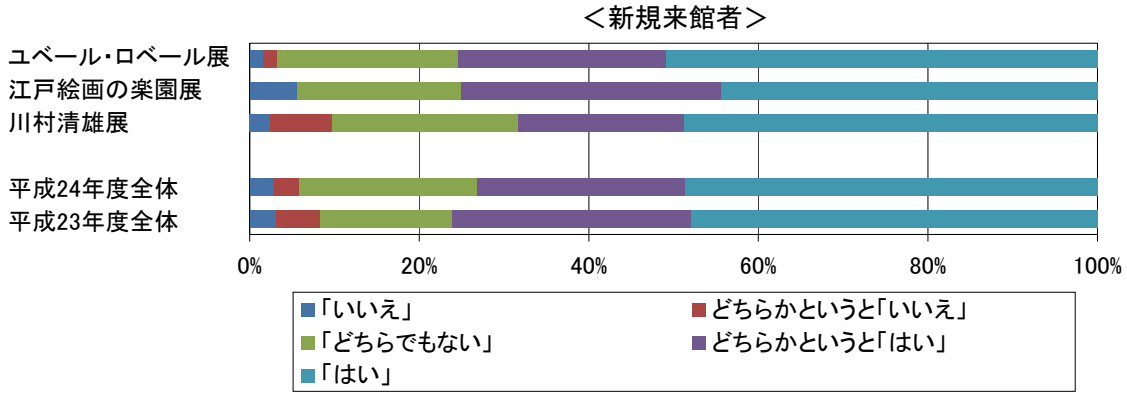
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	61	1.6	1.6	21.3	24.6	50.8
	江戸絵画の楽園展	36	5.6	0.0	19.4	30.6	44.4
	川村清雄展	41	2.4	7.3	22.0	19.5	48.8
経年	平成24年度全体		2.9	2.9	21.0	24.6	48.6
	平成23年度全体		3.1	5.2	15.6	28.1	47.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	42	4.8	4.8	14.3	28.6	47.6
	芸術の花開く都市展	35	0.0	5.7	22.9	25.7	45.7
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	19	5.3	5.3	5.3	31.6	52.6

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が８割を占める。肯定的評価が最も高かった展覧会は『川村清雄展』の 82.7%、次いで『江戸絵画の楽園展』が 80.8%、『ユベール・ロベール展』が 76.6%となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 73.2%で〈全体〉をやや下回る。

評価指標 35　公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

美術館カルテ 26　公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

平成24年度	ユベール・ロベール展	76.6
	江戸絵画の楽園展	80.8
	川村清雄展	82.7
経年	平成 24 年度全体	80.0
	平成 23 年度全体	81.8
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	80.0
	芸術の花開く都市展	81.8
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	85.8

単位：%

⑥－３　自家用車の利用はスムーズであったか

全体

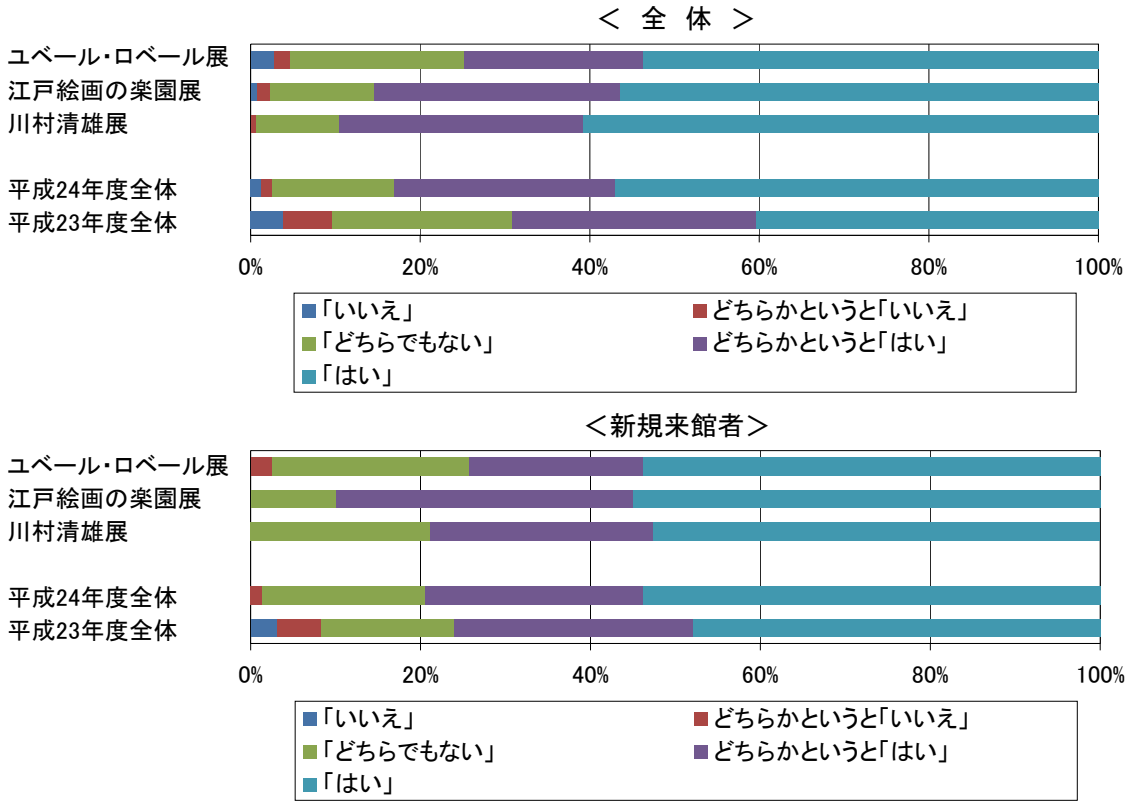
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	147	2.7	2.0	20.4	21.1	53.7
	江戸絵画の楽園展	131	0.8	1.5	12.2	29.0	56.5
	川村清雄展	143	0.0	0.7	9.8	28.7	60.8
経年	平成24年度全体		1.2	1.4	14.3	26.1	57.0
	平成23年度全体		3.8	5.8	21.2	28.8	40.4
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	21	4.8	9.5	14.3	28.6	42.9
	芸術の花開く都市展	23	0.0	4.3	30.4	30.4	34.8
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	8	12.5	0.0	12.5	25.0	50.0

単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	39	0.0	2.6	23.1	20.5	53.8
	江戸絵画の楽園展	20	0.0	0.0	10.0	35.0	55.0
	川村清雄展	19	0.0	0.0	21.1	26.3	52.6
経年	平成24年度全体		0.0	1.3	19.2	25.6	53.8
	平成23年度全体		3.1	5.2	15.6	28.1	47.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	42	4.8	4.8	14.3	28.6	47.6
	芸術の花開く都市展	35	0.0	5.7	22.9	25.7	45.7
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	19	5.3	5.3	5.3	31.6	52.6

単位：％



〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 83.1%となっており、前年度に比べて 13.9 ポイント増加している。肯定的評価が最も高かった展覧会は『川村清雄展』の 89.5%、次いで『江戸絵画の楽園展』が 85.5%、『ユベール・ロベール展』が 74.8%と、展覧会により差がみられた。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は肯定的評価が 79.4%で〈全体〉をやや下回る。

評価指標 35　自家用車で来館した人のアクセス満足度

美術館カルテ 27　自家用車で来館した人のアクセス満足度

平成24年度	ユベール・ロベール展	74.8
	江戸絵画の楽園展	85.5
	川村清雄展	89.5
経年	平成 24 年度全体	83.1
	平成 23 年度全体	69.2
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	71.5
	芸術の花開く都市展	65.2
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	75.0

単位：%

⑦　全体的に見て、今回の来館は満足いただけたか（総合満足度）

全体

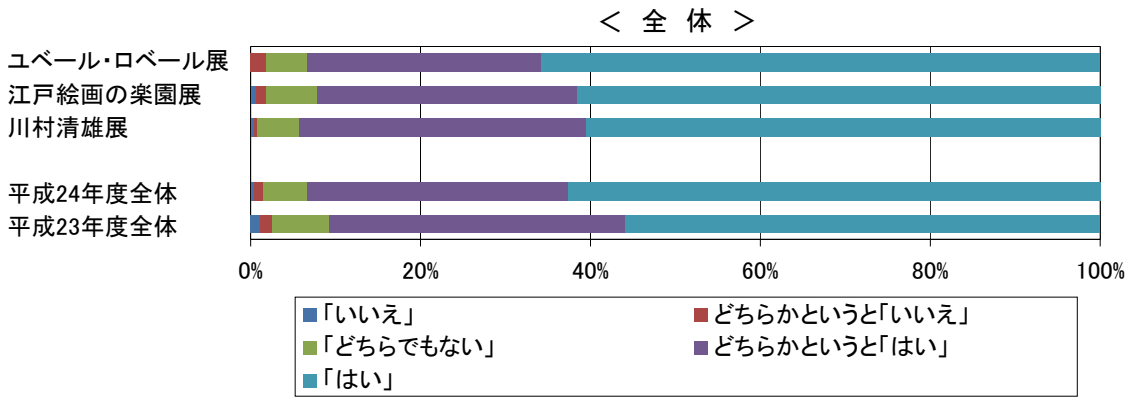
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	272	0.0	1.8	4.8	27.6	65.8
	江戸絵画の楽園展	268	0.7	1.1	6.0	30.6	61.6
	川村清雄展	264	0.4	0.4	4.9	33.7	60.6
経年	平成24年度全体		0.4	1.1	5.2	30.6	62.7
	平成23年度全体		1.1	1.4	6.7	34.9	55.9
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	246	1.2	1.2	5.3	28.9	63.4
	芸術の花開く都市展	220	0.9	1.8	7.3	37.3	52.7
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	237	1.3	1.3	7.6	38.8	51.1

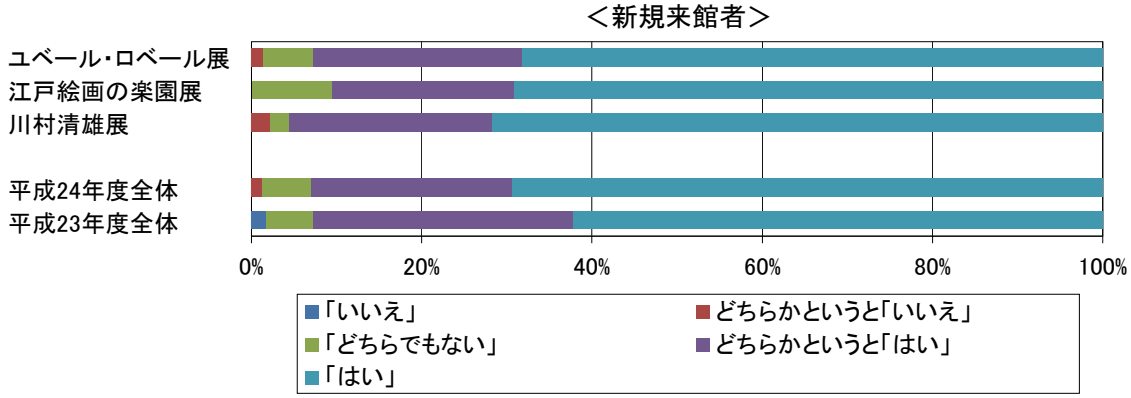
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	69	0.0	1.4	5.8	24.6	68.1
	江戸絵画の楽園展	42	0.0	0.0	9.5	21.4	69.0
	川村清雄展	46	0.0	2.2	2.2	23.9	71.7
経年	平成24年度全体		0.0	1.3	5.7	23.6	69.4
	平成23年度全体		1.8	0.0	5.4	30.6	62.2
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	50	2.0	0.0	8.0	26.0	64.0
	芸術の花開く都市展	36	2.8	0.0	2.8	27.8	66.7
	京都千年の美の系譜 ―祈りと風景	25	0.0	0.0	4.0	44.0	52.0

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「どちらかというと「はい」」と「はい」を合わせた肯定的評価が 93.3%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『川村清雄展』の 94.3%、次いで『ユベール・ロベール展』が 93.4%、『江戸絵画の楽園展』が 92.2%と、いずれも 9 割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 は肯定的評価が 93.0%と〈全体〉と同様となっている。

美術館カルテ５　展覧会の満足度

美術館カルテ 52　展覧会における新規観覧者の満足度

		展覧会の満足度	展覧会の満足度（新規来館者）
平成24年度	ユベール・ロベール展	93.4	92.7
	江戸絵画の楽園展	92.2	90.4
	川村清雄展	94.3	95.6
経年	平成 24 年度全体	93.3	93.0
	平成 23 年度全体	90.8	92.8
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	92.3	90.0
	芸術の花開く都市展	90.0	94.5
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	89.9	96.0

単位：%

⑧　「風景の美術館」であることを知っているか

全体

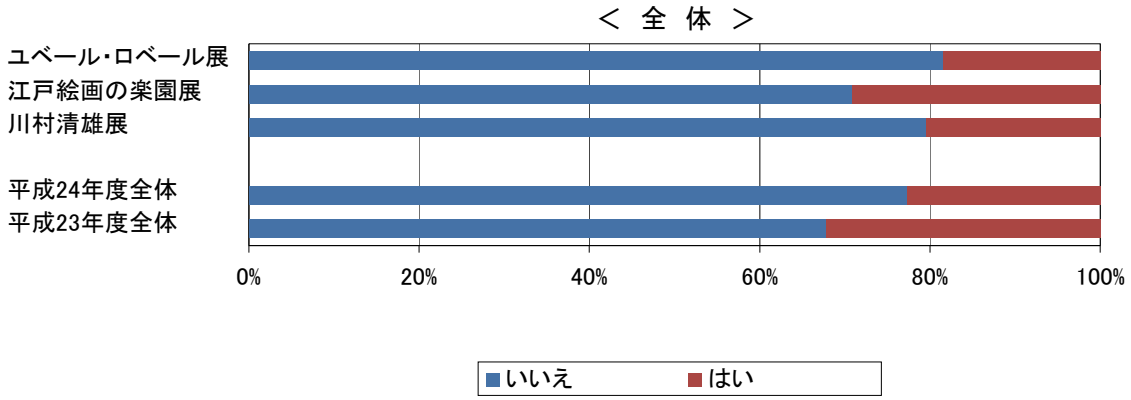
		件数（件）	「いいえ」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	265	81.5	18.5
	江戸絵画の楽園展	260	70.8	29.2
	川村清雄展	258	79.5	20.5
経年	平成24年度全体		77.3	22.7
	平成23年度全体		67.8	32.2
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	243	70.0	30.0
	芸術の花開く都市展	213	65.7	34.3
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	234	67.5	32.5

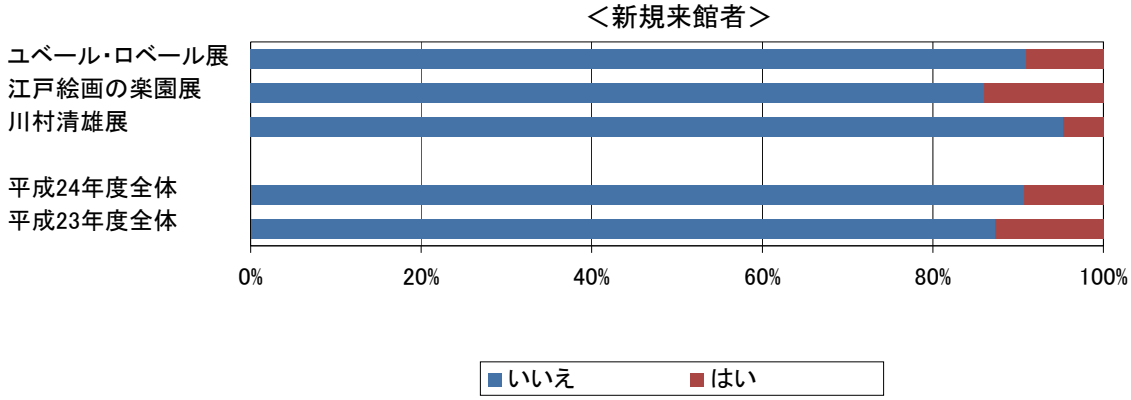
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	「はい」
平成24年度	ユベール・ロベール展	66	90.9	9.1
	江戸絵画の楽園展	43	86.0	14.0
	川村清雄展	42	95.2	4.8
経年	平成24年度全体		90.7	9.3
	平成23年度全体		87.3	12.7
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	50	84.0	16.0
	芸術の花開く都市展	35	91.4	8.6
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	25	88.0	12.0

単位：％





〈全体〉をみると、平成 24 年度は「はい」が 22.7%と 2 割台となり、前年度を下回っている。

〈新規来館者〉をみると、平成 24 年度は「はい」が 9.3%と、〈全体〉と比較するとその半数以下となっている。

美術館カルテ 23　風景の美術館としての認知度

平成24年度	ユベール・ロベール展	18.5
	江戸絵画の楽園展	29.2
	川村清雄展	20.5
経年	平成 24 年度全体	22.7
	平成 23 年度全体	32.2
平成23年度	小谷元彦　幽体の知覚展	30.0
	芸術の花開く都市展	34.3
	京都千年の美の系譜 —祈りと風景	32.5

単位：%

５　レストランアンケート結果

（１）　実施数（回答数）

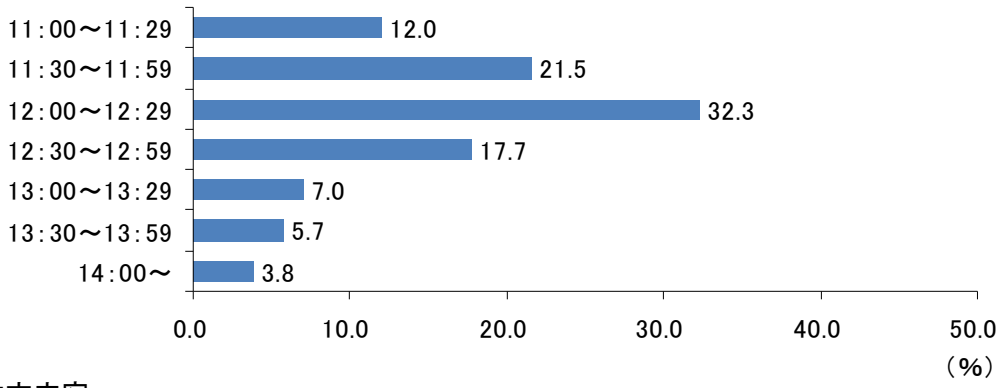
ユベール・ロベール展	51 件
江戸絵画の楽園展	52 件
川村清雄展	55 件
合計	158 件

（２）　アンケート結果

Ａ１　入店時刻

	全　体	11：00～11：29	11：30～11：59	12：00～12：29	12：30～12：59	13：00～13：29	13：30～13：59	14：00～
回答数（件）	158	19	34	51	28	11	9	6
割合（%）	100.0	12.0	21.5	32.3	17.7	7.0	5.7	3.8

【A1】



Ａ２　注文内容

注文した料理	回答数（件）	注文した料理	回答数（件）
Ａランチ	51 件	デザートセット	２件
Ｂランチ	28 件	ケーキ単品	２件
スペシャルセット（エビ・カニクリーム）	20 件	ブレンドコーヒー	２件
特別料理	18 件	朝霧ヨーグル豚のマスタードクリーム	１件
ハンバーグステーキ三島茄子添え	13 件	富士の国豚黒酢煮込み	１件
キノコとチキンの和風スパゲッティ	７件	お子様オムライス	１件
牛ステーキ＆オムライス	４件	ベーグル（ベーコン＆オムレツ）サラダセット	１件
牛ハヤシライス	３件	アイスコーヒー	１件
ハンバーグカレー	３件	カフェ・オレ（アイス）	１件
シラスとカニのあんかけピラフ	２件	アイスティー	１件
牛ロースステーキ	２件	ビール（中瓶）	１件
駿河の海幸トマト風味スパゲッティ	２件		

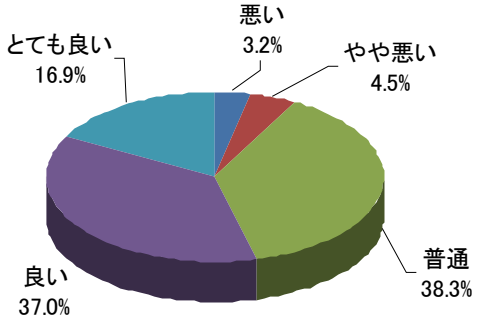
Ａ３　内容表示のわかりやすさ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	154	5	7	59	57	26
割合（%）	100.0	3.2	4.5	38.3	37.0	16.9

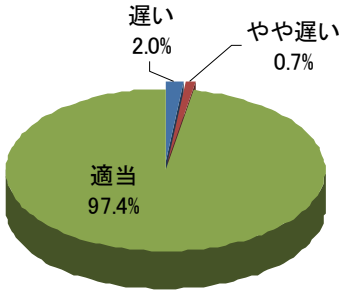
Ａ４　席に案内するまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数（件）	152	3	1	148
割合（%）	100.0	2.0	0.7	97.4

【A3】



【A4】



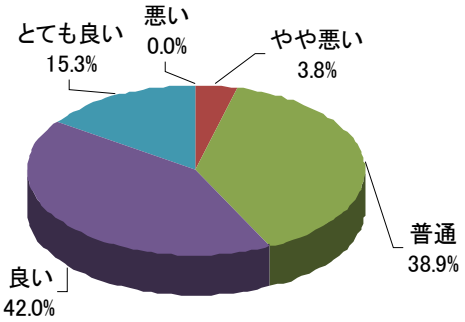
Ａ５　メニューの種類

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	157	0	6	61	66	24
割合（%）	100.0	0.0	3.8	38.9	42.0	15.3

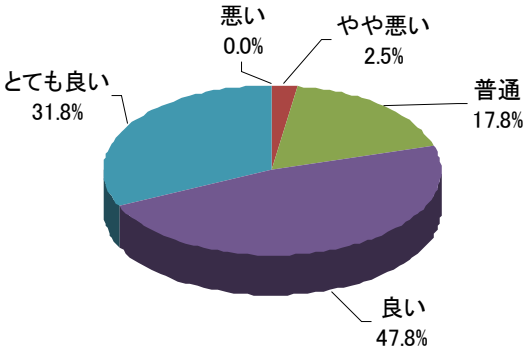
Ａ６　味

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	157	0	4	28	75	50
割合（%）	100.0	0.0	2.5	17.8	47.8	31.8

【A5】



【A6】



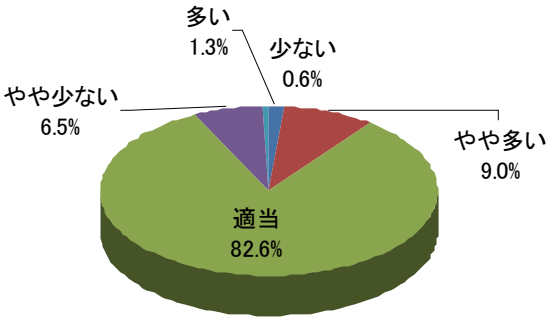
Ａ７　量

	全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
回答数（件）	155	2	14	128	10	1
割合（%）	100.0	1.3	9.0	82.6	6.5	0.6

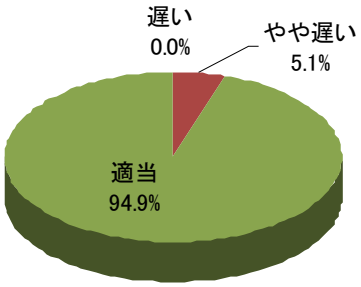
Ａ８　料理が出るまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数（件）	157	0	8	149
割合（%）	100.0	0.0	5.1	94.9

【A7】



【A8】



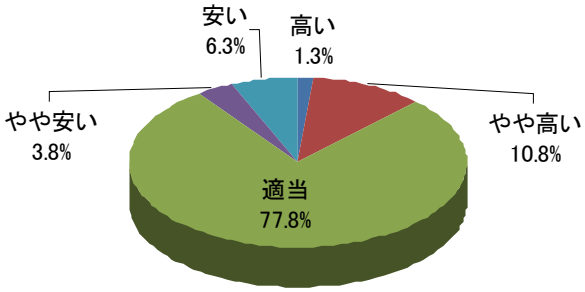
Ａ９　値　段

	全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
回答数（件）	158	2	17	123	6	10
割合（%）	100.0	1.3	10.8	77.8	3.8	6.3

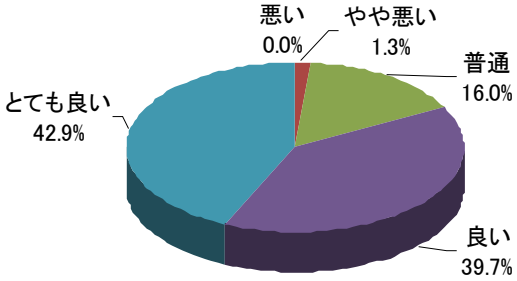
Ａ10　店の雰囲気、清潔さ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	156	0	2	25	62	67
割合（%）	100.0	0.0	1.3	16.0	39.7	42.9

【A9】



【A10】



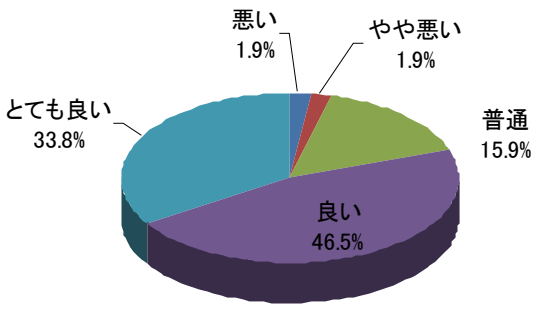
Ａ11　従業員の言葉遣いや態度

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	157	3	3	25	73	53
割合（%）	100.0	1.9	1.9	15.9	46.5	33.8

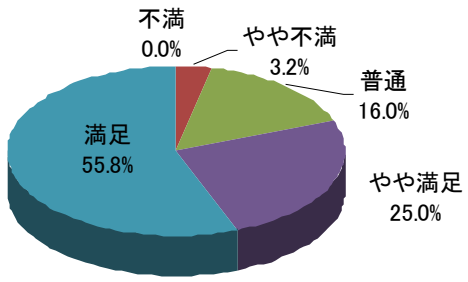
Ａ12　満足度

	全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
回答数（件）	156	0	5	25	39	87
割合（%）	100.0	0.0	3.2	16.0	25.0	55.8

【A11】



【A12】



Ａ13　不満や改善点（略）

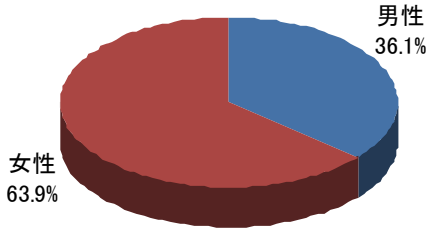
Ｂ１　性　別

	全体	男性	女性
回答数（件）	158	57	101
割合（%）	100.0	36.1	63.9

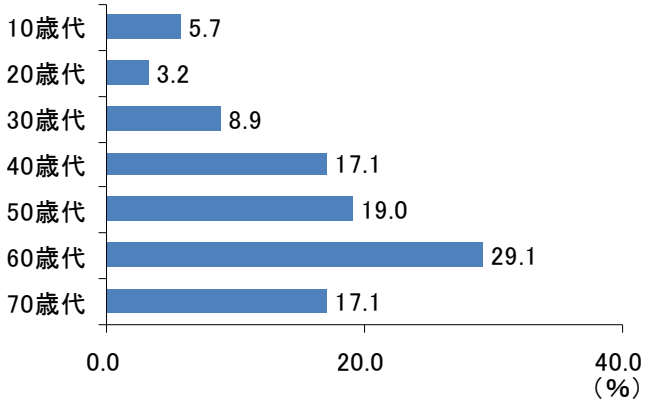
Ｂ２　年　齢

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代
回答数（件）	158	9	5	14	27	30	46	27
割合（%）	100.0	5.7	3.2	8.9	17.1	19.0	29.1	17.1

【B1】



【B2】

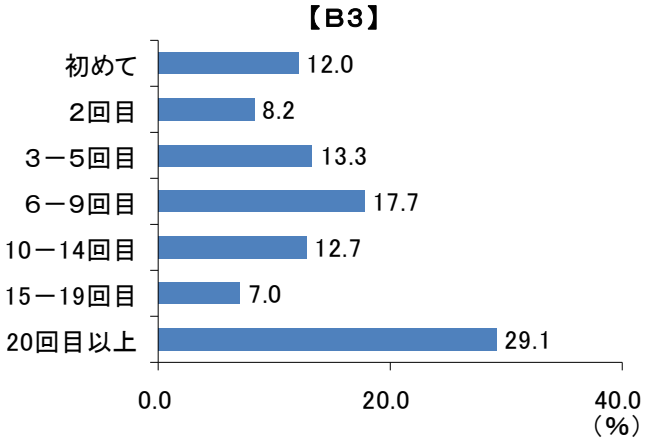


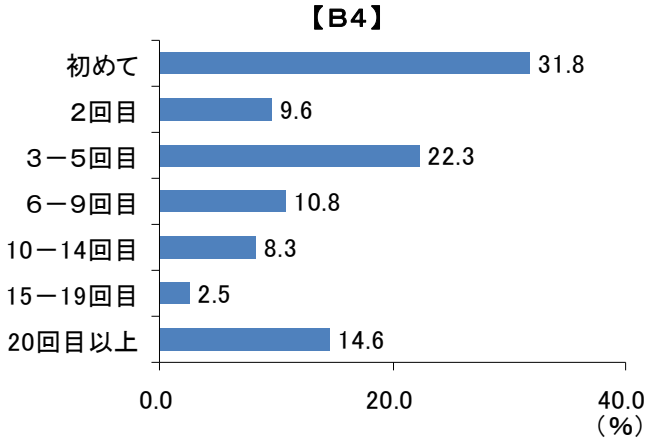
Ｂ３　来館回数

	全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－14回目	15－19回目	20回目以上
回答数（件）	158	19	13	21	28	20	11	46
割合（%）	100.0	12.0	8.2	13.3	17.7	12.7	7.0	29.1

Ｂ４　レストランの利用回数

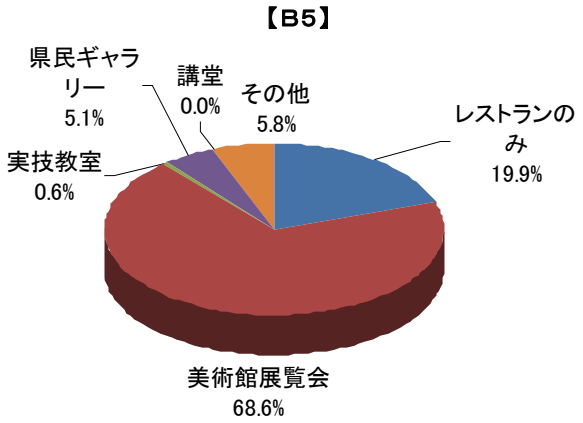
	全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－14回目	15－19回目	20回目以上
回答数（件）	157	50	15	35	17	13	4	23
割合（%）	100.0	31.8	9.6	22.3	10.8	8.3	2.5	14.6





Ｂ５　主な来館目的

	全体	レストランのみ	美術館展覧会	実技教室	県民ギャラリー	講堂	その他
回答数（件）	156	31	107	1	8	0	9
割合（%）	100.0	19.9	68.6	0.6	5.1	0.0	5.8



６　カフェアンケート結果

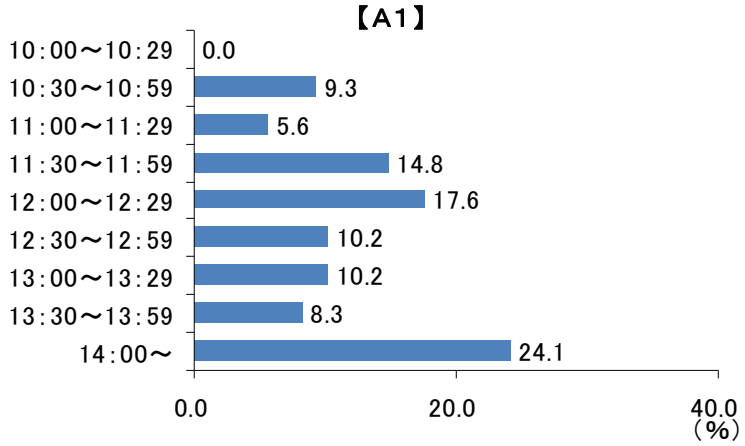
（１）　実施数（回答数）

ユベール・ロベール展	38 件
江戸絵画の楽園展	37 件
川村清雄展	33 件
合計	108 件

（２）　アンケート結果

Ａ１　入店時刻

	全体	10：00 ～10:29	10：30 ～10:59	11：00 ～11:29	11：30 ～11:59	12：00 ～12:29	12：30 ～12:59	13：00 ～13:29	13：30 ～13:59	14：00 ～
回答数（件）	108	0	10	6	16	19	11	11	9	26
割合（%）	100.0	0.0	9.3	5.6	14.8	17.6	10.2	10.2	8.3	24.1



Ａ２　注文内容

注文した料理	回答数（件）	注文した料理	回答数（件）
ブレンドコーヒー	33 件	ケーキ単品	２件
ケーキセット	21 件	アイスクリーム	２件
ベーグル（照り焼きチキン）	16 件	アイスティー（セイロン）	２件
アイスコーヒー	12 件	レモンスカッシュ	２件
カニドリア	11 件	クリームソーダ	２件
スープカレー	11 件	海老のパスタサラダ	１件
ベーグル（アボガドシュリンプ）	９件	海老カツドッグ	１件
紅茶（ホット）ダージリン	５件	ソーセージドッグ	１件
クリームあんみつ	４件	オニオンスープ	１件
カフェ・オレ	４件	ケーキ単品	２件

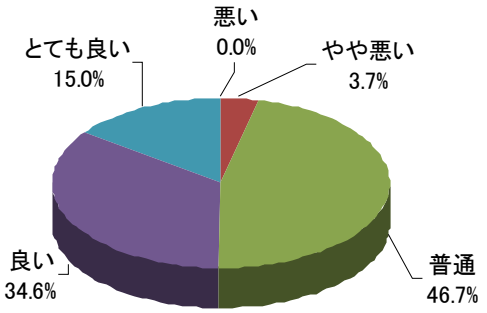
Ａ３　内容表示のわかりやすさ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	107	0	4	50	37	16
割合（%）	100.0	0.0	3.7	46.7	34.6	15.0

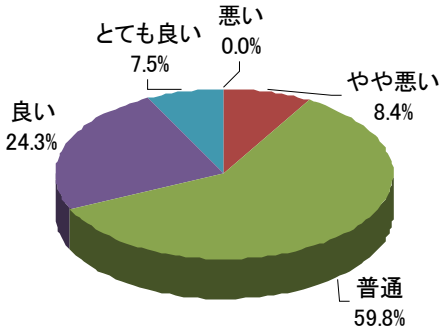
Ａ４　メニューの種類

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	107	0	9	64	26	8
割合（%）	100.0	0.0	8.4	59.8	24.3	7.5

【A3】



【A4】



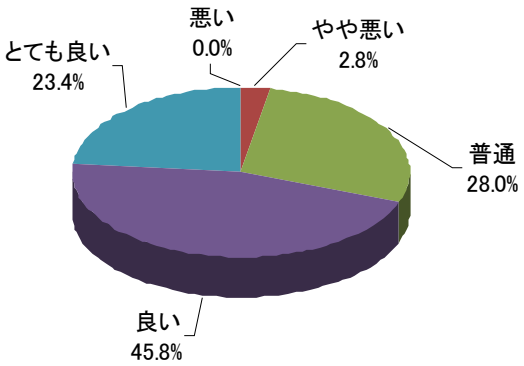
Ａ５　味

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	107	0	3	30	49	25
割合（%）	100.0	0.0	2.8	28.0	45.8	23.4

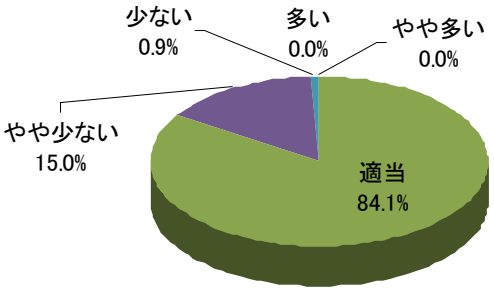
Ａ６　量

	全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
回答数（件）	107	0	0	90	16	1
割合（%）	100.0	0.0	0.0	84.1	15.0	0.9

【A5】



【A6】



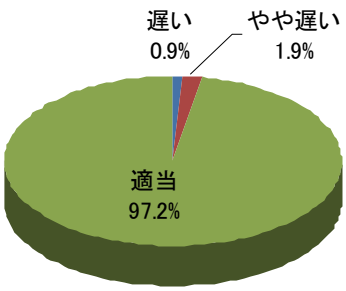
Ａ７　料理が出るまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数（件）	107	1	2	104
割合（%）	100.0	0.9	1.9	97.2

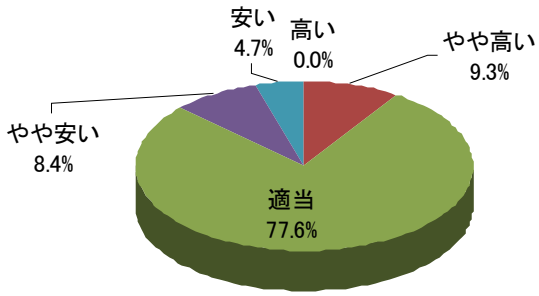
Ａ８　値　段

	全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
回答数（件）	107	0	10	83	9	5
割合（%）	100.0	0.0	9.3	77.6	8.4	4.7

【A7】



【A8】



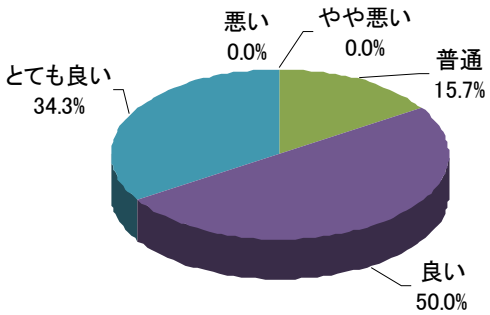
Ａ９　店の雰囲気、清潔さ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	108	0	0	17	54	37
割合（%）	100.0	0.0	0.0	15.7	50.0	34.3

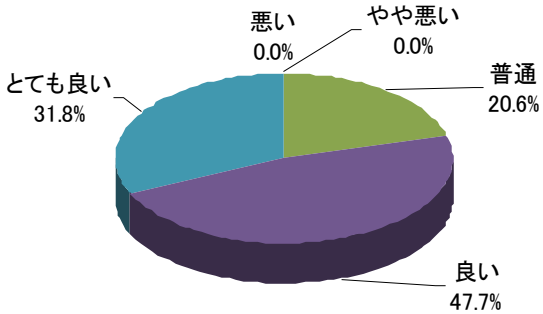
Ａ10　従業員の言葉遣いや態度

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数（件）	107	0	0	22	51	34
割合（%）	100.0	0.0	0.0	20.6	47.7	31.8

【A9】



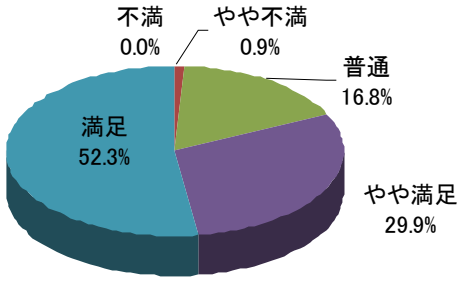
【A10】



Ａ11　満足度

	全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
回答数（件）	107	0	1	18	32	56
割合（%）	100.0	0.0	0.9	16.8	29.9	52.3

【A11】



Ａ12　不満や改善点（略）

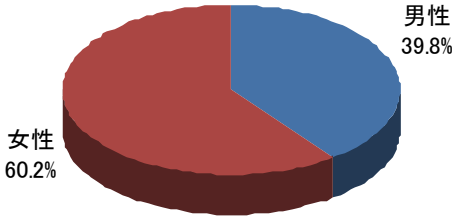
Ｂ１　性　別

	全体	男性	女性
回答数（件）	108	43	65
割合（%）	100.0	39.8	60.2

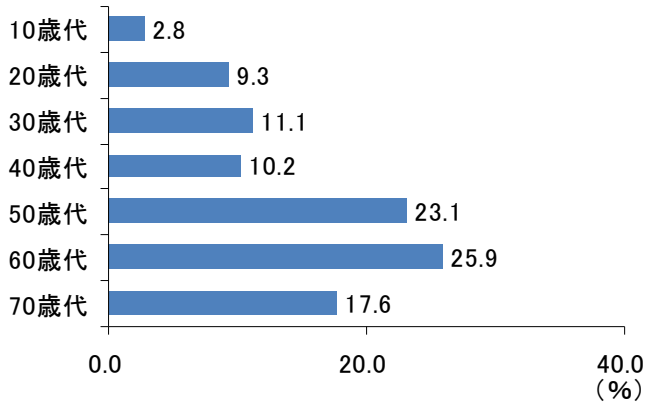
Ｂ２　年　齢

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代
回答数（件）	108	3	10	12	11	25	28	19
割合（%）	100.0	2.8	9.3	11.1	10.2	23.1	25.9	17.6

【B1】



【B2】

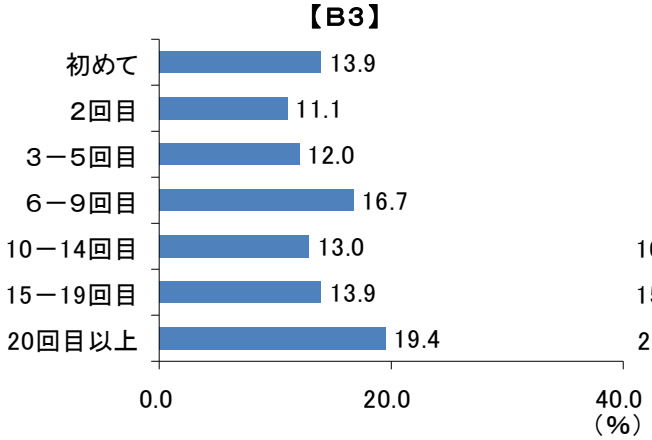


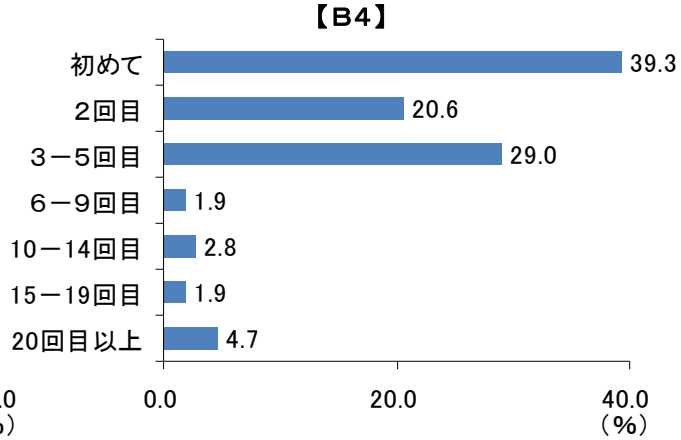
Ｂ３　来館回数

	全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－14 回目	15－19 回目	20 回目以上
回答数（件）	108	15	12	13	18	14	15	21
割合（%）	100.0	13.9	11.1	12.0	16.7	13.0	13.9	19.4

Ｂ４　カフェの利用回数

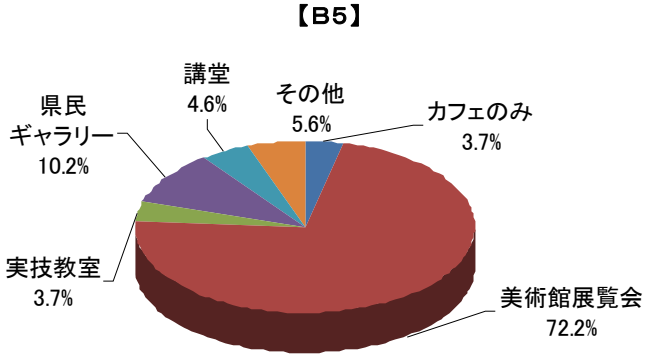
	全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－14 回目	15－19 回目	20 回目以上
回答数（件）	107	42	22	31	2	3	2	5
割合（%）	100.0	39.3	20.6	29.0	1.9	2.8	1.9	4.7





Ｂ５　主な来館目的

	全体	カフェのみ	美術館展覧会	実技教室	県民ギャラリー	講堂	その他
回答数（件）	108	4	78	4	11	5	6
割合（%）	100.0	3.7	72.2	3.7	10.2	4.6	5.6



７　ミュージアム・ショップアンケート結果

（１）　実施数（回答数）

ユベール・ロベール展	52 件
江戸絵画の楽園展	55 件
川村清雄展	53 件
合計	160 件

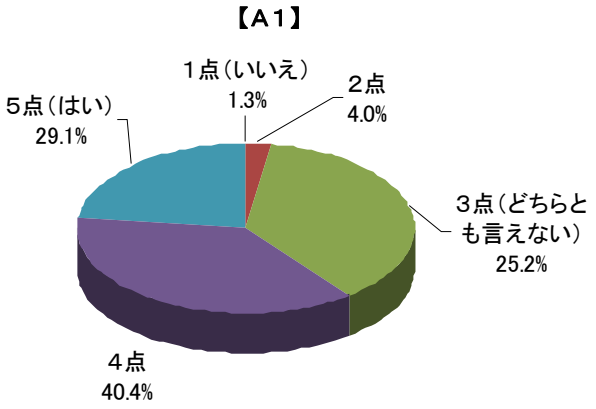
（２）　アンケート結果

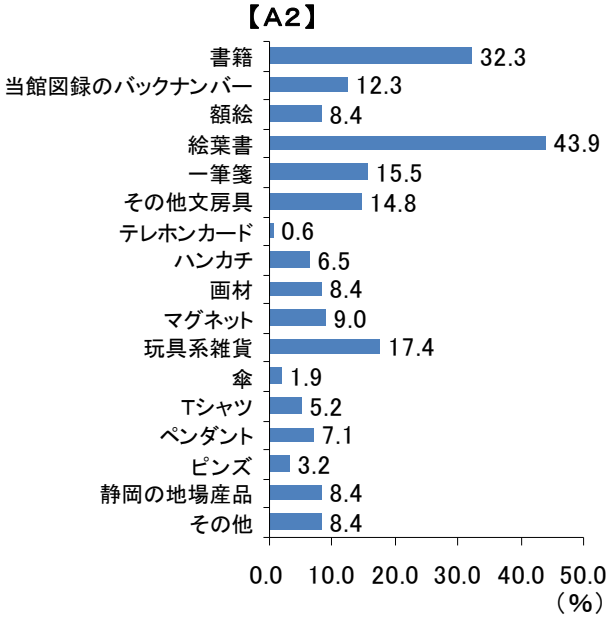
Ａ１　品揃えの充実

	全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
回答数（件）	151	2	6	38	61	44
割合（%）	100.0	1.3	4.0	25.2	40.4	29.1

Ａ２　充実してほしい商品（複数回答）

	全体	書籍	当館図録のバックナンバー	額絵	絵葉書	一筆箋	その他文房具	テレホンカード	ハンカチ
回答数（件）	155	50	19	13	68	24	23	1	10
割合（%）	100.0	32.3	12.3	8.4	43.9	15.5	14.8	0.6	6.5
	画材	マグネット	玩具系雑貨	傘	Ｔシャツ	ペンダント	ピンズ	静岡の地場産品	その他
回答数（件）	13	14	27	3	8	11	5	13	13
割合（%）	8.4	9.0	17.4	1.9	5.2	7.1	3.2	8.4	8.4





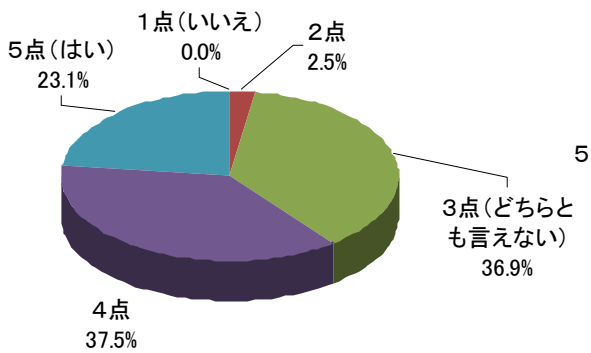
Ａ３　価格は適当か

	全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
回答数（件）	160	0	4	59	60	37
割合（%）	100.0	0.0	2.5	36.9	37.5	23.1

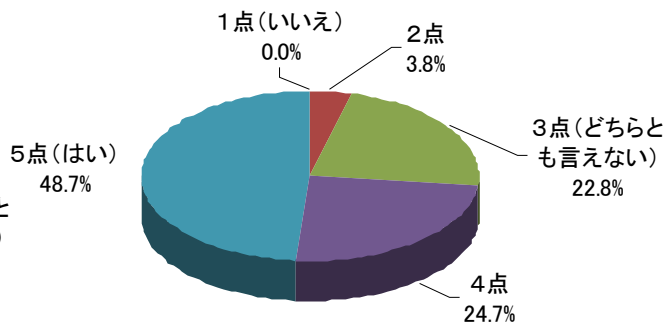
Ａ４　従業員の対応

	全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
回答数（件）	158	0	6	36	39	77
割合（%）	100.0	0.0	3.8	22.8	24.7	48.7

【A3】



【A4】



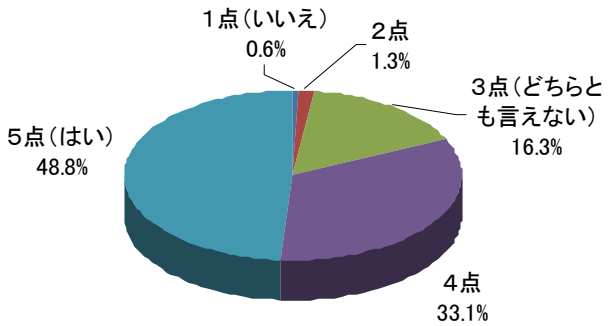
Ａ５　静岡美術館にふさわしい雰囲気か

	全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
回答数（件）	160	1	2	26	53	78
割合（%）	100.0	0.6	1.3	16.3	33.1	48.8

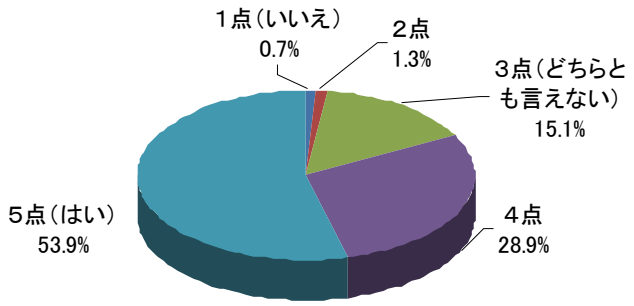
Ａ６　次回も来店したいか（満足度）

	全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
回答数（件）	152	1	2	23	44	82
割合（%）	100.0	0.7	1.3	15.1	28.9	53.9

【A5】



【A6】



Ａ７　ご意見・ご感想（略）

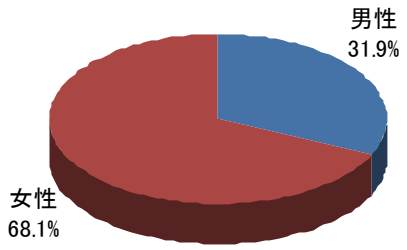
Ｂ１　性　別

	全体	男性	女性
回答数（件）	160	51	109
割合（%）	100.0	31.9	68.1

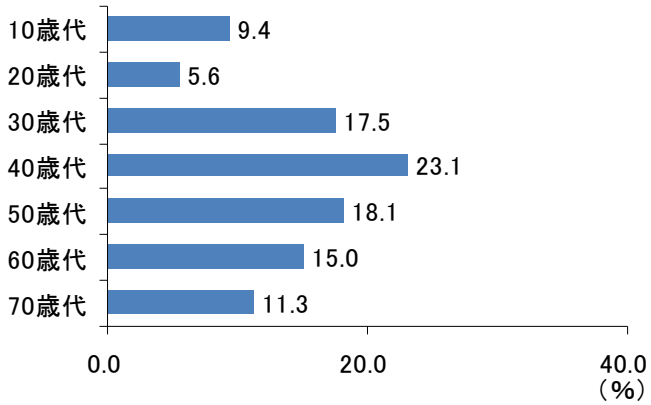
Ｂ２　年　齢

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代
回答数（件）	160	15	9	28	37	29	24	18
割合（%）	100.0	9.4	5.6	17.5	23.1	18.1	15.0	11.3

【B1】



【B2】



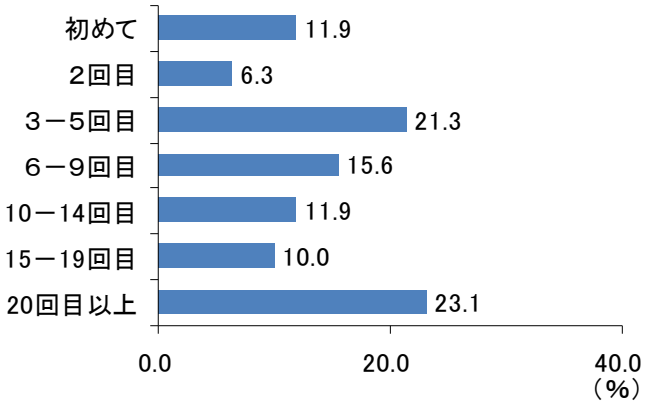
Ｂ３　来館回数

	全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－14回目	15－19回目	20 回目以上
回答数（件）	160	19	10	34	25	19	16	37
割合（%）	100.0	11.9	6.3	21.3	15.6	11.9	10.0	23.1

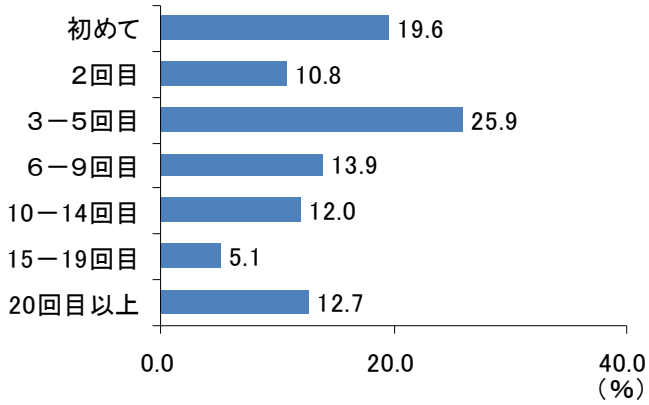
Ｂ４　ミュージアム・ショップの利用回数

	全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－14回目	15－19回目	20 回目以上
回答数（件）	158	31	17	41	22	19	8	20
割合（%）	100.0	19.6	10.8	25.9	13.9	12.0	5.1	12.7

【B3】



【B4】



８　美術館ホームページアンケート結果

（１）　実施数（回答数）

197 件

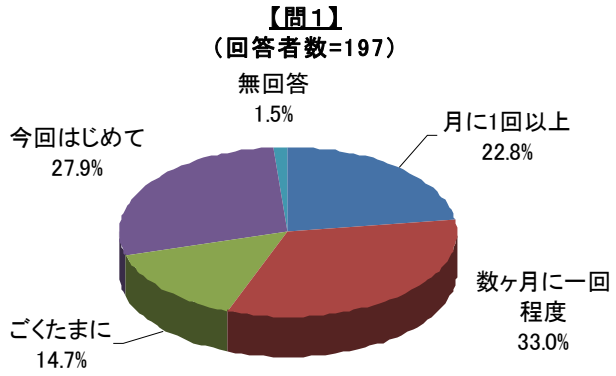
（２）　アンケート結果

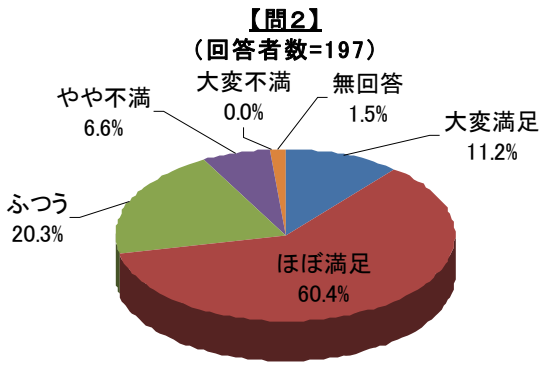
問１．当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか？

	全体	月に１回以上	数ヶ月に１回程度	ごくたまに	今回はじめて	無回答
回答数（件）	197	45	65	29	55	3
割合（%）	100.0	22.8	33.0	14.7	27.9	1.5

問２．当ホームページの情報内容について

	全体	大変満足	ほぼ満足	ふつう	やや不満	大変不満	無回答
回答数（件）	197	22	119	40	13	0	3
割合（%）	100.0	11.2	60.4	20.3	6.6	0.0	1.5



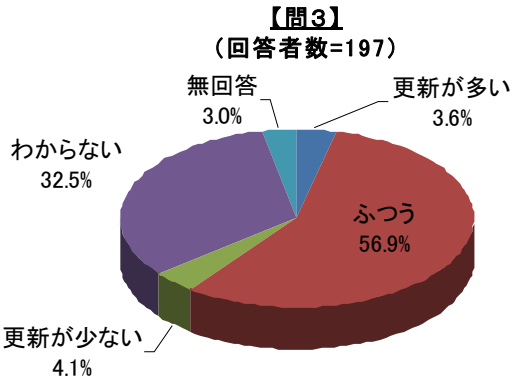


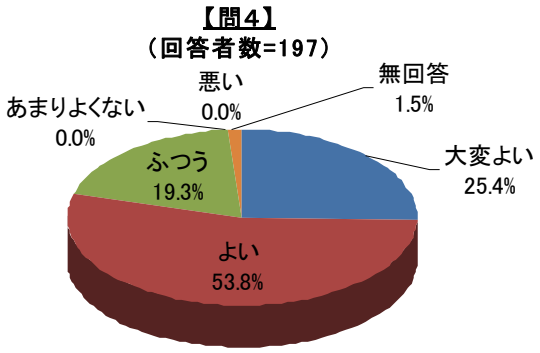
問３．当ホームページの更新頻度について

	全体	更新が多い	ふつう	更新が少ない	わからない	無回答
回答数（件）	197	7	112	8	64	6
割合（%）	100.0	3.6	56.9	4.1	32.5	3.0

問４．当ホームページのデザインについて

	全体	大変よい	よい	ふつう	あまりよくない	悪い	無回答
回答数（件）	197	50	106	38	0	0	3
割合（%）	100.0	25.4	53.8	19.3	0.0	0.0	1.5

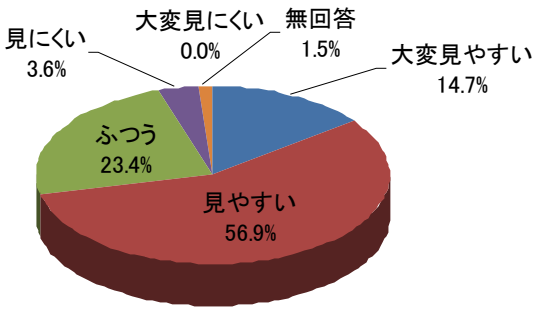




問５．当ホームページの見やすさについて

	全体	大変見やすい	見やすい	ふつう	見にくい	大変見にくい	無回答
回答数（件）	197	29	112	46	7	0	3
割合（%）	100.0	14.7	56.9	23.4	3.6	0.0	1.5

【問５】
（回答者数=197）



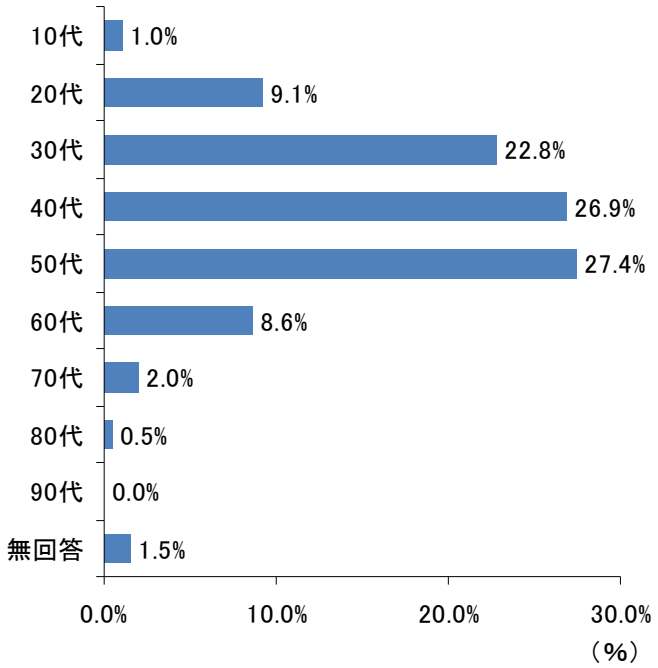
※１　年　齢

	全体	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	無回答
回答数（件）	197	2	18	45	53	54	17	4	1	0	3
割合（%）	100.0	1.0	9.1	22.8	26.9	27.4	8.6	2.0	0.5	0.0	1.5

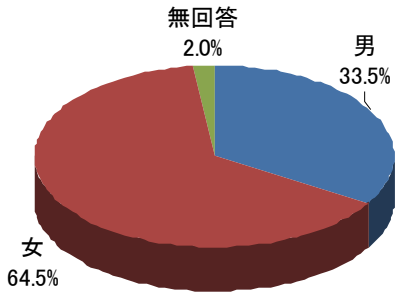
※２　性　別

	全体	男	女	無回答
回答数（件）	197	66	127	4
割合（%）	100.0	33.5	64.5	2.0

【※１】
（回答者数=197）



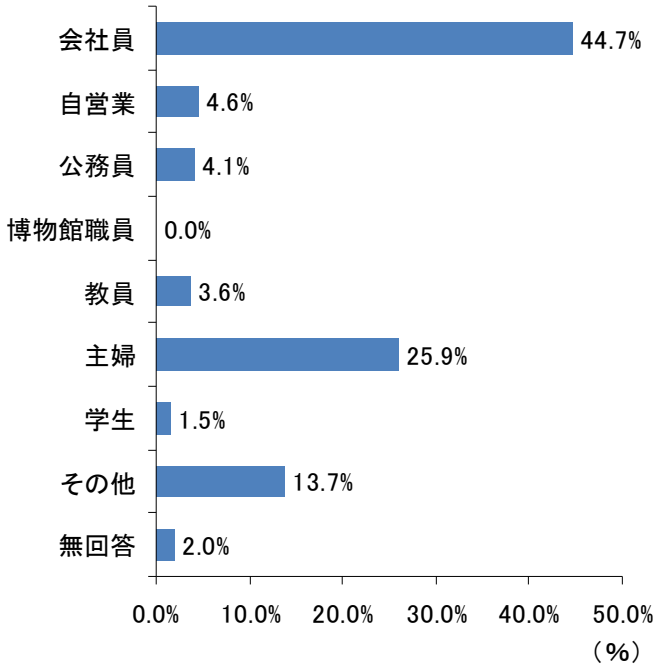
【※２】
（回答者数=197）



※３　職業

	全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他	無回答
回答数（件）	197	88	9	8	0	7	51	3	27	4
割合（%）	100.0	44.7	4.6	4.1	0.0	3.6	25.9	1.5	13.7	2.0

【※３】
（回答者数=197）



９　佐々木先生の提言

（１）　佐々木先生の提言

○２ページの提言：

・Ｂ（４）は、本来、満足度を別の表現で問うている設問であり、（１）～（６）と同列ではない。むしろ、観覧後の口コミ状況、またはＡＩＳＡＳ理論の最後の「Ｓ」（share：情報共有）として取り上げるべきではないか。

○16 ページの同伴者：

・同伴者の選択肢を、今後、再検討しても良いのではないか。この設問をはじめた当初のままであるが、割合の多い「友人・知人・恋人」は、他の要素も検討した上で、いくつかの選択肢に分割しても良いのではないか。

・選択肢の検討は、この設問から何を知り、何に役立てたいかを明確にしてから進めるべきである。

○18 ページの来館のきっかけ：

・先に述べた「同伴者」と同様、選択肢を今後、リニューアルしても良いのではないか。この設問をはじめた当初のままであるが、割合の多い「友人・知人・家族などに誘われて・勧められて」は、他の要素も検討した上で、いくつかの選択肢に分割しても良いのではないか。

・その際、オフライン（面と向かっての会話）とオンライン（ネット）の別も分かった方が良いのではないか。

○38 ページの「風景の美術館」であることを知っているか：

・この設問は、同館のコレクションの柱を認識しているかどうかを問う、非常に重要な設問と考える。当初は数値が 10%以下であったので、その伸び方は堅調であるといえる。一方で、全体では昨年度より約 10%数値が減少している。その背景や要因について、何らかの言及があっても良いのではないか。

○52 ページの美術館ＨＰアンケート結果：

・展覧会と同様に、総合的な満足度を尋ねる際は、「当ＨＰの情報内容」とはせずに、「ＨＰの全体的な満足度」として尋ねた方がわかりやすい。「情報内容」とすると、以下の設問である「更新頻度」「デザイン」「見やすさ」から考えて、「コンテンツの充実」と捉えるのではないか。

・ＨＰに関する５つの設問は、ＨＰの満足度を測定しはじめた当初から変わっていない。評価指標として、満足度を測定ができればいいので、ＨＰの改善に向けてより有効な設問にバージョンアップすべきではないか。

10　「静岡県立美術館　第三者評価委員会評価報告書」に関する評価学の視点からの考察

株式会社　国際開発センター　主任研究員　佐々木　亮氏
立教大学　21 世紀社会デザイン研究科　兼任講師
大阪大学　グローバルコラボレーションセンター

本日は、静岡県立美術館の第三者評価委員会報告書（平成 23 年３月）を読んで、評価学の観点からお話したいと思います。

PPT２頁：ｉ．最初に指摘したい諸点と改善の方策

まず全般的な印象としては、他の国内の美術館と比較しても十分水準に達しているといえます。県立美術館で行われている評価はいわゆる Performance Measurement（業績測定型）（以下「ＰＭ」）の評価システム課題が随所に現れているといえます。

このＰＭという考え方を我が国にはじめて紹介したのは上山信一先生です。

PPT３～４頁：自己評価システムの体系図、自己評価点検表

業績測定とは、静岡県立美術館の場合、まず「自己評価システムの体系」としての使命があり、館長公約、重点目標、評価指標があります。そして、自己点検評価表にあるように、数値目標、実績値があり、その達成度を計測しています。

PPT５～７頁：ⅱ．現行の自己評価システムの直近の課題と改善の方策

数値目標と実績値を比較して達成度を計測するのはよいのですが、現行の自己評価システムを考えますと課題と改善策があります。課題といいましても、公共セクターでは一般的なことですが、目標水準を誰がどのように決めるのか、そのプロセスが不明瞭だということです。例えば、民間企業では、ごく一般的な手法としてＰＭが使われています。営業マンの目標設定はその典型的な例です。年間目標をたて、その達成度合いを計測するというものです。公共非営利セクターでもずいぶんと浸透してきました。大学関係は比較的遅れていて、私大の先進的なところでは導入が進められていますが、国立大学は遅れています。

では、どうすれば合理的な手法で目標数値が決まっていくのかについては、後ほど説明します。報告書に目を通させていただいた際に、達成度が数値や文章で書かれているので一目見てわかりにくい部分があるといえます。例えば、「Ａ～Ｄ」・「優良可」・「満足⇔不満足」といったようにわかりやすい評価指標が使われるべきだと思います。中央官庁では、財務省がわかりやすい指標を用いており実際の政策判断する際の意思決定に使われています。

PPT５頁の、２点目ですが、目標水準設定の上では、達成度合 85％に達したものは、目標を入れ替えたほうがよいと思います。といいますのは、85％ぐらいに到達しますと、一定の割合で満足と回答しない層がいるので、以後なかなか達成度合いをあげることが困難だからです。

PPT15 頁：県庁の支援体制

少し話が飛びますが、県庁の支援資料はわかりやすい内容になっています。方針⇒実績⇒達成度と

あり、達成度がアルファベットでレイティングされています。

PPT７頁：館長公約Ｄの達成状況

例えば、実績評価を見る場合において、入館者が増加したという場合においては、外的要因が含まれている可能性があるため、その要因を明らかにしておく必要があります。「美術ブームが全国的に発生しており、全国にある美術館の来場者が増加していることで、静岡県立美術館来館者も増加している」のか。あるいは、「静岡県立美術館の企画内容がよいから、来館者が増加しているのか」を分析する必要があるのです。

民間企業で導入されているＰＭは、ＰＭのみで成り立つものではなくて、戦略的計画（以下「ＳＴ」）と一体で運用されるものなのです。戦略的計画の下、計画を実行して実績評価を行う必要があります。

この手法は、1980 年代のアメリカレーガン政権の頃から導入された考え方で、1990 年代のクリントン政権下において本格的に公共セクターで導入されました。公共セクターで収益という考え方はなじみがありませんが、社会的成果（social outcome）で代替することができると考えられています。経済セクターでは「ＧＤＰや就業率」、保健セクターでは「疾病率」、教育セクターでは「卒業率」などが例に挙げられます。

日本では、2000 年代に入り、小泉政権下の竹中平蔵氏によって導入されました。

参考１：改善効果（インパクト）評価の基本デザイン

ここからは、資料を変えて改善効果（インパクト）評価の基本デザインについて説明します。

１の**事前事後比較デザイン**については、非常にわかりやすい考え方で、いわゆる before-after という考え方です。但し、先ほど説明したように、外部要因による影響が何かがわかりにくい欠点があります。

２の**時系列デザイン**は、３ヵ年程度連続で観測した数値であれば、比較的安定して把握することができます。PPT６頁のスライドはネパールの初等教育の就業率の変化についてです。

３の**一般指標デザイン**は、全国平均値等を一般指標として用います。例えば、全国的に来館者数が増えているから、県立美術館も来館者が増えている場合は、全国平均のトレンドに近い動きをしているということになります。

４の**マッチングデザイン**は、似たようなグループ等と比較して、いわゆるベンチマークよりよくやったかどうかを比較するものです。ただライバルも外部要因を同じように受けます。

５の**実験デザイン**は、施設マネジメントではあまり使われない方法で、新薬のテスト等に用いられます。

実績評価については、他にもＦＯＳ（フィーシヴル　エグゼグティヴ　セッティング）という考え方も紹介したいと思います。この考え方は民間企業で導入されているものですが、目標設定する際に、全員に同じ目標を設定すると、仕事のできる人は、軽く目標達成をしてあとは遊んでしまう。できない人は達成できない。いわゆるできる人、フィーシヴルがぎりぎり達成可能な目標を設定することをいいます。一般に器量のないマネージャーは全員一律に目標値を設定するが、器量のあるマネージャーは、それぞれの能力に合わせた目標設定をすることです。こうした話をしますと、能力のある人は、目標値が高く設定されて不公平ではないかとの指摘を受けますが、できる人が高い目標数値を設定した場合は、次の二つの点で評価をします。一点目は、いかに意欲的に目標を高く設定したか。二点目は、一点目をいかに達成したかです。できる人というのは、

目標設定の際に、ぎりぎり達成できるかどうかを交渉して目標設定をしようとします。このように能力にあわせて目標数値を設定することが組織全体のパフォーマンスを底上げすることになります。

ここで例をあげて話をしたいと思います。例えば、ホテルチェーンや航空会社の顧客満足度を向上させるためにはどのようにすればよろしいでしょうか。実は、一律にサービス水準をあわせて提供しているわけではありません。ホテルチェーンや航空会社で顧客満足度を上昇させるために必要な、ＣＰＣ（ケアフルパーソンクレーム：どのお客さんがクレームをつけてきやすいか)、ＣＰＹ（ケアフルパーソンヤクザ：どのお客さんが要注意人物か）といった情報がなくては適切な対応ができません。つまり、うるさそうなお客さんには、さらに丁寧な接客を、おとなしそうな人には､通常の接客をするといった形で対応することで､顧客満足度を上昇させているのです。つまり、サービス業といいましても、その水準はさまざまだということです。

PPT８～12 頁：ベストプラクティスによる設定

ではいよいよ、目標値をいかに合理的に設定するのかについてお話します。

①受益者のニーズによる設定とは、一番、器量の必要な目標値の設定です。**②ベストプラクティスによる設定**は、その業界でベストな目標値を設定する。つまり業界一位を目指すという考え方です。公共、ＮＰＯセクターは、営利を追求しない関係で社会全体のためということで教えてもらいやすいということもあり設定しやすい方法です。③全国平均ぐらいはやろうということで、ただ**保守的な目標数値の設定**方法です。

全体報告書を見ると、体系図に基づいて、活動にしか指標が設けられていないように思います。本来は、レベル毎に指標が設定されていなければなりません。

PPT12 頁の図にありますように、左側に活動の戦略体系図、右側に業績指標の体系図を置きます。業務指標の計測には、社会調査を行う外部リソースが必要です。

前半でお話をしたＳＴの導入事例についていま少し紹介したいと思います。このスライドは、カナダのアルバータ州の事例でＳＴを導入したところです。左のグラフは暴力犯罪の発生数、右のグラフは窃盗犯罪の発生数です。この州では、公務員の雇用形態を改革しました。いわゆるパフォーマンス契約を結ぶということです。つまり全員が契約社員ということです。目標を達成できない場合は、契約違反ということで解雇もありうるということです。但し再就職のために手当等は割り増し支給するなど手厚く報いるものです。ただ、実際は、目標を達成しなかったからといって解雇することはなかったそうです。

PPT14 頁：県の支援施策、その他さらなる気づきの点

本題に戻ります。一点目の県の支援施策の評価については、前半でも少しふれたように評価できるものです。その他としては、美術館であっても、レストラン、カフェ、ショップの評判は非常に重要だということです。例えば、ＯＤＡの関係で研修にでると、宿泊施設やレストランの良し悪しが参加者の満足度に影響を与えています。このことは統計学的にも相関関係あります。美術館で美術品を鑑賞して、その後、食事やお茶をゆっくりとすることも来館者の重要な目的といえます。

PPT16 頁：その他の点：有識者による評価

有識者による評価を交えているのは適切だといえます。

PPT17 頁：評価指標

タイトルに定性的評価と記載がありますが、この場合は、有識者による評価を記載するのが適切であると思います。

PPT18 頁：iii．学術的枠組による現行の自己評価システムの分析

ここからは学術的枠組みにおける現行の自己評価システムの分析について話を進めていきます。先ほどからお話をしているとおり、県立美術館では業績測定型の評価システムを導入していることということですが、改善についてお話しする前に、学術的なお話と参考文献などについてご紹介したいと思います。

PPT19 頁：Strategic Plan/Performance Measurement

１点目は戦略的に生き残るためには、戦略的計画（Strategic Plan/Performance Measurement）が必要であるといえます。もともとこの考え方は、軍事的なものからきています。ただ日本でこの考え方をすると、民間セクターや、ＮＰＯ、公共セクターでは、抵抗が大きいのです。つまり、軍事的な考え方からすると、敵を消滅させる、誰かを消滅させるといったような捉え方がされるわけです。

PPT20 頁：静岡県立美術館　自己評価システムの全体像

県立美術館の評価システムの全体像です。ＰＤＣＡサイクルをまわして、【使命】美術館の目指す姿を目指しているということです。

PPT21・22 頁：参考文献紹介

ここからは参考文献を紹介したいと思います。まず、上山信一氏の『行政評価の時代』です。上山氏は、橋下大阪市長のブレーンとしても著名な方です。この本は、政策評価について一番売れた本だと思います。パフォーマンスマネジメントを日本に紹介したことでも有名です。翌年、『行政経営の時代』を刊行しましたが、これはあまり売れなかったそうです。先ほど触れた戦略的計画（ＳＴ）について触れたものですが、我が国にはあまり広がらず業績評価（ＰＭ）ばかりがよく知られるようになりました。

PPT23 頁：参考文献紹介

『「政策評価」の理論と技法』は、評価の手法と、先にもふれている業績評価について解説したものです。

PPT24 頁：参考文献紹介

『大学の戦略的マネジメント』は、大学に特化したもので、アメリカの大学の事例を紹介したものです。

PPT26 頁：Strategic Plan/Performance Measurement の導入について

本来、ＳＴとＰＭは両輪で運用されるもので、本来はワンセットで導入されるべきものなのですが、先にお話したように、我が国ではＰＭばかりが認知され、ＳＴはあまり広がらなかったのです。アメ

リカの中央官庁は、ＳＴとＰＭをワンセットでの運用が義務付けられています。

PPT27 頁：総務省「政策評価に関する標準的ガイドライン」

総務省の政策評価に関するガイドラインです。事業評価については、いわゆるＢ／Ｃといわれる費用便益の考え方、実績評価については、本日ご紹介したＰＭです。これらをあわせて総合評価をすることになります。ただ総務省のガイドラインはもっと解説が必要だと思います。

PPT29 頁：図３　アメリカの国際シティ・カウンティ経営協会

図３は、アメリカの中央官庁で運用されている考え方です。ビジョンをつくってミッションを決めていくべきなのです。公共セクターでよくある総合計画と戦略計画は別物です。組織体系が単にぶらさがっているだけのものは戦略計画ではないのです。組織が戦略を作るのではなく、戦略が組織を作るのです。

PPT30 頁：図６、ＳＷＯＴ分析図

図６はＳＷＯＴ分析図です。強み、弱みを成長機会等で分析をして戦略を立てます。

PPT31 頁：図７、ＳＷＯＴ分析図から戦略目標の選択への概念図

図７は、ＳＷＯＴ分析をして、戦略目標にどのように反映させるかのイメージを図示したものです。ＳＷＯＴ分析をした上で、戦略目標を選択していくのです。戦略を立てるためには、必ず強み、弱みを把握して、限られたリソースを優先順位づけて投入していかなければなりません。

参考資料４、１～２頁：戦略的計画の策定の５ステップ

ここまでＳＷＯＴ分析をして戦略目標をたてる話を進めてきましたが、戦略的策定の５つのステップについて解説したいと思います。時間も残り少なくなってきましたので駆け足で説明します。詳細は資料を参考にしてください。

第１ステップは、外部環境分析を行います。つまりどの分野がチャンスで何が脅威かを分析して外部環境として自分がどのような状況に置かれているかを分析するということです。**第２ステップ**は、内部要因分析です。自身が持つ資源や特性について、強みと弱みを分析するのです。この二つのステップは先ほどお話したＳＷＯＴ分析の考え方と同じです。**第３ステップ**は、組織とミッションと５年後のビジョンを決めます。外部環境の分析をして、自らの強み弱みを把握してビジョンを策定するということです。**第４ステップ**は、先ほどご紹介したＳＷＯＴ分析図を作成することです。分析図を作成するということは、戦略目標の候補を並べてみるということになります。最後に**第５ステップ**では、組織の最重要ミッションを達成するために貢献度が高そうな戦略目標を選択するということです。

参考資料４、３～12 頁：戦略的計画の策定の５ステップの続き

いままで説明してきたことをまとめますと、戦略タイプには４タイプ 11 種類があるということになります。重要なポイントとしては、３頁の図にあるように、撤退戦略部分に投入されていた資源を成長戦略部分に投入することが重要だということです。

まずは、包括戦略として、成長戦略の３パターン７種類のものについて主なもののみ解説して

いきます。まず「成長機会」×「比較優位」のマスについては、例えば、グーグルやアマゾンのような業界において圧倒的優位な地位を占めるプレーヤーがそのイメージです。両社とも、創生期は、利益を上回る投資をして地位を確固たるものにしてきました。数年前に、１番じゃなきゃだめなんじゃないですかという発言が物議をかもしましたが、２番じゃだめなのです。やはり業界で１番という意味は大きいのです。

（１）の集中戦略には、（１－１）一点集中、（１－２）水平集中、（１－３）垂直集中があります。（２）多様化戦略には、（２－１）類似サービスへの多様化、（２－２）完全別サービスへの多様化があります。（３）の連携戦略には、（３－１）地域連携、（３－２）層連携があります。

包括戦略の２としては、撤退戦略の３パターンがあります。これは、「致死脅威」×「比較劣位」のマスは、どんどんと縮小していくだけの状態で、いかにダメージを抑えながら撤退をして、成長戦略部分に資源を投入できるかが重要となります。（１）引き上げ戦略、（２）身売り戦略、（３）精算戦略があります。

包括戦略その３としては、改善戦略の３パターンで、ここは一番器量が必要とされる部分となります。（１）内部強化戦略、（２）ヘッドハンティング戦略、（３）外部委託戦略があります。

包括戦略その４としては、回避戦略の２パターンがあります。最後に残ったこの部分ですが、「致死脅威」×「比較脅威」のセルです。致死脅威は、言い換えるとニーズがしぼんでいくことを言いますので、撤退戦略のセルに陥らないよう、残存者利益を得ていくというものです。新たに投資をせず、拾えるものを拾うということになります。（１）無投資戦略、（２）暫時撤退戦略があります。

PPT33 頁：ⅳ．静岡県立美術館の自己評価システムの抜本的な改善に向けた若干の提言

話を本題に戻します。最後に、静岡県立美術館の自己評価システムの抜本的な改善に向けた若干の提言をして話を終わりたいと思います。昨今の県立美術館の評価システムは、アウトプットよりになっているように思います。今後は、これまで説明してきた戦略手法を加味しながら策定していくべきと考えます。

PPT34 頁：Strategic Plan/ＰＭのシャープな運用

まず一点目としては、Strategic Plan は例えば３年ごとにゼロベースで作り直すことです。Strategic Plan は内部の人間だけで作っても意味がないので、先ほど申し上げたように、外部の社会調査リソースが必要なのです Strategic Plan 立案については、ＳＷＯＴ分析を活用してもらうとよいと思います。

PPT35 頁：評価の本格的な運用

何をもって評価指標となる数値が変動したかの、事実特定が重要となります。このためには同規模、同タイプの美術館との比較が重要といえます。

PPT36～38 頁：評価と調査の目的の違い

評価と調査の目的の違いについては、評価とは、価値判断を下すものです。農林水産省で調査と言われるものには、単に測定しているだけのものもあります。

まずは新規企画展等、小規模な点から、プログラム評価をやりはじめることを進めます。美術館全

体についてプログラム評価を用いるのは難しいといえます。これまでの報告書にあるように、目標値と比べて「達成した・しなかった」で判断するのは評価とは厳密にはいえないため、Ｓ～Ｄ等の明確な評価指標で結果をのせれば評価報告書といえます。また評価の枠組みを定めておくのがベターといえます。妥当性として、導入したのがよかったのか、最終的に目指すものが実現するのか。有効性として、改善したのか。効率性は費用便益で計算する。継続性として、事業が終了した後も発展していくのかといった視点であらかじめ評価の枠組みを決めておくことが重要です。これは県立美術館の企画展の評価に活用できると思います。

PPT39 頁：特殊な加重・合計方法の一種：フローチャートの利用（例）

さらに応用してフローチャートで考えることも有効です。総合評価まで帰結して評価がされたといえます。

PPT40 頁：合理的な意思決定に役立つ新たな分析ツール

それでは合理的な意思決定に役立つ新たな分析ツールをいくつかご紹介します。まず、フォーカスグループインタビューです。これはグループインタビューとも言いますが、普通の来館者から何人か選んで、美術館について様々なテーマで議論してもらうものです。いわゆる生の声を拾うというものです。但し、モニターは任期制としなければなりません、任期が長くなればなるほど、いいことしか言わなくなる傾向があるからです。また社会調査会社を活用するのも指標の測定には有効といえます。外部のリソースを活用することは必要不可欠といえます。

PPT41 頁：ｖ．静岡県立美術館の第三者評価委員会の改善に向けた若干の提言

最後に第三者評価委員会の改善に向けた提言をします。第三者評価委員会の現状はお目付け役的な役割となっており、先ほど話をしたフォーカスグループインタビュー等も活用することが重要といえます。その第１歩としては、例えば、新規企画展について独立して評価をすることだと思います。本日のお話はここまでとなります。

PPT　p 1

「静岡県立美術館　第三者評価委員会評価報告書」(平成23年3月)に関する評価学の視点からの考察

2013年1月22日
国際開発センター(IDCJ)／立教大学
佐々木亮

1

PPT　p 2

I. 最初に指摘したい諸点と改善の方策

- 「自己評価システムの体系(平成20～22年度)」に論理的にまとめられた評価指標に基づいて経年データが収集整理されている点は十分に満足できる。
- Performance Measurement(業績測定)型の評価システムの課題が随所に現れている。(次のII, IIIはほぼその指摘をあげている。)

2

PPT　p 3

3

PPT　p 4

4

PPT　p 5

II. 現行の自己評価システムの直近の課題と改善の方策

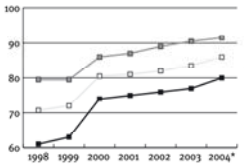
- 目標水準の決め方・根拠が不明　＝＞決め方のタイプを明示する(4タイプ)。
- 「天井効果」が随所に見られる　＝＞天井水準に達した指標を入れ替える(経験的には達成度合が85%以上のもの)。

5

PPT　p 6

Case Example:
Nepal : Joint Government – Donor Evaluation of Basic and Primary Education Programme II

Figure 4-1: Grades 1- 5, Net Enrolment Ratios 1998-2004



Source: School Level Educational Statistics of Nepal, HMG/N, DOE
* Estimate

6

PPT　p 7

7

PPT　p 8

2)ベスト・プラクティスによる設定

1)受益者のニーズによる設定
2)ベスト・プラクティスによる設定
3)一般指標値による設定
4) 予想される効果分の追加による設定

龍・佐々木(2000,2004)『政策評価の理論と技法』pp179-181.

8

PPT　p 9

- 「活動」と「アウトプット」の報告が主になっている　＝＞アウトカムの報告が重要(「館長公約」、「重点目標」レベルの指標群)。
- 事業実施による純粋な効果(インパクト)の推定が重要　＝＞1)日本全体の指標値と比較する。2)同じレベルの数件の美術館の指標値等と比較する。

9

PPT　p 10

10

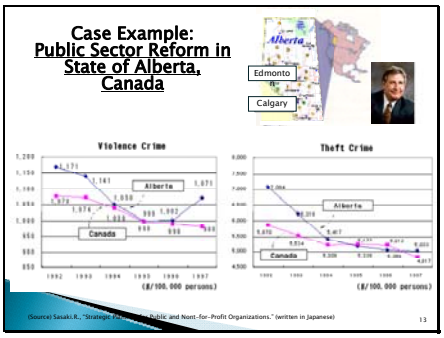
PPT　p 11

11

PPT　p 12

12

PPT　p 13



PPT　p 14

- 県支援施策は評価の論理に沿っている　＝＞この点は見習うべき（評価水準A,B,C,Dを用いて絶対評価を行っている）。
- その他さらなる気づきの点
  ・レストラン、カフェ、ショップの評判は重要　＝＞じつはたいへんな影響力がある（ODA分野の研修もそう。統計分析が相関関係を明確に示している）。

14

PPT　p 15

15

PPT　p 16

- ・その他の点: 有識者による評価（Connoisseur evaluation)を併用している点は適切。

16

PPT　p 17

17

PPT　p 18

III. 学術的枠組による現行の自己評価システムの分析

- 静岡県立美術館の自己評価システムは、Performance Measurement（業績測定）型のモニタリングシステムである。ただし（日本の他の公共組織と同様に）Strategic Planの策定と運用がやや不明確であると見受けられる。このシステムの抜本的な改善を議論する前に、学術的な分析枠組を用いた分析を試みてみる。

18

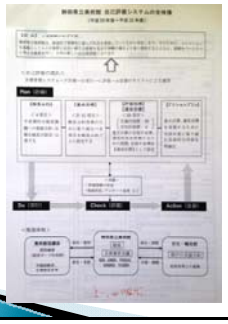
PPT　p 19

1. Strategic Plan/Performance Measurementは民間経営で最初に導入されたもの

- 軍事　＝＞民間経営（1960s～）＝＞公共経営（1990s～アメリカ、2000s～日本）
- 民間経営における明快な指標であるSales＆Profitを、公共経営ではOutcome（社会状況の変化）と読み替えれば、民間経営の多くの手法がそのまま適用可能であるはずという考え方。

19

PPT　p 20



20

PPT　p 21

（1998年）

日本に初めて本格的に
Performance Measurementを紹介した本

21

PPT　p 22

(1999)
経営戦略の導入、組織内分権化、ユーザー指向のマネジメントなどを解説

22

PPT　p 23

(2000)
評価の技法とPerformance Measurementを解説。

23

PPT　p 24

(2002)
経営戦略の導入、組織内分権化、ユーザー指向のマネジメントなどを解説

(2005)
大学経営への経営戦略の導入、組織内分権化、顧客指向のマネジメントなどを解説

24

PPT　p 25

Harry Hatry,
Urban Institute

Joe Wholey,
Urban Institute &
Univ. South California

(2000)

だがそもそもはこの二人。
＝＞アメリカのGPRAの導入をリードした。それが世界中に普及。

25

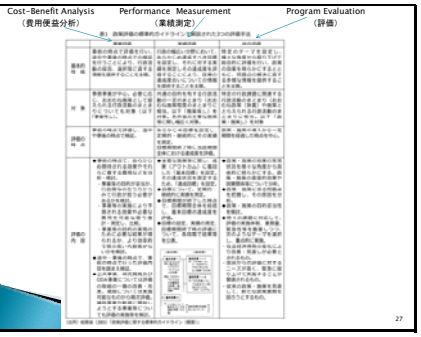
PPT　p 26

2. Strategic PlanとPerformance Measurementはワンセットで導入されるべきもの

- 日本では十分に紹介されることなく、Performance Measurement（業績測定）だけが普及した。
- アメリカの省庁の両者のワンセットでの適用を義務付けたGPRAが望ましい例。
- Strategic Planの例の解説（アメリカの省庁、アメリカの大学、アメリカの美術館）。

26

PPT　p 27



27

PPT　p 28

28

PPT　p 29

29

PPT　p 30

図6　SWOT（成長機会、脅威、比較優位、比較劣位）分析図

内部 ＼ 外部	比較優位（強み）	比較劣位（弱み）
成長機会	①	③
	②	④

（出所）筆者作成

30

PPT　p 31

31

PPT　p 32

3. Strategic Plan/PMと評価は違うものである（ルーツ、哲学、手法）
- Strategic Plan/PMは、経営学をルーツとしている。モニタリングで事足りると考えられており、評価の視点が希薄。
- 評価は、社会科学の各分野の分析ツールをルーツとするとともに評価独自のロジックにも基づいている。Planningの視点は非常に希薄。また科学的な厳密さを過度に追及する研究者も多い。

32

PPT　p 33

Ⅳ. 静岡県立美術館の自己評価システムの抜本的な改善に向けた若干の提言

- 冒頭のI.で指摘したすぐに取り組める諸点に加えて、現行の自己評価システムの抜本的な改善に向けた提言として以下が考えられる。

33

PPT　p 34

1. Strategic Plan/PMのシャープな適用

- Strategic Planは、定期的（3年毎、あるいは5年毎）にゼロから作り直す。館長交代時の最初の1年間を使って作り直してもいい。
- Strategic Planに必要な条件。1）組織トップの決断、2）予算部署、人事部署のトップの参加、3）外部の理解関係者の参加。なお、Strategic Planは内部の職員だけで作っても意味がない。
- Strategic Planの立案の際には、1）（静岡県立美術館の現状から離れて）SWOT分析を行うこと。2）4マスの組み合わせから合理的に戦略を選択する。

34

PPT　p 35

2. 評価の本格的な適用

- 評価とは何か？　＝＞　評価　＝　事実特定　＋　価値判断
- 事実特定に関して単なる経年変化ではなく、全国の美術館の統計値および同じ規模・タイプの美術館数件と比較してみることが進められる（一般指標比較デザイン、類似群比較デザインの応用）。
-

35

PPT　p 36

評価と調査の目的の違い

調査の目的は、因果関係を含む物事の現象を明らかにすることである（＝事実特定）と考えることができる。一方、明らかにされた事実に関して何らかの価値判断を下して初めて、評価足りえると言える。

評価	＝	事実特定	＋	価値判断
(Evaluation)		(Factual identification)		(Value determination)

36

PPT　p 37

- 組織全体の活動をプログラムとみなしてプログラム評価を適用することは難しいので、まずは小規模な新規事業をプログラムとみなして適用してみることを進める。
- 妥当性、有効性、効率性、自立発展性などワンセットの視点から評価するのが「プログラム評価」。
- 「たいへん有意義であった(S)」～「まったく有意義ではなかった(D)」、「たいへん満足(S)」～「まったく不満足(D)」などの価値を表現する言葉で結論を書くのが評価。目標値と比べて達成した／しないと書くのはじつは評価とは言いがたい。

37

PPT　p 38

(参考)等級付けの基本的な評価枠組の例

(i) 評価項目(Criteria of Merit)

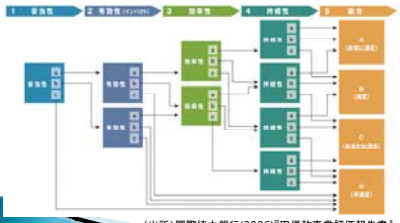
(ii) 評価水準(Standards of Merit)

	妥当性	有効性	効率性	持続性
a (非常に満足)	(定義文)	(定義文)	(定義文)	(定義文)
b (満足)	(定義文)	(定義文)	(定義文)	(定義文)
c (どちらとも言えない)	(定義文)	(定義文)	(定義文)	(定義文)
d (不満足)	(定義文)	(定義文)	(定義文)	(定義文)
e (非常に不満足)	(定義文)	(定義文)	(定義文)	(定義文)

38

PPT　p 39

特殊な加重・合計方法の一種：フローチャートの利用(例)



(出所)国際協力銀行(2006)『円借款事業評価報告書』

39

PPT　p 40

3. 合理的な意思決定に役立つ新たな分析ツールの導入

- フォーカスグループ(毎年テーマを決める)(アンケートとは根本的に違う効果あり)
- 市民会員(市民モニター)の決定。ただし有期で再任なしとすべき。
- 社会調査会社を使った社会調査も有用。館長公約、重点目標のレベルの指標のデータが生成できる。
- プログラム評価の導入が有用(個別の研修事業に関して適用する)。

40

PPT　p 41

V. 静岡県立美術館の第三者評価委員会の改善に向けた若干の提言

- 外部有識者の視点から、データの客観性や評価方法の妥当性を吟味するのは重要な役割である。
- 第三者評価委員の「役職等」からは各人の専門分野は分からないが、以下の構成とすべき。
- 第三者評価委員会の役割は「お目付け役」に留まっており、より積極的な活用が望まれる(「外部評価」として、一部の新規事業に関する独立的な評価を依頼することがまずは第一歩と考えられる)。

41

資料編（自由意見）

「作品やテーマについての興味関心」及び「展覧会場の心地よさ」について自由解答（B（10）展覧会や美術館へのご指摘・ご意見）より質的データを吸い上げ、満足度向上のための効果的な改善点を導き出す。分類と性質に分けて整理した自由意見（下表）のうち、「作品やテーマについての興味関心」については“２－Ｂ：企画全般への要望”及び“３－Ｂ：展示方法への要望”から、「展覧会場の心地よさ」については“４－Ｂ：施設・環境への要望”及び“４－Ｃ：施設・環境への苦情”から多くみられたものを抜粋する。

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
ユベール・ロベール展	15	2	0	6	7	0	5	1	0	11	2	7	5	5	3
江戸絵画の楽園展	32	1	1	4	13	0	1	6	1	12	3	2	3	10	5
川村清雄展	20	1	2	1	10	1	0	2	1	7	3	2	3	7	1
全　体	67	4	3	11	30	1	6	9	2	30	8	11	11	22	9

単位：件

①　作品やテーマについての興味関心に関わるご意見（２－Ｂ、３－Ｂより）

代表的な画家や作品にフォーカスする企画展を要望する声

古典絵画から現代アートまで著名な画家、また話題性のある展覧会を要望する意見が多数挙がった。

- 一作者や一時代にクローズアップした企画。遺跡やミイラの展示企画。ダリ、ピカソ、ルオーの企画をよろしくお願いします！【女性／50 歳代】
- ゴッホの企画をやってほしい。【女性／60 歳代】
- 藤城清治の展覧会を是非やっていただきたいと思います。【女性／13～19 歳】
- 若沖に注力してほしい。日本の宝だと思います。【男性／40 歳代】
- 以前のようなは迫力のある企画をしてほしい（ガンダーラ、若沖展など）。【女性／60 歳代】
- 明治大正時代の浮世絵・美人画なども！【男性／50 歳代】
- 古代遺跡などが好きなので、増やして欲しい。【男性／50 歳代】
- 狩野派の絵を見たいと思います。【男性／60 歳代】
- 大正～昭和にかけての風景版画の展覧会を企画してほしい。【女性／40 歳代】
- 印象派の展示が観たいです。【男性／40 歳代】
- 現代美術の作品（絵画）の企画展をやってほしいです。【女性／20 歳代】
- 日本画の展示をお願いします。【女性／70 歳代以上】

多様な作品の展示を望む声

絵画以外の作品を展示するなど、多様な作品群で観覧者を飽きさせない工夫が必要。

- 古陶磁等の工芸品の展示もたまには開催して頂けると楽しみです。【男性／60 歳代】
- マンガっぽい絵の展示を…。（初音ミクとか）【女性／13～19 歳】
- 絵画以外の物を多く展示してほしい。【男性／50 歳代】
- 色々な年代の人が来るように、企画内容を幅広く考えて賑やかな美術館になるといいですね。【女性／40 歳代】

作品解説の工夫や充実への要望多数

作品への理解を深めるために、詳細かつユニークな作品説明や、学芸員によるレクチャーの機会等が求められている。

- 作品にマテリアルの表示をほしい。【男性／40 歳代】
- 説明文章をもう少し詳しく。【男性／50 歳代】
- 展示物についての詳細。【女性／40 歳代】
- 今回は美術館の方の説明があり、大変良かった。このように説明があっても良いのではないでしょうか。ただ、一人で鑑賞するというには、私など知識がないので、ただ見るだけになってしまう。一人静かにという方とどこかで線を引いて、今回の様な説明有りを多くしてほしい。【女性／60 歳代】
- 音声ガイドがあると楽しさが倍増するので、できるだけあると嬉しいです。【女性／40 歳代】
- フロアレクチャーの回数を多めにお願い致します。【男性／70 歳代以上】
- 絵の中には、古典や故事を題材にしているものが多いと思うのですが、どんな場面なのか解説があると理解が深まると思います。【女性／30 歳代】
- 作者について、更に詳しい説明文。【男性／30 歳代】
- もう少し説明にふりがながあると助かった。【女性／20 歳代】
- 今回の展覧会については、漢詩の部分の意味について解説があればもっと楽しめたように思う。【男性／20 歳代】

② 展覧会会場の心地よさに関わるご意見（４－Ｂ、４－Ｃより）

館内の照明について

館内の照明を「暗い」と感じる人がいる。作品及び作品説明を見やすくする等の工夫が必要。

- 歳のせいか目が悪い為、暗くて絵が見にくかった。もう少し明るくして頂けると助かるのですが、無理ですよね。【女性／70 歳代以上】
- 作品保護の観点から、照明を落としていると思うが、もう少し調整されたほうが見やすいと思料する。【男性／50 歳代】
- また、出来れば照明の光量ももう少し上げてほしい。でなければ、文字等が少し見にくいよう

に感じた。【男性／20 歳代】

- 説明展示の字を大きくしてほしい。絵の保護のため全体的に照明が暗いので、字が見えません。【女性／50 歳代】
- 少し照明が暗い気がする。【男性／60 歳代】

館内の温度について

昨年度と同様、館内の温度については、各年齢層で「寒い」と感じている人がいる。

- 冷房が効きすぎていて少し寒かった。【女性／20 歳代】
- とても寒くて困りました。【男性／50 歳代】
- 冷房が強すぎて寒い。【女性／30 歳代】
- 少し寒かった。【女性／50 歳代】
- 少し冷房が寒い。【男性／20 歳代】
- 少し寒かった。【女性／40 歳代】

駐車場について

中年・高齢者層では、駐車場の利便性を悪いと感じる人も少なくない。

- 駐車場が遠すぎる。近くの駐車場はいつも満車である。【男性／70 歳代以上】
- 駐車場が少ない。【男性／50 歳代】
- 駐車場がたくさんあればと思います。【男性／70 歳代以上】
- 建物近くに駐車できるともっとよい。【女性／50 歳代】

Ⅲ

県庁の支援体制

Ⅰ　平成 24 年度実績

１　美術館と県庁の連携体制の確保

２　庁内・地域・学校教育との連携

３　積極的な広報展開

４　施設の改善

Ⅱ　平成 25 年度方針

１　効果的な美術館評価システムの構築

２　中長期的視点に基づく計画の策定

３　他施設及び地域等との連携

平成 24 年度 県庁の取組状況

1　美術館と県庁の連絡体制の確保

（１）ガバナンス評価ワーキングの開催

・第三者評価委員会の意見を踏まえて、文化政策課職員と美術館職員により構成する「ガバナンス評価ワーキング」を設置し、ガバナンスに関する評価方法の検討に合わせて、設置者として取り組むべきこと、美術館の運営上の課題などを検討し、認識の共有化を図るとともに評価システムの運営について改善を提案した。（報告書は別添のとおり）

（２）美術館の会議等への出席

・月１回開催されている美術館企画運営会議に文化政策課長、課長代理が出席して情報の共有を図った。

・美術館広報チームの月例の打ち合わせ会に文化政策課職員が参加し、予算や県庁の持つ広報媒体について情報提供を行った。

（３）文化庁補助事業等の実施調整

・文化庁の補助事業「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」（キッズアートプロジェクトしずおか事業）、（財）地域創造による「ミュージアムラボ」の実施に関して、国等と調整を行った。

2　庁内・地域・学校教育との連携

（１）県職員の美術館への理解促進

・県職員における美術館友の会の会員増加を図るため、冬のボーナス時期に給料自動引き落としで会費を納入できるようにし、26 人の会員が新規加入した。

・定例幹部職員会議においてキッズアートプロジェクトをはじめとする美術館の取組について紹介・説明を行った。

・県職員の業務のポータルサイトや全庁掲示板において展覧会情報を提供した。

（２）有度山フレンドシップ協定の締結

・日本平ホテルがリニューアルオープンしたのを契機に、美術館が立地する有度山地域の施設が連携して情報発信や誘客を行うよう、県立美術館、県舞台芸術センター（ＳＰＡＣ）、日本平ホテルの３者で、平成 24 年９月に「有度山フレンドシップ協定」を締結した。（平成 25 年４月に、日本平動物園、久能山東照宮が加わり５者による協定となった。）

（３）中学生の美術館展覧会鑑賞推進事業の推進

・中学生を対象とする鑑賞事業の実施に当たり、教育委員会を通じて県内の全中学校に趣旨や実施方法について情報提供するとともに、参加校の少ない西部地域の教育委員会に対して要請を行った。

３　積極的な広報展開

（１）各種ツールを活用した広報

・文化政策課発行の情報誌「アトリエふじのくに」に、「静岡県立美術館学芸員と巡る名画の舞台を巡る旅」コーナーを設け、美術館所蔵の美術作品等の紹介を行った。（平成 25 年春号（2 月 23 日発行）号から新設）

・文化・観光部ホームページや観光協会ホームページにおいて展覧会の情報発信を行うとともに、県庁記者クラブへの情報提供を行った。

（２）来館促進の取組

・マーケティング推進課、道路公社と連携し、新東名ＳＡで企画展のチラシや美術館パンフレットの配布を行い、県内外の観光客へのＰＲを行った。

・地域外交課と連携し、韓国領事館職員、韓国訪問団、ペルー留学生、モンゴルドルノゴビ県研修生の視察受入れを調整した。

４　施設の改善

（１）修繕改修の適切な実施

・文化政策課の技術職員（設備）が月１回定期的に美術館を訪問するようにし、施設の状況について情報共有を図った。

・ロダン館の屋根の全面的な防水改修工事を実施した。

・劣化の激しい点字ブロックの改修を行うとともに、車椅子の経路を確保するため、スロープ横の植栽を撤去して歩道の整備を実施した。

・老朽化している高架水槽の取替え工事を実施して、飲料水の安全確保を図った。

・サービス改善委員会に文化政策職員が参加し、「カフェロダン」の運営改善に関する検討等を行った。

平成 25 年度 県庁の支援方針

＜全体方針＞

静岡県立美術館は、平成 23 年に開館 25 周年を迎え、観覧者数累計も 500 万人を超えた。本県文化振興における一層の貢献が求められる一方、施設の老朽化や来館者数の伸び悩みなどの課題も抱えている。フレンドシップ協定やムセイオン静岡等、他施設や地域との連携など、果たすべき役割も幅広く求められるようになっている。

本年度、県庁では一層効果的な美術館運営を推進するため、以下の項目について、美術館と連携して実施する。

１　効果的な美術館評価システムの構築

（１）評価システム推進委員会」の設置

評価システムを美術館運営の中核に位置付け、推進するための組織として、新たに「評価システム推進委員会」を設置し、評価システムの効果的な推進を図る。

（２）評価システムと連動した計画の策定及び予算・組織調整

美術館の自己評価及び第三者評価を踏まえた次年度の方針や事業計画を基に、予算・組織調整を行う。

２　中長期的視点に基づく計画の策定

（１）中長期計画の策定

県立美術館開館 30 周年及びロダン没後 100 年を迎えるにあたり、これまでの事業や美術館評価への取組を踏まえ、中長期の目標設定を含めた事業計画の検討・策定を行う。

（２）文化振興基本計画との連携

第３期文化振興基本計画の策定にあたり、県の文化政策において美術館が果たすべき役割等を含めて検討する。

（３）美術館施設の適切な管理

長期的に施設を維持管理するため、中長期修繕計画を策定し、計画的な修繕工事の実施を行う。併せて計画に基づいた予算要求を行い、必要な修繕の確実な実施を図る。

３　他施設及び地域等との連携

（１）有度山フレンドシップ協定の活用

協定を締結した５施設において､相互の来館者等の増加につながるよう連携をより強化し、効果的な広報等を検討する。

（２）文化関連事業及び県内文化団体との連携

ＳＰＡＣやグランシップ等他の文化施設と連携した鑑賞プログラムを実施し、子どもたちが本物の文化に触れる機会を提供するとともに県立美術館の利活用を図る。

Ⅳ

今後の評価の進め方（案）

Ⅰ　県立美術館自己評価システムの改善

Ⅱ　第三者評価委員会の進め方

今後の評価の進め方（案）

1　県立美術館自己評価システムの改善

昨年度の第三者評価委員会からの意見、ガバナンスワーキング評価検討委員会の検討状況を踏まえ、平成 25 年度から運用を以下のとおり改善する。

（１）評価システム推進委員会の設置

・評価システムを美術館の運営の改善の中心に位置付け、効果的に推進するための組織として新たに「評価システム推進委員会」を設置する。

・役割は、自己評価報告書の作成、展覧会・普及事業など美術館の取組に関する随時検証、次年度の方針・計画の策定など。

・総務課、学芸課からの選抜職員により構成し、館が一体となって取り組む体制とする。

（２）次年度方針・計画の検討体制の確立

・自己評価、第三者評価の結果を館の運営に的確に反映させるため、夏期に次年度の方針や計画を検討・決定する機会を設ける。

・検討結果は、様式（取組方針、実施計画、展覧会自己点検表（企画）など）に基づき、10 月初旬までに県庁に提出する。

（３）適切なスケジュールの設定

・評価システムを中心に、美術館の運営改善を進めるため、館の方針決定や事業実施と評価のタイミングを整合させる。(別添「年間スケジュール（案)」のとおり)

・特に、事前の随時点検を行うことにより自己評価報告書の作成時期を早めるとともに、自己評価・第三者評価の結果を、次年度の方針・計画決定に確実に生かせるよう、余裕を持ったスケジュールとする。

・また、美術館協議会は、館の諮問機関として、運営に関する助言を行うとともに、次年度方針等に対して検討・提言する場とする。

（４）中長期計画の策定

・平成 26 年度以降の方針・目標を設定するため、本年度、平成 26 年度から平成 29 年度（４年間）を計画期間とする中長期計画を検討・策定する。

２　第三者評価委員会の進め方

今後の第三者評価委員会の進め方について以下のとおり提案する。

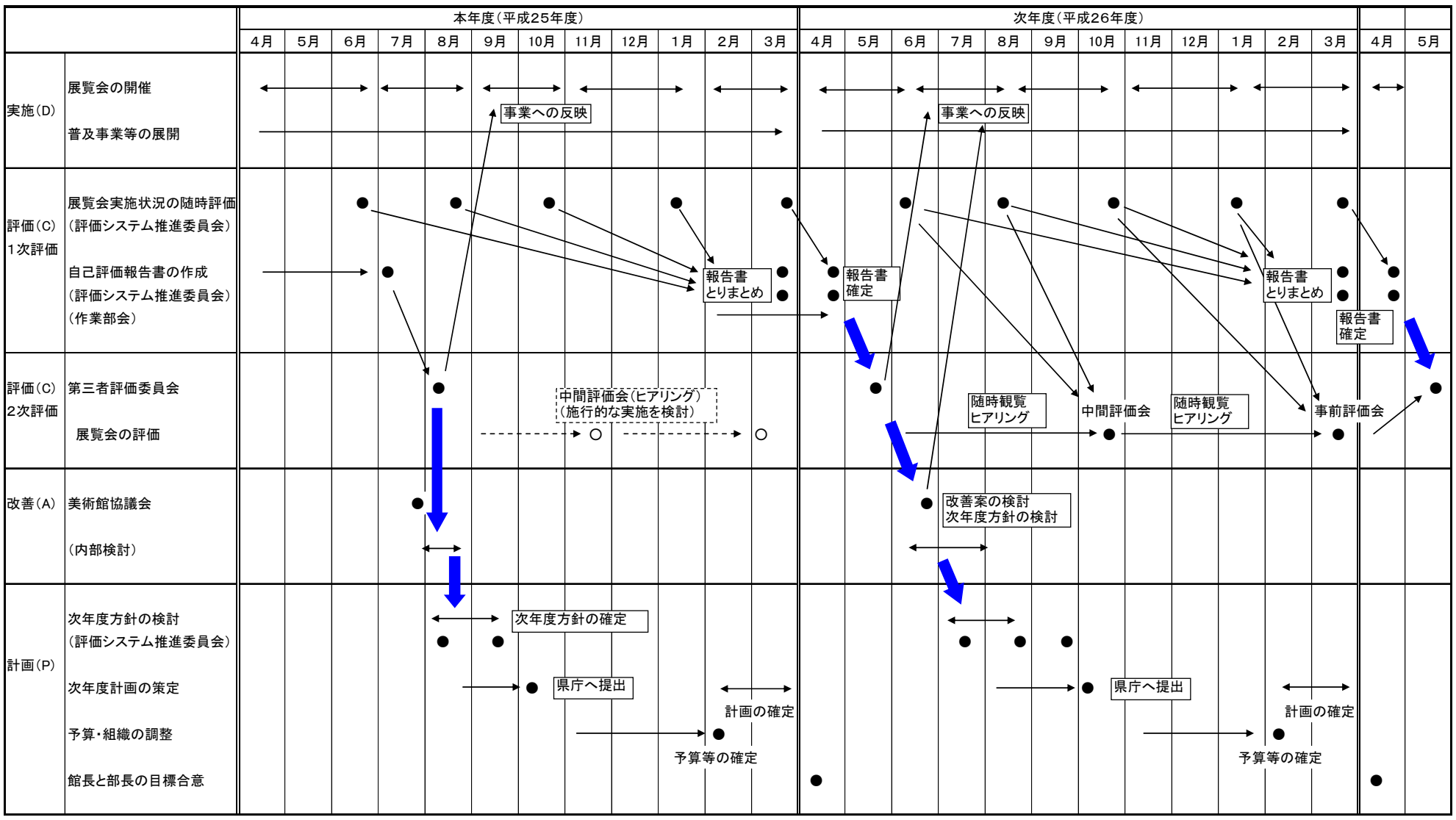
（１）評価項目、評価方法

	従前（～H24）	変更後（H25～）
評価項目	・自己評価報告書（１次評価）に対する２次評価 ・「県庁の支援体制」に対する１次評価（※実態は「県庁の支援体制」の自己評価を２次評価）	・自己評価報告書（１次評価）に対する２次評価 ・県庁の支援体制については、独立して評価するのではなく、**美術館事業の実施状況に即して、設置者としての取組をチェック**
評価方法	・年１回の委員会において評価	・展覧会や教育普及事業に関して、**現地調査を行う評価会を年２回開催**し、事前評価を行った上で全体会を年１回開催する ＜H25 は試行として参加可能な委員を対象に評価会を開催＞
	・自己評価報告書を基に、各委員が意見を陳述	・自己評価報告書を基に、**評価シートを用いて**各委員が評価 ＜H25 はシートを基に試行＞
	・委員会における意見を事務局が報告書にとりまとめ、各委員の確認を経て公表	・年１回の評価委員会において委員間で議論を行い、**評価を定める（※ＡＢＣ評価を行う）** ＜H25 はシートを基に試行＞

（２）平成 26 年度第三者評価委員会の開催

・適切な年間のスケジュールを確立するため、５月頃開催を予定

県立美術館 評価システム年間スケジュール（案）



内容に関する問合せ先
静岡県文化・観光部文化政策課
〒420-8601　静岡県静岡市葵区追手町 9 番 6 号
TEL 054-221-3506
静岡県立美術館総務課
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田 53 番 2 号
TEL 054-263-5755